



能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋 0-36393
購読料 1年1000円
郵送の場合 1年1500円
— 部 90円

薪能は8月8日

能楽協会名古屋支部 平成4年度4公演

能楽協会名古屋支部主催による
平成4年度の演能は、熱田祭奉納
館、名古屋新館、大衆館、歳末助

け合い協賛能の四公演が予定されて
いる。その日程は次のとおり。
。熱田祭奉納能 六月五日(金)
。第二十七回名古屋新館 八月八日(土)
。大衆館 九月五日(土)
。歳末助け合い運動協賛能 十二月六日(日)
各会ともそれぞれ能三番上演の
予定。
なおきたる三月二十日、熱田神
宮能楽殿で行われる「日本能楽三
名古屋公演」は、喜多流能「清経」
(シテ長田鶴) 観世流能「羽衣」
(シテ久田徹三) 宝生流能「鞍馬
天狗」(シテ衣笠正宜) 上演。

能 楽 協 会 名古屋支部 能楽建設請願を報告

能楽協会名古屋支部(西村欽也
支部長)は一月三日午前十一時か
ら恒例の新年謡初式を熱田神宮能
楽殿で催し、支部所属能楽師約六
十人が参集、西村支部長の発声で
「四海波」を謡い平成四年の幕開
けを祝した。
ひきつづき楽屋で支部総会を開
き、西村支部長のあいさつについ
で、熱田神宮能楽殿運営委員会・
岡地幸雄委員長(熱田神宮権宮司)
から「平成三年の諸行事をつづか
なく遂行されたことを慶祝する。

名古屋市新し能楽堂建設とい
う嬉しい話を承っているが熱田神
宮としても能狂言が日本伝統の文
化としてあらゆる場所でご活躍を
願っており心をこめておよろこび
申し上げたいとあいさつがあった。
報告事項として十九万八千人の
「名古屋に能楽堂を」の要望署名
を十二月三日、市議会議員に請願
が発表された。(関連記事①②)
とくに名古屋新館は八月第一土
曜日恒例であるが、本年は宮ま

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

- [平成4年1月]
 - 15日(祝) 名古屋清韻会大会 (来場歓迎)
 - 18日(土) 青陽会定期能 (有料)
- [2月]
 - 2日(日) 宝生会定式能 (有料)(番組④面)
 - 9日(日) 観世会定式能 (有料)(番組④面)
 - 11日(祝) 助川龍夫師道40年記念能 (有料)(番組④面)
 - 16日(日) 観世九息会定式能 (有料)(番組④面)
 - 23日(日) 内藤泰二師をしのぶ会 (有料)
- [3月]
 - 1日(日) 大蔵狂言会 (来場歓迎)
 - 8日(日) 梅嶺 (有料)
 - 14日(土) 福山大学能楽部30周年記念能 (来場歓迎)
 - 15日(日) 藤田道善能寛吟会 (来場歓迎)
 - 20日(祝) 日本能楽会名古屋公演 (有料)
 - 22日(日) 壺泉会大衆会 (来場歓迎)
 - 28日(土) 名古屋能楽鑑賞会 (有料)
- [4月]
 - 4日(土) 青陽会定式能 (有料)
 - 5日(日) 青名雅集 (来場歓迎)
 - 11日(土) 朋朋 (来場歓迎)
 - 12日(日) 観世会定式能 (有料)
 - 18日(土) 観世 (来場歓迎)
 - 19日(日) 邦久 (来場歓迎)
 - 26日(日) 田正 (来場歓迎)

平成4年1月・2月放送予定

- [1月] NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)
 - 1月19日(日) 宝生流「竹」 宏保 忠利
 - 1月26日(日) 観世流「鉢」 木浦 保
- [2月] NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)
 - 2月2日(日) 観世流「海」 士梅 若万 紀 夫 綱六雄
 - 2月9日(日) 喜多流「巴」 香川 婚 祥 恵
 - 2月16日(日) 観世流「西行」 松本 根 祥 恵
 - 2月23日(日) 宝生流「鏡鼓」 松本 根 祥 恵

祝日能・NHK教育テレビ

- 2月11日午前9時~10時
 - ① 舞囃子の形式による「智恵子抄」 之丞 久
 - ② 狂言和泉流「隠」 野村 武 司 郎
 - ③ 一貫「鶴」 藤田 大 五 郎
- (放送予定につき変更の節はご理解下さい)

芸術院新会員に 茂山千五郎氏

狂言大蔵流、茂山千五郎氏は平
文化庁芸術院執行委員会は十二
月二日、演劇部門「能楽」で、第
四回梅若盛義ころみの会「留月
一古式」の演技で梅若盛義氏の芸
術賞受賞を決定、文部大臣に推
薦した。

梅若盛義氏 芸術院賞に

成三年度の会員補充選挙により芸
術院新会員に選ばれた。
茂山千五郎氏は父の故子作氏と
ともに親子で会員となった。

謹 賀 新 年

顧問	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
皇学館大学教授	神本行 隆	大蔵方	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流	大倉流
長谷晴男	藤田六郎兵衛	寛 一	梅田邦久	福井啓次郎	鬼頭喜太郎	井上松次郎	西村欽也	杉山勇夫	伴 明	大山 剛	露原通泰	岡地幸雄	岡地幸雄	岡地幸雄	岡地幸雄	岡地幸雄	岡地幸雄	岡地幸雄	岡地幸雄	岡地幸雄

熱田神宮能楽殿運営委員会

謹 賀 新 年

幽 詠 会 片山九郎右衛門	観 世 曉 夫	観 世 栄 夫	観 世 鏡 之丞	社団法人 鏡 仙 会	昭 門 会 観 世 元 昭	芳 伸	芳 宏	観 世 清 和	名古屋 観 世 会	名 古 屋 観 衛 会 山 本 勝 一	名 古 屋 正 花 会 山 本 博 通	藤 井 久 徳 三 雄	完 治 人	神戶市中央区熊内町二丁目二〇 電話(三二二)五一四四番	大阪国際フェスティバル能 梅 若 盛 義	鳳 鳴 会 武 田 志 房	幽 花 会 片 山 慶 次 郎	千 603 京都市北区小山下花ノ木町二 電話(四九二)一五三〇二番	名古屋 観 生 四 郎 会 野 村 四 郎	東 京 都 杉 並 区 永 福 四 三 〇 一 一 〇 電 話 (三 三 三) 一 一 五 一 二 九 名 古 屋 千 種 区 日 和 町 四 一 〇 小 崎 方 電 話 七 五 一 一 八 八 〇 番
------------------	---------	---------	----------	------------	------------------	-----	-----	---------	-----------	------------------------	------------------------	-------------	-------	--------------------------------	-------------------------	------------------	--------------------	---	--------------------------	--

五月雅日記

(125)

充実感と安定感

えと文 二井 栄 逸

能の美のもっとも大きな要素は充実感と安定感である。また充実感とは緊張感と深い関係にあることを、私は謡の稽古をしながらいつも思うのである。

しかし、緊張感も身体の一部に集中してしまふと、凝りとなって誠に見苦しいものになってしまう。気が持たない張りのつめて、肉体が対応しなかつたり、また、その逆も同じことになってしまう。

全身ふっくらとした優美さに包み込まれる。

この時、一般にはやや前に傾いた姿勢を取る。腰を折つての前屈ではない。背筋をのばして重心を前かけるが、そのまゝでは安定しない。そこで腰を焦点にして、うしろに引きつける力のプラス、マイナスの均衡によって、充実した安定感が生まれるのである。



定感がそなわるのである。充実感と安定感のことは謡本の上欄に能のスケッチをかけた頃、先生(喜多実先生)からよく教えられたものである。絵でも同じことで、能面は、絵であると共に、

に能でなければならぬというきびしさが存在する。もちろ、その均衡は演者の自得の結果で、普遍的な基礎で律すべきものではないと思う。

(平成三年十二月十日記)

故幸 円次郎

師一周忌追善能

4月8日 国立能楽堂

昨春四月逝去された幸清流小鼓十四世宗家・幸円次郎師の一周忌追善能がきたる四月八日(水)東京・千駄ヶ谷 国立能楽堂

京の国立能楽堂で催される。入場料正面一万二千円、脇正面一万円、中正面八千円。申し込みは東京都中野区丸山二一四一―三三〇、幸義太郎方、電話〇三―三三三三―七五七三。番組は次のとおり。

追善能

平成四年四月八日午後一時開演

舞臺子 高砂 金春 信高 河村総一郎 金春惣右衛門
舞序散急之伝 柳原富司忠 藤田六郎兵衛

一朗八 島 金剛 嶽 横山 神一 本田 光洋
高橋 忍 高橋 汎

一調夜討曾我 宝生 英雄 野中 正和 後藤孝一郎

佐野 登 佐野 由於 辰巳 清次郎 島村 明宏
朝倉 俊夫 武田 孝史 佐野 玄宣
東川 光夫 延年之舞 宝生 関 幸 義太郎 一噌 幸政
野村 万作 野村 武司

追加

一調三井寺 梅若万紀夫 宮増 純三
一調三井寺 金井 章 大倉源次郎
一調三井寺 栗谷 菊生 幸 正彰
一調菅江 口 喜多六平太 藤田大五郎
一調一声小 督 親世 喜之 福井啓次郎
親世鎮之丞 後藤嘉津幸

舞臺子 獅 子 藤原 崇志 助川 明治
舞臺子 羽 衣 親世 清和 福井 良久 寺井 啓之
狂言 野村万之丞 野村 万作 中谷 明治

後見 三川 英雄 高橋 巨 小倉 敏克
渡辺他賀男 全井 泰行 大坪喜美雄

後見 野村 史高 吉積 史高 小野里 修
遠藤 六郎 地蔵 清水 寛二 山本 真之
後見 野村 史高 吉積 史高 小野里 修
遠藤 六郎 地蔵 清水 寛二 山本 真之

後見 野村 史高 吉積 史高 小野里 修
遠藤 六郎 地蔵 清水 寛二 山本 真之

能道成寺

一調三井寺 梅若万紀夫 宮増 純三
一調三井寺 金井 章 大倉源次郎
一調三井寺 栗谷 菊生 幸 正彰
一調菅江 口 喜多六平太 藤田大五郎
一調一声小 督 親世 喜之 福井啓次郎
親世鎮之丞 後藤嘉津幸

名古屋観世九臈会
観 世 喜 之

財団法人 鎌倉能舞台
中 森 晶 三
中 森 貫 太

山 本 真 賀
山 本 章 弘

壺 泉 会
泉 嘉 夫

武田謳楽会
武 田 欣 司
武 田 邦 弘

名古屋橋岡会
名 古 屋 橋 岡 会

名古屋淡交会
橋 岡 慈 観
瀬 戸 三 津 子

初陽会
武 田 宗 和

松音会
泉 泰 孝
泉 雅 一 郎

下田雄三
雄 哉 中 部 地 区 連 合 会

大垣浦声会
大 垣 市 竹 島 町 善 念 寺
住 所 京 都 市 左 京 区 下 鴨 芝 本 町 五 八

梅若善高
梅 若 善 高

邦謡会
須 部 一 政 甫
清 沢 美 和 熙
今 田 美 和 熙
本 田 美 和 熙

生韻会
山 中 義 滋

春鶯会
梅 若 善 高

上田観正会能楽堂
上 田 観 正 会

上田観正会
上 田 観 正 会

上田観正会
上 田 観 正 会

能と狂言に親しむ会
能 と 狂 言 に 親 し む 会

梅田邦久
梅 田 邦 久

藤田六郎兵衛
藤 田 六 郎 兵 衛

竹翠会 若松宏守
竹 翠 会 若 松 宏 守

能と狂言に親しむ会
能 と 狂 言 に 親 し む 会

梅田邦久
梅 田 邦 久

藤田六郎兵衛
藤 田 六 郎 兵 衛

尾張能楽の名人・上手二ぼれ話(一)

小島 廣次

「技」(わざ)をとまなう諸道... 諸道・諸職には、いづれも名人と上手とが称される者が必ずいる。もともとは名人と上手とは天地雲壤の差があるようではあるが。...

録によると、九歳の時、はじめに織田信長の次男信雄の「江口」を打っている。大鼓は松田忠五郎、笛は伊藤安中、序のヨロシで安中が笛を吹き入れたのを、九歳の豊勝が「ハキト矢ヲ射ケ、拍子ヲ教ヘラレテレバ、笛ソレニ付テ拍子ヲ直ス。奇妙不思議ト、聞ク人感ズ」というのだから、その神童ぶりが察しられる。...

Table with multiple columns listing names and addresses of members and associations. Includes entries like 久田観正会, 賀水会, 加賀敏彦, 芳園会, etc.

名古屋宝生会定式能(第136期)

二月二日(日)午後一時始

能八 佐藤 耕司 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能島 飯沼 雅介 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能采 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能女 飯沼 雅介 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能狂 井上 裕一 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能袍 井上 裕一 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能落 井上 裕一 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能倉 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能白 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能後 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能附 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能祝 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能廿 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能五 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能世 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能左 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能近 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能追 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能公 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能演 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

能清 高安 勝久 後藤 嘉津幸 藤田 六郎兵衛

狂言川 上 野村 三郎 野村 信行

能江 口 野村 三郎 野村 信行

能上 福王 十郎 野村 信行

能追 高安 勝久 野村 信行

能加 高安 勝久 野村 信行

能助 高安 勝久 野村 信行

能龍 高安 勝久 野村 信行

能夫 高安 勝久 野村 信行

能斯 高安 勝久 野村 信行

能道 高安 勝久 野村 信行

能成 高安 勝久 野村 信行

能寺 高安 勝久 野村 信行

能三 高安 勝久 野村 信行

能狂 高安 勝久 野村 信行

能言 高安 勝久 野村 信行

能桶 高安 勝久 野村 信行

能酒 高安 勝久 野村 信行

能唐 高安 勝久 野村 信行

能一 高安 勝久 野村 信行

能調 高安 勝久 野村 信行

能道 高安 勝久 野村 信行

能成 高安 勝久 野村 信行

能寺 高安 勝久 野村 信行



豊嶋の会 三 千 春

金剛流 松野 恭 憲

松野 洋 樹

金剛流 景雲 会

国際能楽研究会 (I.N.I.)

宇高通成後援会

宇高通成面乃会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

宇高通成後援会

春 敲 会 金 春 晃 実

金 春 穂 高

廣 瀬 瑞 弘

名古屋金春会

林 鉄 郎

近 藤 修 彦

渡 部 道 三

伊勢金春会

喜多流

和 楽 会

和 谷 衡 市

喜多流十六世宗家

喜多六平太

大阪喜多会

和 島 富 太 郎

和 島 富 太 郎

和 島 富 太 郎

和 島 富 太 郎

和 島 富 太 郎

和 島 富 太 郎

二 井 栄 逸

長 田 曉 後 援 会

高 安 会

西 村 欽 也

高 安 勝 久

飯 富 雅 介

杉 江 元

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎

福 王 茂 十 郎



豊嶋十郎
〒211 松戸市下矢切五五一五
電話(〇四七三)〇一九八二

谷田宗二朗
〒603 京都市北区衣笠街道31-7
電話(四三三)八三三(会室)八三三

宝生哲
〒270 松戸市牧ノ原2の1
市営住宅1の116号
電話(四三三)八五一八一九〇番

高安流岡同門会
清水利直 高坂康弘 森晴蔵 北野三郎 塩田耕三 中川湖弘 伊藤久舟 谷口雅信

龍吟会
藤田六郎兵衛
名古屋市中区堀下二丁目一〇番九号
電話(〇五二)五七一五七六三

大倉源次郎
〒584 大阪府吹田市
江坂町五一七-二

森田光春
京都市東山区八坂上町三七六

亀井俊一
保忠雄 保雄

幸友会
幸友能 福井啓次郎 福井良久 福井良治 柳原富司忠

桂会
後藤孝一郎

富耀会
柳原富司忠
〒606 名古屋市中区昭和区山里町七四
八事パーク・マンション五二五
電話(八三三)〇三三二番
小鼓教室
名古屋市中区栄 朝日神社内
(丸善前)

瀬尾乃武
〒171 東京都豊島区西池袋1-30-10-105

谷口正喜
京都市上京区中立売通室町西入
室町スカイハイツ610号

飯島佐之六
〒920 金沢市香林坊2-8-17

呉竹会
寛三男 寛鈇一

叶石会
河村総一郎 河村真之介
466 名古屋市中区前山町一丁目二三
電話(〇五二)七六一四八八二
河村大
602 京都市上京区仁和寺街道千本西入
コスモトキテイ四〇二号
電話(〇七五)四六二四一一五

吉田定男

前川光隆 前川光長
京都市右京区御室芝橋町一の六
名古屋種古場 名古屋市中区英二13-3
ツインクルガーデン前野舞台
電話九三二二八八〇六番

長生会
鬼頭喜太郎 好信
大鼓方 鬼頭英二
愛知県中島郡平和町城西
電話(五七)〇一九六〇番

助川龍夫 助川治
〒453 名古屋市中村区下米町3-27
電話(〇五二)四五一九六一二

青春流太鼓
青耀会
上田悟
〒580-02 和泉市光明台三丁目15-25
電話(〇七二五)八五二一
名古屋 名古屋市中区丸の内二二三
積古場 名古屋市中区丸の内二二三
電話(〇五二)二〇一四〇三五

大蔵狂言会
大蔵彌右衛門 大蔵彌太郎 大蔵吉次郎
〒215 川崎市麻生区岡上四三八一
電話(〇四四)九八七-一八七番

茂山千五郎 茂山正義 茂山真吾 茂山千三郎
京都市上京区中筋通り石薬師上ル

名古屋和泉会
大垣狂言の会
和泉元秀

名古屋和泉会
狂言共同社

狂言やるまい会
野村又三郎
〒460 名古屋市中区正木二丁目16-25
電話(三三三)七五五三番

能楽の友社

朝日カルチャーセンター
雛子教室
小鼓 後藤孝一郎
丸栄スカイル10階

演能写真
ウシマド写真工房
〒602 京都市上京区北野上七軒
電話(〇五二)一三四一番

ビデオ撮影
西川企画
〒451 名古屋市中区西区名駅
2-20-13 輪の内 小鼓方
電話(〇五二)五七一五八一六
〒500 岐阜市北野町20-1-2
電話(〇五八二)九八六九番

日本能面巧芸会
名古屋市中区東区一丁目15番23号
チサンマンション栄リバー
パーク八〇一号
電話(〇五二)九五三一〇九二

研能会
梅若万紀夫 梅若万佐晴

井上嘉久

大槻文蔵

栄能楽舞台
名古屋市中区栄五十六一四
電話(二六二)一一八三番

葵心庵舞台
尾張旭市東大道町原田二四九三ノ二
若杉ビル(旭市役所前)
電話(〇五六)一五〇二三四六番
能舞台 電話(〇五六)一五〇〇六九八

彰諷閣
名古屋市中区白区植田西二一八〇二二
電話(〇五二)八〇五三三〇一
連絡先 名古屋市中区鳴海町有松409
電話(〇五二)六二二一四三三八

楽諷庵舞台
名古屋市中区昭和区滝川町四七七八三
電話(八三三)七〇二番

邦能会
梅田邦久

幸清会
幸義太郎 幸昭

茂山忠三郎

年賀欠礼致します

〔お断り〕
年賀広告の掲載につきましては紙面の都合上、掲載は順不同です。ご理解賜りますようお願いいたします。

名古屋観世九奉会定期能(初金)

二月十六日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿
東 北 五木田武計 青木武弘

花月 杉江元 福井啓次郎 鹿取 希世
後見 佐々木勘輝 地謡 喜久 中野 宜夫
五木田武計 高橋 喜正 五木田三郎
井上祐一 高橋 喜正 駒瀬 直也

狂言 竹生島詣 佐藤 友彦 井上松次郎 後見 井上礼之助
老 松 佐々木勘輝
田 村キリ 高橋 喜久 中野 喜久
仕舞 高木美智子 地謡 喜久 中野 喜久
葛 船キリ 加藤 保彦 高橋 喜正 高橋 喜正
船 井 五木田三郎 高橋 喜正 高橋 喜正
駒瀬 直也

能雲林院 高安 勝久 吉田 定男 助川 龍夫
間 杉江元 柳原宣司 鹿取 希世
大野 弘之

附祝言 57 名古屋南区元垣町一七(加藤保彦方)
TEL052(六二)三六五九
当日券四千円 主催事務所 名古屋観世九奉会

紅梅記

平成三年回 願、受賞

本日の自分が何であるかを知る
こと、これがあらゆることの根
本だともいえる。頭の中を知
たと思うことは、本当に知った
ことではない。あらゆる行動の
中に、自然に自由にあられる
ように示されるのでなければ、
どんなことも本物とはいえない
。「わが人生観」、現代人生論
全集・谷川徹三集。

新年おめでとごさいます。
平成三年の名古屋能界が多彩で
あったことを喜ぶ。年末に狂言会
(名古屋能楽鑑賞会別会)があっ
た程である。

まず来名演者のことを。観世鏡
之丞・岡喜之・片山九郎右衛門・
野村四郎諸氏と宝生蘭氏・茂山千
五郎氏(前半、本年芸術院入り叙
勲)の活躍が平成三年の演能の幅

師走の舞台から(その一)

「第23回歳末助け合い運動協賛能」
「第5回久田徹二・能りサイタル」
竹尾 邦太郎

「鶴亀」シテ和。脇能の異色
直面である。さればこそ重要な中
にも清朗味を湛えたこの曲は、所
謂家元芸を見せる一典型とも目さ
れるもの。女流のシテには少々荷
が重過ぎた。陽であるべきを、絶
えず伏目がちだったので陰と出、
楽(がく)も派手なかつた。なお、
後見の組立大宮の扱いが荒っぽく
些か興醒め。(35分)

「巴」シテ幸江。へさる程に
暮れて行く日も、とワキ正を薄く
見渡し、消え(退い)てゆくタ
イミンクを計るかの心を見せる辺
微妙なだけに後場への思いを掻き
立てる。
アイ松次郎。所の人の細朴さは
装束(肩衣・狂言袴)にも表われ、
十分程の居語り、時に語部(か
たりべ)的の自己陶醉も見せて熱が
入る。後シテは黄大口に赤地唐織
並折、面は前同断の増、長髪・白
鉢巻。女流の武者者に何の不思議

の佳境が続くの喜ぶ。
この特記に地元の話題ともい
べき動きを組み合わせる。目
立つ模様(催し)を三つ挙げよう。
春の狂言共同社結成百周年記念の
会。秋の鬼頭氏と小鼓方福井家三
百年記念能の催しがそれぞれである。
共同社は明治中期、家元が上京の
あと、名古屋和泉流を守ること百
年。当日は東西五つ狂言会の大
表が参会。かつ祝いかつ祝われる。
百年の狂言芸には誇ることが山を
なす。盛大(名古屋市民会館)。
前述の鬼頭氏の会は喜太郎氏が
朝長・儀法の太鼓を打つ(シテ鏡
之丞、佳)。明治以来三回目の逸
話の上演(初回は鬼頭家)。今
後の当地太鼓方に同氏開眼の音を
期待する。福井家の能には金春流
・翁が舞われた。五つ的小書(翁
二つ、三番三つ)を持つ珍し
もの。翁さんの方は春の祭良春日
社頭の神事を思い出す。昔三月、
今五月で楽し。古風の上さ溢れる。
付、昨年末、十二月九日大槻秀

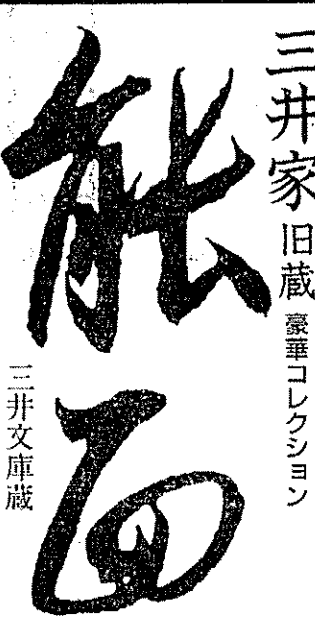
夫氏逝去。大正より十三・秀夫。
文蔵三代で名古屋観世流行の一角
を担い今に至る。ご冥福を。
視点を立て、印象に残る能。
狂言を少しく並べると、能は鶴亀
(観世元昭)・田村(同清和)・
朝長・儀法(同鏡之丞)に、通小
町(同栄夫・鏡)・扇曲(同喜之)
・賀茂(梅若盛儀、望月で芸術祭
賞)・花壇(関根祥六)・天鼓(片
山九郎右衛門、以上観世、みない
能にはふれず、お許しを)。藤戸
(宝生英照)。下懸りは佐渡と船
井慶(本田光洋、巻)、小銀治
(宇高通成、剛)。狂言は鶴牛(大
蔵弥右衛門)・呼声(千五郎)・
右近左近(おこさこ、茂山三郎)
・池蔵舞(山本東次郎)・鶴八提
(和泉元舞、元弥)・宗論(野村
名之丞ほか)など。
名古屋では梅田邦久氏が一回
地を去く。次に、狂言は井上松次
郎三番(末広・文蔵・福ノ神)が
秀逸。鳴子(祐・友)。花子(野
村又三郎古稀祝賀、万之丞・万作
と)は後半訴える処の障いのが不

実は妻に先立たれて一子を捨て、
遺世した深草少将を尋ねるため、
その一子を土車に乗せ、諸国を廻
るシテ伝(めのと)即ち守り役の
小次郎。その殊勝さを長田鶴熱演
するも、女児の子方との運命や掛
合には自ずと限界があつて力盡
揮とは言えなかつた。ただ、意地
悪なアイ善光寺如来堂の堂守・友
彦との問答には一歩も退かぬ強さ
をみせ、狂言地(宗生・了一・叫
二ら)で、へ千万も亡び、とサシ
込ヒラキ、へ独り寝かせ給ふか、
とアイを強く指す型など心持充分
だった。主従身投げの処で、シテ
は左手を子方の肩に置き、右手の
扇で右袖を押さるが、寄り添う姿
にやうとシテと子方との一体化が
見えてはつとした。しかし、取っ
て付けたような入水間一髪の子方
再会の呆気なきなど、稀曲の速因
である。(54分)

「船井慶・前後ノ替」道行を
省き、ワキ・アイの問答も抜く。ア
イはシテのワカの後に出た。近頃
の「船井慶」は大方がこうであるが
時間短縮のためとしか思えない。
シテ邦久・面若女・襟白赤・白
摺箔(観世水文様)・紅白段唐織
滴である。信行君成長。
さて、一年の流れ(推移)を小
考してきたが、近い将来のことに
ふれておきたい。それは狂言の分
野について、即ち共同社のことだ
である。現在も半ば以上中心で活躍
している三人、井上祐一・佐藤友
彦・大野弘之。三氏が次の時代を
背負っている確信を得たことだ
である。三人三様しかも一体となっ
て、丁度「三本ノ柱」のように、
進まれたい。切に願う。
それと次の次の時代を受け持つ
三青年が東京芸大に入学して自分
の道を修得している由(衣裳正宜
氏息郷志・井上晴浩・野村信行)。
大小の修練を重ね給え。
共同社が受賞する事もお伝えし
なくてはならない。観世寿夫記念
法大能楽賞受賞と決定。新春一月
二日に受賞式。めでたし。これ
で狂言共同社結成百周年に当たり
つよい事(記念狂言会と受賞)が
重なる。もう一つ、筆頭松次郎氏
が百年の狂言記録集をこつこつ

無限表情

重要文化財・重要美術品など、
幻の三井文庫の能面「の全貌を、
原寸大で初めて一挙に紹介。
三井家旧蔵豪華コレクション



責任編集 清水眞澄 (成城短期大学教授)
三井文庫の能面は、重要文化財4点、重要美術品10
点を含み、量ともに第一級コレクションでありな
がら、現在までほとんど知られていません。今回
その凄絶な美の全貌を、全55点すべて新規撮影の迫
力ある原寸大写真で余すところなく紹介しました。
一面につき原則として2点以上の写真を収録。特に
主要な能面は、舞台上での能面の多様な変化がうか
がえるよう正面・斜め・横などさまざまな角度から
多面的に、また、能面の作者や山緒を証明するもの
として大変興味深い裏面の写真も全点掲載しました。

●女——(能面作品15点) ●日本の能面
●男——(能面作品12点) ●能の宗教性
●翁——(能面作品8点) ●能面の表情と美
●附——(能面作品5点) ●作品解説——三井文庫の能面
●鬼神——(能面作品3点) ●オモカゲと花能面の写と修復
●1冊25,000円(税込)
1月下旬新発売・予約受付中

流金剛流 宗家本発行 檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話03(3291)2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話075(231)1990 振替京都1-113

能楽の友

発行 能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 0-36393
購読料 1年1000円
郵送の場合 1年1500円
部 90円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

(2月)

23日(日) 内藤泰二師をしのぶ会 (来場歓迎)(番組①面)

(3月)

1日(日) 大 蔵 狂 言 会 (来場歓迎)(番組①面)

8日(日) 梅 嶺 会 (有料)(番組①面)

14日(土) 福山大学能楽部30周年記念能 (来場歓迎)

15日(日) 藤田道善能楽吟会 (来場歓迎)(番組②面)

20日(祝) 日本能楽会名古屋公演 (有料)(番組②面)

22日(日) 壺 泉 會 大 會 (来場歓迎)(番組③面)

28日(土) 名古屋能楽鑑賞會 (有料)(番組③面)

(4月)

4日(土) 青 陽 會 定 式 能 (有料)

5日(日) 名 雅 會 會 能 (来場歓迎)

11日(土) 名 雅 會 會 能 (来場歓迎)

12日(日) 世 會 定 式 能 (有料)

18日(土) 世 會 定 式 能 (来場歓迎)

19日(日) 邦 友 會 會 能 (来場歓迎)

26日(日) 久 田 會 會 能 (来場歓迎)

29日(日) 幸 友 會 會 能 (来場歓迎)

(5月)

3日(祝) 豊 水 會 大 會 能 (来場歓迎)

5日(祝) 豊 水 會 大 會 能 (来場歓迎)

10日(日) 名 古 屋 會 會 能 (有料)

16日(土) 名 古 屋 會 會 能 (有料)

17日(日) 狂 言 會 會 能 (有料)

23日(土) 狂 言 會 會 能 (来場歓迎)

24日(日) 狂 言 會 會 能 (来場歓迎)

30日(土) 狂 言 會 會 能 (来場歓迎)

31日(日) 春 季 淡 交 會 別 會 (有料)

(演能変更の節はと了解下さい)

日本能楽会 新会員加入

久田徹二、衣笠正宜
長田勝、柳原富司忠4氏
重要無形文化財能楽総合指定保
持者で組織される「日本能楽会」
は、平成三年度に七十名が新たに
会員になった。能楽協会名古屋支
部関係で新たに総合指定保持者と
認定された方々は次のとおり。

特別鑑賞能

3月20日 熱田能楽殿で
社団法人日本能楽会主催、文化
庁、能楽協会後援の「能楽特別鑑
賞会」は三月二十日、熱田神宮能
楽殿で催される。午前十一時始
演。この日本能楽会公演は、重要無
形文化財総合指定保持者で構成さ
れる日本能楽会の会員を主体とし
行われるもので、名古屋公演は昭
和五十七年、昭和六十年につい
で六年ぶりの公演である。

京都 広田後援会能

4月5日 金剛能楽堂
広田後援会主催の春季
公演は四月五日、金剛能
楽堂で能「花月」「山姥」
を上演する。午後一時半
始、番組次のとおり。

名古屋に公立能楽堂を!!

建設請願を採択

1月13日 名古屋市議会議
経済教育委で

名古屋地区に市立の能楽堂を
との要望は、本紙既報のように能
楽愛好家の会(世話人代表北村利
弥氏)能楽協会名古屋支部(支部
長西村欽也氏)が中心となり、建
設請願署名運動を展開、十九万九
千八百人の署名を達成し、旧うら
三日名古屋市議会議に請願が行われ
た。この請願は、一月十三日開かれ
た名古屋市議会議経済教育委員会
(藤田修三委員長)で審議され、
全会一致で採択された。

採択に先立って質疑のなかで、
能楽堂の建設予定地の質問に対し
て市当局では「名古屋城と一体整
備を図るため名城周辺にできるだ
け近い地区を考えている」と答え
ており、建設の方向へ大きな一歩
をふみ出したといえる。

能楽愛好家の会では「本当に多
くの方々の熱意こもる署名運動の
成果が建設への軌道を敷くうえで
大きな力となっている。課題は多
いがまず山を一つ越えた感じであ
ります。これからの進展を注視したい。
各界の愛好者の方々に心から感謝
申し上げます」とあいさつしてい
る。

能「花月」(シテ広田陸一、ワ
キ岡次郎右衛門、笛杉村和、小鼓曾
和博朗、大鼓谷口正喜、間、茂山正
義、地謡今井清隆、宇高通成ほか)
狂言「口真似」(茂山千五郎、
茂山千三郎、木村正雄)
能「山姥」(シテ広田幸隆、ツ
レ広田泰能、ワキ谷田宗二朗、笛
光田洋一、小鼓曾和博朗、大鼓河
村大、太鼓前川光長、間、松本薫、
地謡金剛永謙、松野崇徳ほか)
入場券I前売四千五百円(当日
券五千円、学生券二千円)
広田後援会II電話075-75178
1-1885、3421-1
なお後援会秋期公演は十月四日
能「龍田」「黒塚」上演の予定。

大蔵狂言会・なごや会

三月一日(日) 十二時始

大蔵 教義	大蔵 布子	宮本 昇	大西 安春	河村美代子	松井 清子	村松 泰子	上野多佳子	河村 文字	立川 一枝
-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

内藤泰二先生 ぶ会

二月二十三日(日) 午前九時始

飯富 雅介	河村真之介	福井 良治	藤田 六郎兵衛	後見 衣笠 正宜	地謡 久保 一芳	林 合 剛 吉	水 上 優 地謡 鬼頭 純徳	伊藤 二葉	福井 敏次郎	藤田 六郎兵衛
-------	-------	-------	---------	----------	----------	---------	----------------	-------	--------	---------

名古屋梅猶会定期能

三月八日(日) 十一時三十分始

飯富 雅介	吉田 定男	柳原 富司忠	藤田 六郎兵衛	後見 梅若 善高	地謡 梅若 善高	谷口 光 俱	梅若 善高	池内 幸三郎	池内 幸三郎
-------	-------	--------	---------	----------	----------	--------	-------	--------	--------

附祝言

主催 名古屋梅猶会
●会員券五、〇〇〇円(全席自由席)
●会員券申込先 能楽殿・出演楽師・梅猶会事務所
熊沢恵美子(〇五二一七八二一九七三)

花 籠

後見 池内 光之助
井上 生香
地謡 梅若 善高
谷口 光 俱
梅若 善高
池内 幸三郎

泣 道

海 道 下 り 鯛
新 爽 淑 子
丹 羽 節
河 村 文 子
梅 本 道 子

尾張藩主四代目吉通は、宝永六年五月、家宣の將軍宣下の儀式に...

御中入 シテ 忠藏 大鼓 孫三郎...

狂言 素袍おとし 加左衛門 祝言 シテ...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

御中入 シテ 忠藏 大鼓 孫三郎...

狂言 素袍おとし 加左衛門 祝言 シテ...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

狂言 今まより 治兵衛 今まより 治兵衛...

尾張藩の能の歴史(十二) 辻 宏

二日目は、次のように記されている。...

同日二日快晴。出家・社家・山伏見物。...

同日二日快晴。出家・社家・山伏見物。...

定家 喜左衛門 又三郎...

狂言 山伏 茂兵衛...

狂言 山伏 茂兵衛...

狂言 山伏 茂兵衛...

狂言 山伏 茂兵衛...

狂言 山伏 茂兵衛...

狂言 山伏 茂兵衛...

狂言 山伏 茂兵衛...

狂言 山伏 茂兵衛...

網誠家督の折の二日目の能組...

討である。五番目の「乱」は「狸」の乱である。

壺泉会大会

三月二十二日(日)午前九時十五分始

熱田 神宮 能楽殿

能 碓

舞子 遊行 柳 柴田うた子

名古屋能楽鑑賞会公演

名古屋能楽鑑賞会

尾張能楽の名人・上手ごぼれ話(二)

小島 廣次

尾張の能楽シテ方の出発は金春の太夫神曲の次男八左衛門浄玄(浄元)からである。...

八左衛門浄玄は毎日々々朝六時から舞台へ出て、扇をさすことばかり稽古していたという。...

天保十年(一八三九)完成の随筆「扶草」にみえる金春八左衛門のエピソードを一つ。...

平成4年2月・3月放送予定

- (2月) NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
2月23日(日) 宝生流「鼓」 松本 恵雄
(3月) NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
3月1日(日) 親世流「園」 岡田 朗 詠 詠
3月8日(日) 宝生流「雲雀」 山朝 倉 太郎
3月15日(日) 金剛流「声」 刈 豊 島 訓 三
3月22日(日) 故人をしのんで(内容未定)
3月29日(日) 親世流「桜」 川 藤 波 重 和
祝日能NHK教育テレビ
3月20日(春分の日) 午前11時30分~
金剛流能「泰山府君」 金剛 巖

紅梅記

一年末年始、思い出小片

一月の末硝子起しの夕空が少し春めく。寒さに首をすくめて...

師走の舞台から(その二)

「名古屋能楽鑑賞会・別会」

竹尾 邦 太郎

「曇塗」シテ大名・祐一。姦計を見破った太郎冠者(第治)に呼ばれ、こっそり中座はしたものの、女(友彦)に呼び立てられ...

聖マリアの連袂の美しい折りが使筋を追う。誤りは許されたい。...

もう一つ、二三日にホリテートピックス「いま田楽が新しい」(NHK)をみる。...

この妻の勝ち気な性格を見るようになった。(44分)
「濯ぎ川」シテ男・千五郎、嫁(千三郎)と姑(正義)の絶え間ないブレッシャーに入り舞の辛苦が筆指の端々に滲み、いびられ、下男のように扱き使われては嫁と姑の争闘だけで怯えが走り、「アワワ」と逃げ隠れる。...

「大名のひなまつり」
徳川美術館では二月八日から四月五日まで、特別展「大名のひなまつり」展を開催している。...

「川上」シテ座頭・万作。十ヶ月前に眼疾で盲目になった由の鬼の世界だった。(38分)

昨年の私の思い出を少々。平成二・四月より三年三月まで、毎週「風姿花伝」の講義をきく。講師は表章氏(法大能研所長)。...

発行 能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18 (郵便番号 464) 電話 (731) 7984 振替口座 名古屋 0-36393 購読料 1年1000円 郵送の場合 1年1500円 部 90円

能楽の友

若い御二人の門出に ふさわしい結婚式場 名古屋 若宮八幡社 各種会合や宴会にも御利用下さい (駐車場完備) 名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

Calendar table listing dates and events from March to June, including '大泉会', '名古屋能楽鑑賞会', '青年会', '名世会', '久野会', etc.

(演能変更の際はご了承下さい)

演劇、音楽、古典芸能、舞踊などの分野で昨年すぐれた業績をあげた人たちに贈られる平成三年度(第四十二回)の芸術選奨文部大臣賞十五人と新人賞十一人が二月二十六日、文化庁から発表され、文部大臣賞・古典芸術部門で、銀野の日本芸術院会館で行われる。

平成三年度芸術選奨

文部大臣賞 観世鍔之丞氏

重要無形文化財能楽総合指定保持者で組織される「社団法人日本能楽会」はこのほど新会員を増員、能楽協会名古屋支部関係では新たに久田徹二、衣斐正宜、長田藤、柳原富司の諸氏(本紙既載)とともに藤田流流儀方・藤田六郎兵衛氏が総合指定保持者に認定されている。

日本能楽会新会員に 藤田六郎兵衛氏

徳川美術館狂言講座 「狂言に親しむ」 徳川美術館では、毎年好評を得ている狂言講座「狂言に親しむ」を平成四年度は四月二十四日から毎月六回にわたって開講する。

中日名匠鑑賞能

能「屋島」「千手」「土蜘蛛」

5月2日 愛知文化講堂

中日新聞社主催、文化庁後援の平成四年度「中日名匠鑑賞能」は

取扱い「中日サービスセンター」、能楽師宅、デパートブレイカイド、中日新聞文化事業部(電話〇五二二二二一〇七二九)

五月二日(土)愛知文化講堂で開催される。中日名匠鑑賞能はことし九回目。小春つき演能の特色をもち、今回は能三番が上演される。午後一時開演。能「屋島」大事(観世喜之、梅若盛彦) 能「千手」部曲之舞(観世清和) 舞獅子「海士」(観世元昭) 狂言「千鳥」(茂山千之丞、茂山千五郎) 能「土蜘蛛」黒頭(関根祥六) 前売り特別席(S席)一万二千円(当日一万三千円) A席一万円(当日一万一千円) B席八千円(当日九千円) C席六千円(当日七千円)

愛知県芸術選奨文化賞

大鼓 河村総一郎氏 受賞



大鼓石井流・河村総一郎氏は、このたび平成三年度愛知県芸術文化選奨・文化賞個人賞を受賞、三月七日愛知県庁講堂で授賞式が行われた。

「授賞理由」大鼓石井流に入門し、以来、大鼓ひと筋に研鑽を重ね、調和と品格のある大鼓方として高い評価を得ている。また叶石会主宰者として、後進の育成に尽くすなど本県芸術文化の振興と向上に貢献し、今後もその活躍が期待されている。

河村総一郎氏(本名・幸治氏)は昭和八年二月名古屋市に生まれる。昭和二十五年大鼓石井流に入門、二十六年大鼓初舞台、昭和三十年能楽協会入会、昭和五十三年重要無形文化財総合指定能楽保持者認定、日本能楽会会員。

名古屋の狂言面

名古屋狂言共同社による「共同社蔵による」

名古屋狂言共同社は昨年(平成三年)に創立百年を迎え、さきに「観世寿夫記念法政大学能楽賞」を受賞するなどその伝統と足跡は高く評価されているが、このほど共同社で所蔵する狂言面を「名古屋の狂言面」と題して写真集にまとめ出版された。現在共同社蔵にある狂言面は七十四面(黒色刷千々之尉、大黒夷、福の神、毘沙門、雷、武蔵、三十五面)。

青陽会定式能(第236期)

四月四日(土)十二時半始 熱田神宮能楽殿

能部

近藤 幸江 高安 勝久 高安 元安 高安 淳二 友彦 河村真之介 大池田 誠茂

能熊

仕舞 竹生 島 地謡 須山三津子 加賀 敏彦 高橋 一政 梅田 邦久 地謡 今村 嘉男 三村 恵子 小島 一英 飯富 雅介 柳原富司 鬼頭 英二 奥取 希世

能藤

後見 久野 徹二 地謡 加賀 敏彦 高橋 一政 梅田 邦久 地謡 今村 嘉男 三村 恵子 小島 一英 飯富 雅介 柳原富司 鬼頭 英二 奥取 希世

能狂言

後見 今川 雅和 地謡 須山三津子 加賀 敏彦 高橋 一政 梅田 邦久 地謡 今村 嘉男 三村 恵子 小島 一英 飯富 雅介 柳原富司 鬼頭 英二 奥取 希世

能藤

後見 梅田 邦久 地謡 今村 嘉男 三村 恵子 小島 一英 飯富 雅介 柳原富司 鬼頭 英二 奥取 希世

能藤

後見 梅田 邦久 地謡 今村 嘉男 三村 恵子 小島 一英 飯富 雅介 柳原富司 鬼頭 英二 奥取 希世

能藤

後見 梅田 邦久 地謡 今村 嘉男 三村 恵子 小島 一英 飯富 雅介 柳原富司 鬼頭 英二 奥取 希世

能藤

後見 梅田 邦久 地謡 今村 嘉男 三村 恵子 小島 一英 飯富 雅介 柳原富司 鬼頭 英二 奥取 希世

能藤

後見 梅田 邦久 地謡 今村 嘉男 三村 恵子 小島 一英 飯富 雅介 柳原富司 鬼頭 英二 奥取 希世

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!

舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつと満足いただける自信があります。

テレビ放送番組企画制作 テレビCM企画制作 録音ビデオ撮影 ビデオプロダクション 西川企画 名古屋営業所(〒451)名古屋市中区名駅2-20-3輪の内荘 小椋方 ☎(052)571-5816 (〒500)岐阜市北野町20-2 TEL(0582)63-9869

流 剛 流 宗 家 本 行 元



檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

電話(3291)2488-9 振替東京3-3552 電話(231)1990 録音 京都1-113

三月雅日記

(127)

複リズム

えと文 二井栄逸

律動的な動き、いわゆるリズムは、人間の一日の生きざまの中にも或る強弱をもって、常にくりかえされている。リズムカールに生かされる人は、つねに健康である。能の中にも素晴らしいリズムがある。そのリズムを生み出す音楽的要素は、ウタイとハヤシであり、又、舞踏的な要素は、能役者の動きである。

概にはいえないが、それは、能の演出関係にもよるし、演者の意図にもよるが、どちらかと言えば、音楽的要素に重みがかかる事が多い。それは、能が劇であり、劇の中核は言葉であることから来ている。ただ、その音楽的要素の特色は、簡単に説明しにくい。ウタイやハヤシについても、そ

の構造は複雑であり、複雑なだけに味わえは味わうほど興味が湧いてくるものである。

能の拍は一定間隔に配置された強弱の波ではない。それは、一定の節度の繰り返しであるが、常に不等間隔であり、それでいて絶対に無規範なものではない。



武田志房 狂言「秋大名」(茂山千五郎、茂山千三郎、網谷正美) 能「羽衣」和合之舞(シテ観世清和、ワキ西村欽也、ワキツレ高安助、笛藤田六郎兵衛、小鼓・柳原富司忠、大鼓・河村真之介、太鼓・鬼頭喜太郎、地謡・藤井完治ほか)

大垣・スイトピアセンター落成

オープン記念「鑑賞能」

4月11日 観世宗家ら来演

大垣市では、市民文化の創造と生涯学習の拠点の中核施設「スイトピアセンター」をこのほど完成、そのオープン記念行事として、四月十一日、大垣市文化会館大ホールで「鑑賞能」が開催される。今回の鑑賞能には、観世流宗家・観世清和師 人間国宝・茂山千五郎、観世宗家 人間国宝・茂山千三郎、観世流宗家 人間国宝・藤井完治ほか、五郎師が来演、武田志房、武田宗和、中川雅章の諸師により、能二番、狂言、舞踊子、仕舞が上演される。主催・古典芸能鑑賞会、後援・大垣市教育委員会、入場料二千円(前売り)開演午後一時半。演能は次のとおり。

法政大学能楽賞

狂言共同社受賞

赤坂プリンスホテルで名古屋を本拠とする和泉流狂言師の結社「狂言共同社」は、平成三年度の観世流夫記念法政大学能楽賞を受賞(本紙十二月既報)、一月二十一日東京・赤坂プリンスホテルで授賞式が行われた。(写真は能楽賞を受賞する狂言共同社代表・井上松次郎氏(右))

伊勢一色町の能面41点

三重県有形文化財に指定

伊勢市一色町では、既報(本紙二月号)のように毎年一色神社奉納能が行われるが、一色町能楽保存会(事務局長土屋修八郎氏)には能面四十一と能装束八十領があり、そのうちの能面が二月十七日の三重県文化財審議会で三重県有形文化財として決定、三重県教育委員会に答申され、二月二十一日正式決定した。文化財として指定された能面は

創立二十周年記念 名雅会 大会

四月五日(日)午前九時始 熱田 神宮 能楽殿

素謡神

歌

藤井 昭道 千才内田 清志 地謡 松山幸親 中川江修一 須部 甫

素謡嵐

山

西田 敬一 伊藤 榮子 鈴木 信孝 林 宣幸 地謡 松山幸親 中川江修一 須部 甫

素謡俊

連吟 杜

若 村 北村 浩好 谷 康男 大石 原彦 木原 正覚 森 英子 内田 志子 島倉 たか 酒井 志子 吉村 千代子 猪野 間たづ

素謡花

連吟 鞍馬 天狗

飯沼 定男 河野 万機 森田 吉郎 河野 道信 小川 春枝 成 辰巳

素謡弱法師

連吟 玉之段

須部 正邦 須部 甫 須部 正邦 須部 甫

素謡高

舞踊子 花

野村 昌宏 河村真之介 鬼頭喜太郎 柳原富司忠 鹿取 希世

素謡子

連吟 鉄

輪 山丸 栄 田中 賀子 飯沼 敬子

素謡

仕舞 春

大 江 山丸 栄 田中 賀子 飯沼 敬子

素謡

連吟 花

飯沼 定男 河野 万機 森田 吉郎 河野 道信 小川 春枝 成 辰巳

素謡

連吟 鞍馬 天狗

飯沼 定男 河野 万機 森田 吉郎 河野 道信 小川 春枝 成 辰巳

素謡

連吟 玉之段

須部 正邦 須部 甫 須部 正邦 須部 甫

素謡

舞踊子 花

野村 昌宏 河村真之介 鬼頭喜太郎 柳原富司忠 鹿取 希世

素謡

連吟 鉄

輪 山丸 栄 田中 賀子 飯沼 敬子

素謡

仕舞 春

大 江 山丸 栄 田中 賀子 飯沼 敬子

素謡

連吟 花

飯沼 定男 河野 万機 森田 吉郎 河野 道信 小川 春枝 成 辰巳

素謡

連吟 鞍馬 天狗

飯沼 定男 河野 万機 森田 吉郎 河野 道信 小川 春枝 成 辰巳

素謡

連吟 玉之段

須部 正邦 須部 甫 須部 正邦 須部 甫

素謡

舞踊子 花

野村 昌宏 河村真之介 鬼頭喜太郎 柳原富司忠 鹿取 希世

素謡

連吟 鉄

輪 山丸 栄 田中 賀子 飯沼 敬子

素謡

仕舞 春

大 江 山丸 栄 田中 賀子 飯沼 敬子

素謡

連吟 花

飯沼 定男 河野 万機 森田 吉郎 河野 道信 小川 春枝 成 辰巳

素謡

連吟 鞍馬 天狗

飯沼 定男 河野 万機 森田 吉郎 河野 道信 小川 春枝 成 辰巳

素謡

連吟 玉之段

須部 正邦 須部 甫 須部 正邦 須部 甫

素謡

舞踊子 花

野村 昌宏 河村真之介 鬼頭喜太郎 柳原富司忠 鹿取 希世

附祝言

主催名 雅 会

尾張旭市旭台一―四一九 野村 昌宏 方 電話〇五六―一五三―二〇七〇

清沢 一政 中川 幸一 加賀 敏彦 古橋 朋信 地謡 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

加賀 敏彦 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鹿取 希世

加賀 敏彦 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鹿取 希世

加賀 敏彦 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鹿取 希世

加賀 敏彦 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鹿取 希世

加賀 敏彦 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鹿取 希世

加賀 敏彦 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鹿取 希世

加賀 敏彦 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鹿取 希世

加賀 敏彦 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鹿取 希世

加賀 敏彦 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

鬼頭喜太郎 鹿取 希世

三日目の能組は、次のようになつてゐる。
 源太夫、頼政、楊貴妃、土蜘蛛、乱
 吉通家督の折の三日目の能組
 加茂、頼政、定家、羅生門、乱
 「源太夫」は、地元熱田明神との関係から演じられたのであろう。「加茂」は、綱誠の二日目の能にも演じられたもので、当時は好まれた能の曲であつたのであろう。吉通の二日目の能として「加茂」を選んだのは、京都の守護する加茂の明神、別雷の神威で能を始め、宇治を背景とする平等院での「頼政」の悲劇的最後、かつて加茂の斎宮であられた式子内親王に対する「定家」の妄執、「羅生門」は、都を騒がす羅生門の鬼退治である。すべて、京都を主とする能を選んで、番組を構成することを考えたと思われる。

「羅生門」は、シテが一言も発しないめづらしい能であり、現行曲では、「室君」と二番のみである。他の能のシテ方が、主に、貞ノ丞、半平、喜左衛門が演じているのに、この「羅生門」のみが、シテ九右衛門となつてゐる。ワキが中心となる能であることから、シテ方の大夫は、付き合ひなかつたのであろうか。野上豊一郎著の『解説・謡曲全集』では、流派によつて、そうした習慣があつたと記してゐる。

である。狂言の番組を、綱誠の折と、吉通の折とを比較すると、次のようになる。
 綱誠の折の狂言
 一日目末広、飛越。二日目、御田、こんくわい。三日目ちぎり木、ねぎ山ぶし、女山だち。
 吉通の折の狂言
 一日目末広、今まいり、素袍おとし。二日目入間川、千鳥、米市。三日目鍋八はち、庭丁むこ、赤宜山伏。
 両者とも「末広かり」で始まるのは、祝言性をそなへてゐることから、うなずける選定である。それから三日目に、両者とも「赤宜山伏」を入れてゐるのは、三日目が、寺社、山伏などが、主に見物客を許されてゐるからである。綱誠の折の三日目の能が、「源太夫」であるのも、社家に縁のあるものとして、選んだのであろう。

尾張藩の能の歴史(十三)

辻 宏

狂言は、本来、能と能との間に演じられるので、中入りの時を除くと、三番が普通である。なにか綱誠の折には、演じられない事情があつたようである。『鶴鶴能中記』には、一日目は、「二色」。但し前の書付には、喜左衛門が致相撲を仕る筈といへども相止。とあり、二日目は、「前方には福の神加左衛門、あわたい口、又三郎。此二色有筈といへども無之。」とある。二日目の「御田」は、「加茂」の替間として演じられるべきものであるから、「福の神」が、本狂言として演じられる予定であつたのであろう。さらに「あわたい口」が、加われば、「こんくわい」とで、三番といふことになる。一日目も「蚊相撲」が加わると、「末ひろ」「飛越」とで、三番になる。

「千鳥」や「米市」など、家来や庶民の哀感と笑いをさそう狂言である。
 両者の能・狂言の番組を通覧してみると、吉通の家督の折の方が、網誠の時よりも、曲の選定に、味わい深い配慮が見えるように思われる。
 表向き三日間の家督祝儀能を終えた吉通は、九月二日に、岐阜へ来て、鶴鶴見物を楽しんでゐる。「常は、十二疋の鶴といへども、今夜は廿一疋出。」と『鶴鶴能中記』に記してゐる。殿様は特別扱いといふことであらうか。同三日には、稲葉山にも登つてゐる。九月六日、名古屋城奥舞臺で、内証の御能が演じられる。これで、家督祝儀能は、すべて終ることになる。
 当日の能組は、次のようになつてゐる。

- 5月31日淡交会春季の大会
 「道成寺」上演
 演目三津子師が抜曲
 名古屋淡交会橋岡慈徳師主宰
 は五月三十一日(日)熱田神宮能楽殿で春季淡交会別会を開催、女流師範・瀬戸三津子師が「道成寺」を抜曲する。
- 大鼓 大鼓
 - 孫三郎 源兵衛
 - 小鼓 四郎兵衛
 - 四郎兵衛 六治郎
 - シテ 又三郎
 - ワキ 新七
 - 喜右衛門 大鼓
 - 大鼓 大鼓
 - 五兵衛 重兵衛
 - 小鼓 小鼓
 - 善四郎 善四郎
 - シテ 宇右衛門
 - ワキ 宇右衛門

- 淡交会春季大会
 3月29日 岐阜市民会館
 岐阜淡交会は三月二十九日(日)岐阜市美江寺町・岐阜市民会館で春季大会を開催する。
- 能「羽衣」和合之舞(シテ栗本 潤智子)能「熊野」村雨留(シテ 三品喜福、ツレ福代親子)
- 素謡「鶴鶴小町」(杉山正雄、河合正次)「定家」(平田文字、中島一美)ほか連吟、独吟、仕舞など。午前十時半始、来場歓迎。

- 観世会定式能(二回)
 四月十二日(日)十二時半始
 熱田神宮能楽殿
- 古橋 正邦
 山本 勝一
 替装束 佐藤 友彦
 間 河村真之介
 後藤孝一郎
 藤田六郎兵衛
- 蜘蛛 井上松次郎 井上 祐一
 後見 佐藤 友彦
- 弱法師 山本 順之
 井上 嘉久
 地謡 中川 雅章
 本田 雅章
 梅田 正邦久
- 善知鳥 西村 敏也
 吉田 定男
 柳原富司忠
 鹿取 希世
- 附祝言 主催名古屋観世会

- 名古屋猶諷会春の大会
 四月十八日(土)午前九時三十分始
 熱田神宮能楽殿
- 三輪 小林 博政 野々山 苑
 下郷みどり
 岸 稔子 日比野辰巳
- 弱法師 池内光之助
 吉田伊保子 岡田 晃一
 梅田 てる 井戸 和男
- 仕舞松 風キリ
 丸道行 安田つや子
 若クセ 安藤 恭子
 木下志げ子
- 象 阿田 朗詠 筑後孝一郎 鬼頭喜太郎
 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛
- 能舟 舟慶 飯富 雅介 河村総一郎 助川 竜夫
 前夜之替 杉江 元 福井啓次郎 藤田六郎兵衛
 大野 弘之

- 邦謡会・素謡と仕舞の会
 四月十九日(日)午前九時始
 熱田神宮能楽殿
- 〔御来聴歓迎〕
 主催 名古屋猶諷会
- 〔御来場歓迎〕
 主催 邦 梅田 邦 久 会
- 熊野 梅若 盛彦 地謡 梅若 盛彦 梅若 盛彦 梅若 盛彦
 梅若 盛彦 梅若 盛彦 梅若 盛彦 梅若 盛彦
- 遊柳 三木 秀雄 梅若 修一
 大浦 裕二 梅若 善高
- 善知鳥 武坂 静子 河村総一郎 鹿取 希世
 野松 守 宮田 英雄 小松 勝彦
- 融 藤田 慶子 福井啓次郎 鹿取 希世
 五段替之型
- 菊 菊池 紀子 河村啓次郎 鹿取 希世
 菊池 敏子 福井啓次郎 鹿取 希世
- 清 後藤孝一郎 鹿取 希世
 後藤孝一郎 鹿取 希世
- 附祝言 主催 名古屋猶諷会

平成4年3月・4月放送予定
 [3月] NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
 3月22日(日)故人をしのんで(藤波順三郎ほか)
 3月29日(日)観世流「桜」川 藤 波 重 和
 [4月] NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
 4月5日(日)観世流「放下」梅 若 盛 義 前 三 和
 4月12日(日)宝生流「采女」佐 野 欣 清
 4月19日(日)金春流「自然」居 土 金 春 欣 清
 4月26日(日)観世流「高砂」(再)観世 清
 祝日能NHK教育テレビ
 4月29日午前9時~10時15分
 能 観世流「放下」坂 井 音 重 晴
 沖組組頭「萬歳敵討」島 袋 光
 5月3日 休 止
 5月4日 能 喜多流「清経」友 枝 昭 世
 5月5日 休 止
 (放送予定につき変更の節はご理解下さい)

尾張能楽の名人・上手「ほれ話」

小島 廣次

四代目八左衛門具内のことにも『昔咄』はふれている。具内は十歳の時、父が死去したので、...

から附屬家老にまでなった玉置市ノ正直は例外中の例外であった。近松茂矩の「昔咄」によると...

「八鳥」シテ正宜。前場、ハなどか雲居に帰らざらん、と薄くテラシて通か速くを望み、次いで...

如月の舞台から(その一)

竹尾 邦太郎

『寶生会』と『観世会』に精彩をみせた。(27分) 「女官通解」によれば、采女の一...

「川上」シテ又三郎

和泉流でも旧態の万作のそれとは大いに趣が異なる。俄首でなく、眼疾は...

流剛元 金剛元 流剛元 世宗本 觀宗本

檜書店 101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話 03(3291)2488-9 振替東京3-3552

能樂の友

発行能樂の友社

名古屋市中區千種区千種2丁目18-18 (郵便番号 464) 電話 (731) 7984 振替口座 名古屋 0-36393

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

Calendar of performances at Atsuta Shrine. Includes dates from April to August and names of performing groups and artists.

日本芸術院(大丸直院長)は、三月二十三日、芸術の各分野で優れた業績のあった人々に贈る一九九一年度(第四十八回)の日本芸術院賞に十一人を内定した。

91年度日本芸術院賞

シテ方 觀世鍊之丞氏 受賞 ワキ方 宝生 閑氏

「清経」小書・披讀(シテ金剛殿、ツレ今井清隆、ワキ岡次郎右衛門、笛・森田光春、小鼓・横山貴俊、大鼓・谷口正喜)

岐阜県芸術文化奨励

シテ方 玉井博祐師受賞

岐阜県教育委員会は三月三日、九一年度の県芸術文化奨励と芸術文化活動等特別奨励の受賞者を発表した。

能「清経」小書・披讀(シテ金剛殿、ツレ今井清隆、ワキ岡次郎右衛門、笛・森田光春、小鼓・横山貴俊、大鼓・谷口正喜)

久田観正会春季大会

四月二十六日(日)午前十時始

Cast list for the spring festival, listing names and roles such as Waki, Utae, and various dancers.

幸友会春の会

四月二十九日(祝)午前十一時始

Cast list for the spring festival, listing names and roles.

御來場歓迎

久田観正会

御來場歓迎

高橋一

五月雅日記

(128)

象徴と集約

えと文 二井栄逸

能にシオリという所作が... 泣く時に手のひらを顔の前に... 持ってくる所作の事であり... 古典バレエのミームでは、手を...

一九世紀末、フランスには、高踏派や、自然主義の客観描写に対... 主観的情緒を象徴によって表...



異会大

五月五日(祝)午前十時始
熱田 神宮能楽殿

Table listing participants for the 'Ishi Kaikai' event, including names like 森重夫, 杉浦敏二, 後藤幸一, and their respective roles or performances.

Table listing participants for the 'Ishi Kaikai' event, including names like 船井慶子, 前加藤千顔, 長根三枝子, and their respective roles or performances.

Table listing participants for the 'Ishi Kaikai' event, including names like 熊野静代, 胡蝶原正枝, 坪井香澄子, and their respective roles or performances.

Table listing participants for the 'Ishi Kaikai' event, including names like 仕舞五ノ段, 富田正代司, 網ノ段, and their respective roles or performances.

〔御来聴歓迎〕 愛知那東郷町和合ヶ丘二丁目一五
電話(五三三)九一四八七

名古屋金春流友会

五月十日(日)午前九時始
熱田 神宮能楽殿

Table listing participants for the 'Nagoya Kinshunryu' event, including names like 仕舞 髪, 多田光宏, 後藤幸一, and their respective roles or performances.

Table listing participants for the 'Nagoya Kinshunryu' event, including names like 独鼓 小袖, 竹岡幸宏, 堀川 正和, and their respective roles or performances.

Table listing participants for the 'Nagoya Kinshunryu' event, including names like 仕舞 鹿, 加藤 正和, 武馬 正和, and their respective roles or performances.

Table listing participants for the 'Nagoya Kinshunryu' event, including names like 仕舞 鹿, 村ヶ瀬 赤広, 堀川 正和, and their respective roles or performances.

名古屋金春会公演
五月十日(日)午後二時始
熱田 神宮能楽殿

名古屋観世九草会定期能(二回目)

五月十六日(日)午後一時始
熱田 神宮能楽殿

Table listing participants for the 'Nagoya Kansei Kyusho' event, including names like 後見 河村 光洋, 地謡 杉浦尚三, and their respective roles or performances.

Table listing participants for the 'Nagoya Kansei Kyusho' event, including names like 独鼓 籠, 堀川 正和, 武馬 正和, and their respective roles or performances.

Table listing participants for the 'Nagoya Kansei Kyusho' event, including names like 仕舞 鹿, 加藤 正和, 武馬 正和, and their respective roles or performances.

Table listing participants for the 'Nagoya Kansei Kyusho' event, including names like 仕舞 鹿, 村ヶ瀬 赤広, 堀川 正和, and their respective roles or performances.

附祝言
主催事務所 名古屋観世九草会

宝永六年九月十八日の「鶴鶴籠中記」によると、次のように記されている。「御下やしきにて御能あり、御能も当番切斗、見物。」

弓八幡 シテ喜左衛門 ワキ牧
田宮 大鼓七左衛門
小鼓木村左内 太鼓十兵衛 笛加兵衛
頼政 シテ大野新之右衛門
ワキ忠蔵 大鼓五兵衛
小鼓警兵衛 笛喜十郎
揚貴妃 シテ水野空 ワキ遠山
治郎 大鼓三郎兵衛
小鼓千村源之丞 笛杉山主膳
熊坂 シテ小菅加内 ワキ勘左衛門 大鼓三郎兵衛
小鼓四郎兵衛 太鼓源兵衛 笛普三郎
芦 菊 シテ羽鳥甚右衛門 ワキ又三郎 大鼓孫三郎
小鼓九郎三郎 笛治兵衛
狸々 シテ高橋左門 ワキ宇右衛門 大鼓甚之右衛門 小鼓永井左衛門 太鼓成田友之丞 笛六治郎

尾張藩の能の歴史(五)

辻 宏 一

御能組 大夫宝生一座被為召、翁 高砂 東北 興服 弓八幡 御所望に、紅葉狩 放下僧」と記されている。期八時過ぎからやってくる。夜九時頃帰ったようである。長時間の演能と接待で、藩邸の武士達は、大変疲れたであろう。宝生一座が特に呼ばれていたのも、吉通の宝生流好みの影響であらう。先にもふれたが、田中半平は、この吉通の命によって、金春流から、宝生流に転じたのである。

正徳元年十二月三日吉通の子、五郎太(五代尾張藩主)の誕生祝賀能が、盛大に行われる。「二日快晴。辰半過御能始。御連枝様方御見物。如丑年。御樂屋奉行水野野太夫・越川伴右衛門。惣支度汁くづし二つ宛。大こん・いも・しめじ・牛房・水と和いり酒あへ・葉にんじん・するめ・香之物等御新納。」

御中入の間、御白洲の町人、強飯一包宛被下。其上に又段頭被下。一日に七百八人程の領りと云々。初と終に両度御徳明き御出、御目見有。……。

日の入前に御能終る。単人正舞台階懸り迄被出、御能初よと会釈有事、如去年々。御三家様の外は、笛鼓等の者、舞台に毛氈を敷て居す。江戸に而拾万石以上にてなければ、舞台を伴する事ならず。」(「鶴鶴籠中記」)

祝儀御能は、八時頃から始まり、夕方に終ったようである。中食には、汁もの、野菜の煮もの、するめ、番のもの、酒などが、武士達に配られている。一方、御白洲の町人達は、強飯一包、燻程度で、ずいぶん差があるようである。一日七百八人程とあるから、かなりの人数である。

御能を勤める雅子方は、毛氈を敷いて演奏したようである。祝賀の儀式能だからであろう。祝賀単人正が、舞台階懸りまで出て、御能初よと、会釈して、能が演下。

狂言 末広 三太夫 入間川 いづみ 千鳥 加左衛門

祝賀の儀式能の最初は、「高砂」(「鶴鶴籠中記」)

狂言は「末広」と、決まっているようである。綱誠家督の折と、吉通家督の折とも同じである。この他「道成寺」も、綱誠、吉通の家督の折の初日の能組に入っている。「道成寺」は、尾張藩の祝賀の儀式能の初日の演能になくはならない能であったようである。二日目以後の演能については、次回にゆずる。

なお、江戸では、十万石以上の大名でなければ、能舞台を作るこゝとが、許されなかったとある。(続く)

(筆者は岐阜市立女子短期大学教授)

平成4年度 青少年芸術劇場 四国・近畿で公演

文化庁主催の平成4年度の青少年芸術劇場公演は、七月に四国、近畿の四会場で開催される。

○七月二十七日 香川県善通寺市市民会館
○七月二十八日 愛媛県三瓶町文化会館
○七月三十日 京都府舞鶴市総合文化会館
○七月三十一日 和歌山県御坊市市民会館

上演は、金春流能「葛上」(出演はシテ方本田光洋、高橋汎、金春穂高、高橋忍、ワキ藤井松男、坂苗融、大鼓・辻芳昭、太鼓・小寺佐七)

和泉流狂言「紋相撲」(出演|| 野村万之介、石田幸雄、野村武司)

津島藤まつり

5月4日藤と能楽のひととき

津島の「藤まつり」にちなんで「藤と能楽のひととき」のテーマで、五月四日午後一時から天王川公園内公民館東側広場で、津島間

好会、学生能楽クラブにより、舞臺子、連吟、独調、独鼓の会が催される。

(住所変更)
ワキ方宝生流・森常好氏
新住所||東京都世田谷区世田谷一丁目47番12号(〒154)
電話〇三三三四二六四八五三

第35回狂言やるまい会公演

五月十七日(日)午後一時開演

蝸 牛	松田 高義	野村 友彦
簀 肩	野村 万作	井上礼之助
狂言 小謡	三題 野村又三郎	野村 武司
横 座	茂山千五郎	茂山千三郎
釣 針	野村 信行	野村又三郎

入場料 A券(正面指定席) 四千五百円
B券(脇正面指定席) 三千五百円
C券(階自由席) 二千五百円
・学生・外国人留学生割引千五百円
(階上自由席はやるまい会事務所のみ取扱)

入場券取扱い||県内プレイガイド チケットぴあ
(電話〇五二一三三〇一九九九)

やるまい会事務所
〒100 名古屋市中区正木二丁目16-25 (野村方)

平成4年4月・5月 放送予定

〔4月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
4月26日(日) 観世流「高砂」(再) 観世 清和

〔5月〕
3日(日) 休 止
10日(日) 観世流「突流」 盛戸 手 岡生田多 久英 陸 節
17日(日) 観世流「千流」 高野 物 狂 三郎 一世
24日(日) 金剛多 流「高野」 物 狂 三郎 一世
31日(日) 喜多 流「高野」 物 狂 三郎 一世

●祝日能NHK教育テレビ
4月29日午前9時~10時15分
能 観世流「放下僧」坂井 音 重
沖繩組踊「萬歳敵討」島 嶺 光 晴

5月4日 午前9時~10時
能 喜多流「清経」友 枝 昭 世

●祝日謡曲放送(ラジオ第2)
5月4日 宝生流「朝長」 長村 栗 三郎
5月5日 喜多流「田村」 村 栗 三郎

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

初陽会大会

五月二十三日(土)午前九時始

素 經	熱田 神宮 能楽殿
小 鍛	長谷川輝和 新井 和明
井 筒	波多野菊美 祖父江修一
千 手	久保慎一郎
松 風	三村 恵子 恒川 義明
大原御幸	高橋 正道 武田 志房
素 定	宮川美代子 岡 久広
能 清	河村真之介 柳原富司忠
碓 俊	成経 小川 博久 藤原 義一
雲 林	山本 一 河村真之介 柳原富司忠
花 月	大谷シズカ 河村真之介 柳原富司忠
素 遊 行	鈴木信太郎 藤井 完治
木 頭	立衆 高橋 一 立衆 清沢 一政 池田 上田 貴弘 義仲 関根 祥人 浅井 一元 地 龍
仕舞 舞 子	三井 寺 岩本美智子 河村真之介 柳原富司忠
舞 子	須磨源氏 鈴木 容子 河村真之介 柳原富司忠
舞 子	鞍馬天狗 武田 宗和 河村真之介 柳原富司忠
舞 子	御來場歓迎 主 初 武 田 宗 和 会 和

名古屋観衛会大会

五月二十四日(日)午前十時始

熱田 神宮 能楽殿

Table with columns for names, roles, and performers. Includes entries like 番外舞, 高, 舞高, 舞鶴, 舞松, 舞雀, 舞盛, 舞竜, 舞鳳, 舞鶴, 舞松, 舞雀, 舞盛, 舞竜, 舞鳳.

Table with columns for names, roles, and performers. Includes entries like 巻, 天, 融, 舞花, 舞鶴, 舞松, 舞雀, 舞盛, 舞竜, 舞鳳.

Table with columns for names, roles, and performers. Includes entries like 舞遊, 舞鶴, 舞松, 舞雀, 舞盛, 舞竜, 舞鳳.

〔御來場歓迎〕 主催名古屋観衛会 指導山本勝一

如月の舞台から(その二) 助川龍夫斯道四十年記念能と九草会

竹尾邦太郎

「乱・双ノ舞」へ蓋も浮み出で、と、ふわり華が上り、正中のツレ勝一が舞内のシテ六郎を招く。御酒と聞けば拾つて置かず、地(喜之・寛次郎)の裡に長身の六郎がゆらりと舞を離れる。酒好きの阿伴の呼吸が嬉しい。ハ内澄み渡る浦風の、と連吟するとシテはノ松林几に掛け、ツレが舞い出す。暫くそれを眺めていたシテは「乱」につられてその場で舞い出すが、その遠近の構図が美しい。舞いつつ舞台に入ったシテがツレに並ぶと、驚て安堵したようにツレは酔い伏す。それを尻目に舞い続けるシテ。相舞を挿んで二匹が戯れる観望ぶりが楽しい。(34分)

紅梅記

東本願寺能 二冊の本

三月末金剛家より昨秋装束費章受賞記念の本(平成四年三月)と四月六日の京都東本願寺能の二案内をいきたく。本の名は「初心不可忘」(金剛般若) 佳書(後述) 非完品。六日の能は東本願寺能舞台で金剛さんの羽衣・盤巻に片山九郎右衛門氏天鼓・舞鼓に茂山千五郎氏悪太郎がある。桜の季節である。金剛さんの羽衣は絶品、その上お東のあのすばらしい能舞台ときから上洛の心しきり。それにこれからは私がかつて訪ねる機会もないではないかと案ずると、矢も盾もたまらぬ数日が続く。ところが前日までの甲子園・選抜高校野球の雨の中の試合の多きで、六日大演目と相叶わずと沈んでいた。それが当日快晴しかも暖かい春の日。家内同伴で京都へ向う。途中伊吹山は霞んでみえる。京都駅前を東本願寺までまぶしい日射の中を急ぐ。寺門を入り、親切な寺僧に連れられて楽屋入り口まで案内される。寺内の一本の

観能メモは次号で。(野村広二)

流元 剛行 金流 宗本 世宗 流元

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話 03(3291) 2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話075(231) 1990 振替京都1-113

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年1000円
郵送の場合 1年1500円
— 部 90円

演能カレンダー

〔5月〕	
23日(土)	初陽会大会 (来場歓迎)
24日(日)	名古屋観劇会 (来場歓迎)
30日(土)	たまも会 (来場歓迎) (番組①面)
31日(日)	春季淡交会別会 (有料) (番組①面)
〔6月〕	
5日(金)	熱田祭奉納能 (来場歓迎) (番組②面)
7日(日)	熱田観劇会 (有料) (番組②面)
14日(日)	名古屋観劇会定式能 (有料) (番組②面)
20日(土)	叶石会・一編会 (来場歓迎) (番組③面)
21日(日)	名古屋宝生会定式能 (有料) (番組③面)
27日(土)	朋言也留舞会 (来場歓迎) (番組③面)
28日(日)	狂言也留舞会 (来場歓迎)
〔7月〕	
5日(日)	親世九事会定期能 (有料)
12日(日)	朝野村四郎名古屋公演 (有料)
18日(土)	親世会楽謡会 (有料)
〔8月〕	
8日(土)	名古屋新能 (熱田神宮境内)
9日(日)	青陽会能 (有料)
11日(火)	学生能の会日月例会 (来場歓迎)
29日(土)	衣裳正宣後援会能 (有料)
〔9月〕	
5日(土)	大衆能 (愛知文化講堂)
6日(日)	中日文化センター発表会 (来場歓迎)
13日(日)	親世会定式能 (有料)
19日(土)	九事会定式能 (有料)
20日(日)	宝生会定式能 (有料)
23日(祝)	鳳鳴会会大 (来場歓迎)
26日(土)	清淵会大 (来場歓迎)
27日(日)	和泉会 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了承下さい)

平成四年春の叙勲で、和泉流狂言方・野村又三郎氏が勲五等双光旭日章を受章された。

野村又三郎氏は、和泉流狂言野村又三郎家十二世当主。本名信次。十一世又三郎信英の三男、初舞台は五歳。昭和二十五年に十二世を襲名。狂言「やるまい会」を主宰。毎年東西一流の狂言師と共に、昭和六十年名古屋芸術特賞を受賞。

春の叙勲

勲五等双光旭日章

和泉流狂言方 野村又三郎氏(七)

この企画は名古屋能楽懇話会能楽鑑賞会、能楽友の会が主催、能楽協会名古屋支部、能楽愛好家の会の協力で開催、岩田はるみさんの司会で、能楽協会西村欽也名古屋支部長から経過報告。パネリストとして、演劇評論家・堂本正樹、能楽シテ方・金春晃典、芸団協専門研究員・佐藤克明、演劇家・名芸大教授・本島勲、声楽家・

熱田祭奉納能

6月5日能「経政」「三輪」

名古屋支部 (西村欽也) 支部長) 主催による「熱田まつり奉納能」は六月五日午前十一時から熱田神宮能楽殿で催される。能組は、宝生流能「経政」「三輪」流能「三輪」狂言「経政」

人間国宝 金春惣右衛門氏

文化財保護審議会(鈴木勲会長)は四月十七日、重要無形文化財保持者(人間国宝)に金春流太鼓方・金春惣右衛門氏を認定するよう文部大臣に答申した。

金春惣右衛門氏は太鼓金春流宗政大學能楽賞受賞。

新能楽堂への夢語る

名古屋能楽懇話会など主催 180人参加してフォーラム

「名古屋に公立の能楽堂を」の要望にこたえて、建設の方向に動きつつあるなかで、名古屋能楽懇話会などの主催により五月九日、熱田神宮能楽殿で「新能楽堂への夢」を語り合うフォーラムが催され、能楽関係各団体、愛好者ら百八十人が参加して、発想や提案に聞き入った。

この企画は名古屋能楽懇話会能楽鑑賞会、能楽友の会が主催、能楽協会名古屋支部、能楽愛好家の会の協力で開催、岩田はるみさんの司会で、能楽協会西村欽也名古屋支部長から経過報告。パネリストとして、演劇評論家・堂本正樹、能楽シテ方・金春晃典、芸団協専門研究員・佐藤克明、演劇家・名芸大教授・本島勲、声楽家・

第四回 たまも会

五月三十日(土) 十一時開演

連吟 唐	船	鬼頭 純三	酒井 敬子	高橋 豊子	河村真之介	大野 誠
連吟 玉之段	水野 静子	小田加奈子	久保伊佐子	久保一芳	安井たかえ	安井たかえ
連吟 草紙洗	安井たかえ	水野 静子	西なつ子	奈良 善一	安井たかえ	安井たかえ
連吟 鞍馬天狗	美林 温子	森 則吉	寛 寛	林 則吉	河村真之介	大野 誠

春季淡交会別会

五月三十一日(日) 午後一時始

高砂	加賀 敏彦	玉木 孝男	久田 正邦
安宅	中村 朝子	久田 正邦	久田 正邦
羽衣	鈴木多美子	馬場 信二	馬場 信二
菊慈童	高安 勝久	後藤孝一郎	後藤孝一郎
杭か人か	佐藤 友彦	井上礼之助	井上礼之助
鳥追舟	野村 四郎	福井啓次郎	福井啓次郎
恋重荷	親世 元昭	後藤孝一郎	後藤孝一郎
景清	下田 雄三	高橋 朝一	高橋 朝一
道成寺	野村 又三郎	河村真之介	河村真之介

岐阜誠交会 40周年記念大会

岐阜誠交会(奥善助師主宰)は五月十七日、岐阜市市民会館で「発足四十周年記念能楽大会」を開催、親世流の派手、横岡善助師らを迎え、能「枯」「天鼓」など上演。

御来場歓迎

主催 金子晶子会

TEL 〇五九二九三〇五六

(入場料) 指定席一万円、自由席八千円、学生席五千円
申し込み・問合わせ 熱田神宮能楽殿(〇五二一六八二一七五二)
瀬戸三津子(〇五八七三三三三八八) オフィス SETO
(〇五二二二九九一七七七八) その他出演者・チケットピア各ブレイガイド

五月雅日記

(129)

森の中の植物園

えと文 二井栄逸

五月になると、里ではイチハツ、山にはシャクナゲが満開になる。いちいち花のすきにける屋根並ぶ。

これは水原秋桜子の句であるが、昔は大風よけのまじないとして、わら屋根の上にイチハツを植える習慣があった。

水戸光圀の隠居所として有名な茨城県常陸太田市にある西山荘のわら屋根に植えられたイチハツが、紫の花を一ぱいつけて五月の風にゆれているのをニースで見えて素晴らしいと思った。

こないだは、お弟子さん達と波瀬の高見山麓にある植物園にいった。松の山の谷間を利用して作られた風雅な植物園である。

風にそよぐ若葉のあいだから透れる日の光はまぶしくもまた新鮮である。

この森の緑の中にも、淡紅色のシャクナゲが風にゆれていた。

シャクナゲは種類が多く、私はキバナシャクナゲが好きであるが、この花は高山地帯だけにしか生育しない花木だから、花の満開も三月中旬以下で、花期も七月から八月で、冬は雪の下に閉ざされ、夏は濃い霧に保護されているためか、低地ではほとんど開花しないようだ。

数年前、八ヶ岳の友人の別荘を訪ねた時、Tさんは山の斜面に群生しているキバナシャクナゲをとってくれたことを覚えていて、クリーム色の何と品格のある花なのだろうと思った。

この植物園のシャクナゲはツクシシャクナゲのようである。濃紅色のつぼみから開花につれて淡紅色となり、白色と変化してゆく。そのコントラストの美しさは、シャクナゲのなかではおそらく最高だろう。

この森の中の植物園には萬葉の花もあちこちに植えられている。奈良の萬葉植物園のようになれば素晴らしいなと思ったりした。

一萬葉の花も交りて楽しかりー
これは私の駄句である。
(平成4・5・6記)



熱田まつり協賛

奉納 能

六月五日(金)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

能経 (宝生流)

稲川 幸一
政 杉江 元 後藤 敏一 鹿取 希世

能世流

後見 戸田 博和 地謡 石森 智幸 鬼頭 嘉男
後見 玉井 祐祐 地謡 久野 幸三 衣野 正宜
佐藤 耕司 竹腰 正一

能世流

松下 僧キリ 加藤 春枝 前野 郁子
董 松田 高義 野村 又三郎 生駒 幸江

能世流

清 経クセ 牧野 元子 地謡 百々 康治
是 界 加藤 正嗣 地謡 前田 修三

能世流

清 一政 河村 真之介 助川 龍夫
能三 (觀世流) 飯富 雅介 後藤 孝一郎 大野 誠

能世流

後見 梅田 邦久 地謡 今村 嘉男 加賀 敏彦
今沢 美和 加藤 保彦 祖父江 修一

能世流

後見 熱田 神宮 能楽 殿

能世流

附祝言 主催 能楽協会名古屋支部 神宮

能世流

賀 茂 加藤 春枝 武富 康之
屋 島 黒田 博 地謡 武富 康之
大 江 八神 孝充 地謡 松山 幸親
融 舞 稲生 芳雄 地謡 幸親

能世流

海 舞 今村 嘉男 吉田 定男 助川 龍夫
士 今村 嘉男 御原 富司 鹿取 希世
地謡 武富 康之 阿部 信一

能世流

木 賊 中川 万里奈 久田 徹二 泉 泰幸 笠田 徹二
泉 泰夫 泉 泰幸 泉 泰夫 泉 泰夫

砧

赤松 禎友 能
大槻 文蔵
同 次郎右衛門 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛
井上 祐一 松山 幸親 上田 拓司
後見 笠田 徹二 地謡 高橋 一政 阿部 信一
笠田 徹二 祖父江 修一 齊藤 信隆

薩摩守

野村 又三郎 井上 礼之助 後見 佐藤 友彦

天

近藤 幸江 飯富 雅介 後藤 孝一郎 鬼頭 嘉男
弄鼓之舞 野村 信行 後藤 孝一郎 鹿取 希世

追加

後見 赤松 禎友 地謡 今村 嘉男 山本 拓正
泉 泰幸 三島 剛年 上田 信司
稲生 芳雄 齊藤 信隆

観世会定式能(三回)

六月十四日(日)十二時半開演
熱田神宮能楽殿

楊貴妃

大槻 文蔵 植田 隆之亮 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛
後見 浦田 邦弘 地謡 須部 一政 梅田 邦久
浦田 邦弘 祖父江 修一 久田 徹二

竹の子

佐藤 友彦 井上 礼之助 後見 井上 松次郎

花

笹クレイ 浦田 保利 地謡 梅田 邦久 本田 一
梅若 盛義 地謡 中川 雅久 梅田 邦久

鶉

觀世 喜之 高安 勝久 飯富 雅介 鬼頭 嘉男
後見 梅若 盛義 地謡 今村 嘉男 久田 徹二
梅若 盛義 高橋 正一 武田 邦弘

附祝言

主催 名古屋 観世会
〔有料〕当日券 八千円(自由席)

叶石会・一謡会大会

六月二十日(土)午前九時半始
熱田神宮能楽殿

素盛

久 近藤 重治 高野 順三 池ヶ谷 豊

采女

丸 角田 富美 高木 のぶ
内田 睦子 長戸 花子

連吟杜若

若 井上 良 中野 房枝

養安宅

老 祖父江 修一 河村 真之介 角田 佳寿子
後藤 孝一郎 後藤 孝一郎 大野 誠

熊坂

天 池ヶ谷 豊 後藤 孝一郎 大野 誠
加藤 裕子 柳原 富司 助川 龍夫

雲雀山

鼓 小林 辰彦 後藤 孝一郎 鹿取 希世

三番叟

野村 又三郎 井上 礼之助 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛
柳原 富司 河村 総一郎 大野 誠

藤戸

衣 三宅川 公香 川原 組子 助川 龍夫
後藤 孝一郎 後藤 孝一郎 鹿取 希世

国栖

一調笠之段 泉 嘉夫 河村 真之介

一調船橋

河村 和重 河村 大

一調法師

花 林 喜久子 鹿取 希世
林 博敬 柳原 富司 藤田 六郎兵衛
村木 寛茂 後藤 孝一郎 鹿取 希世

一調花籃

味方 健 河村 総一郎

一調三輪

望 高木 和子 鬼頭 嘉男
柳原 富司 澄川 幸子 鬼頭 嘉男
福井 啓次郎 藤田 六郎兵衛
前野 美津子 鬼頭 嘉男
後藤 孝一郎 大野 誠

附祝言

主催 叶石会

五郎太(五代尾張藩主)誕生祝賀能は、二日目に在る。「鵜飼籠中記」には、次のように記されている。「三日快晴。未比雷が鳴動すと、予は不知。亥比と雷刻と地震。御能。申半比過終而、御目見一度有。御目見象徴奇に隨ひ、其頭々斗へ御札に行へし。御園御用人へは行に不及と云々。今日は町人へ強飯斗にて、まんぢうは不被下。明日亦同。」

老松 シテ源之丞、ワキ忠藏、大鼓惣左衛門、小鼓四郎兵衛、太鼓源兵衛、笛理兵衛、シテ喜左衛門、ワキ庄兵衛、大鼓三郎兵衛、小鼓与左衛門、太鼓十兵衛、笛喜十郎

松風 シテ八左衛門、ワキ又三郎、大鼓七左衛門、小鼓四郎兵衛、笛六郎兵衛、シテ貞之丞、ワキ忠藏、大鼓孫三郎、小鼓九郎三郎、太鼓平治郎、笛加兵衛

祝言 シテ不明、ワキ喜十郎、大鼓半左衛門、小鼓喜右衛門、太鼓才三郎、笛理兵衛

狂言 せんじ物、和泉、いもじ、庄之助、どぶかつり、又七」

十二月三日と言ひ、寒い冬の日、雷が鳴ったよう、天候が不順で、地震が二度あったと記されている。初日は、熊頭も下賜されているが、二日からは、止めてしまっている。

三日目 「四日、巳前より曇。雪降。厳寒。未比止。雲。寺社御能見物。御白洲の町人へ傘は出たれ共、濡湿寒凍す。」

源太夫 シテ貞之丞、ワキ勘左衛門、大鼓三郎兵衛、小鼓九郎三郎、太鼓十兵衛、笛六郎兵衛、シテ八左衛門、ワキ忠藏、大鼓孫三郎、小鼓九郎三郎、太鼓平治郎、笛喜三郎、野々宮、シテ喜左衛門、ワキ又三郎、大鼓七左衛門

小鼓九郎三郎 笛理兵衛、シテ九右衛門、ワキ勘左衛門、大鼓兵助、小鼓与左衛門、太鼓万三郎、笛喜十郎、シテ源之丞、ワキ庄兵衛、大鼓市郎太夫、小鼓四郎兵衛、笛加兵衛、御中入、シテ八左衛門、ワキ又三郎、大鼓孫三郎、小鼓九郎三郎、笛喜十郎、間、貝立又七、合力茂兵衛、狂言、細なひ、加左衛門、藤左衛門、藤八、シテ八左衛門、ワキ忠藏、大鼓七左衛門、小鼓四郎兵衛、太鼓平治郎、笛市

釣狐、和泉、後又七、加左衛門、紅葉狩、シテ貞之丞、ワキ忠藏、大鼓三郎兵衛、小鼓九郎三郎、太鼓平次郎、笛六右衛門、間、女与左衛門、末社に小十郎、安宅、シテ八左衛門、ワキ又三郎、大鼓孫三郎、小鼓九郎三郎、笛喜十郎、間、狂言の役者名や役柄までも記されていて興味深い。

奥舞台の能は、朝八時過頃から始まり、夕方六時頃には終っている。冬のこととて、暗くなることも早く、後半の「融」の演能の途中で、灯火をとめて、演じられた能が七番、狂言が六番と、表御能の時よりも番数が増えている。奥御能の方が、能の鑑賞を楽しむことが、できたからであろう。

「鵜飼籠中記」の番組にも、間狂言の役者名や役柄までも記されていて興味深い。

さらに、十二月十三日には、下屋敷でも五郎太誕生祝賀の能が、演じられている。

「御下屋敷に御能あり。火を不点して済。」

弓八幡、シテ山澄清次郎、ワキ忠藏、ツレ助九郎、大鼓上田織部、小鼓四郎兵衛、太鼓今泉佐左衛門、笛加兵衛、シテ小菅喜内、ワキ奥田弥左衛門、ツレ助九郎、ツレ三村田藏、大鼓惣左衛門、小鼓九郎三郎、六郎兵衛、野々宮、シテ羽鳥若右衛門、ワキ青木九左衛門、大鼓七左衛門、小鼓九郎三郎、笛杉山三右衛門

尾張藩の能の歴史(十四)

辻 宏一

以上で、正式な誕生御能は終り、内々の御能が、さらに、十二月十一日奥舞台で、演じられる。「十一日晴。奥御能台に御能館有。梅昌院様は御風氣とて御入なし。御運枝様方御見物。辰過始り。融の半に、西火を点じ、西半刻終る。嵐山、シテ源之丞、ワキ又三郎、大鼓惣左衛門、小鼓喜左衛門、笛利兵衛

狂言、与左衛門、加左衛門、吉次郎、忠三郎、茂七、又七、小十郎

狂言、花折しんほら、小十郎、加左衛門、善次郎、茂七、兵衛、茂七、三、大夫、貞左衛門

江口、シテ八右衛門、ワキ勘左衛門、大鼓与左衛門、小鼓四郎兵衛、笛六郎兵衛、間藤八

狂言、開藤八

平成4年5月・6月放送予定

〔5月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)

24日(日)金剛流「千手」田多、一世
31日(日)喜多流「高野物語」喜多、武雄

〔6月〕NHK・FN能楽鑑賞(午前8時~9時)

7日(日)観世流「水屋」木本、武雄
14日(日)宝生流「景清」大坪、武雄
21日(日)観世流「芭蕉」本山、武雄
28日(日)観世流「班女」大規、武雄

●NHK教育テレビ 日本の伝統芸能 「能・狂言入門」(土曜日午後7時~7時30分)

6月 6日 能「清経」シテ友枝、根井、村、万、作
13日 能「松風」シテシテ、シテ、シテ、シテ
20日 能「天鼓」シテシテ、シテ、シテ、シテ
27日 狂言「椿」シテシテ、シテ、シテ、シテ

再放送 教育テレビ 日曜日 午後11時~
衛星第二 水曜日 午前5時~

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

内藤泰二 一周忌追善 名古屋宝生会定式能(第廿六期)

六月二十一日(日)午後一時始

熱田 神宮 能楽 殿

能	狂言	舞	鼓	笛	太鼓
能 若 高安 勝久 後見 辰巳 英雄 宝生 英照 沢辺ノ舞	狂言 蔵舞 井上松次郎 後見 井上礼之助	舞 葛 玉井 博和 戸田 澄子	鼓 飯富 雅介 河村 総一郎 柳原 富司忠	笛 竹内 淳一 竹内 良伯 寺井 良雄 福川 裕一	太鼓 馬場 富四夫 大坪 十高雄 辰巳 潤次郎

〔要員費〕 五千円
 臨時会員券 五百円
 事務局 名古屋市昭和区川名本町二ノ五
 鬼頭嘉男 電話 七六一一四九三五

六月二十七日(土)午前十時始

能	狂言	舞	鼓	笛	太鼓
能 若 高安 勝久 後見 辰巳 英雄 宝生 英照 沢辺ノ舞	狂言 蔵舞 井上松次郎 後見 井上礼之助	舞 葛 玉井 博和 戸田 澄子	鼓 飯富 雅介 河村 総一郎 柳原 富司忠	笛 竹内 淳一 竹内 良伯 寺井 良雄 福川 裕一	太鼓 馬場 富四夫 大坪 十高雄 辰巳 潤次郎

〔要員費〕 五千円
 臨時会員券 五百円
 事務局 名古屋市昭和区川名本町二ノ五
 鬼頭嘉男 電話 七六一一四九三五

六月二十七日(土)午前十時始

熱田 神宮 能楽 殿

六月二十七日(土)午前十時始

熱田 神宮 能楽 殿

〔面筋〕 素綱経

正 石井 君子 戸本 晋 (恵風会)

仕舞 難

大久保 昌苗 服部 玲子 伊藤 綾子 鬼頭 みのり 手嶋 なみ江 水越 弥生

連吟 狸

石川 廣子 成瀬 洋子 水野 千恵子 太田 敦子 都築 トヨ子 加藤 久子

素綱三

高 拍 鶴 龜 五十嵐 春吉 崎道行 吉田 喜美子 細川 定美

仕舞 松

五之 鼓 高橋 節子 増田 仁美 柳木 鏡子

独吟 雲

院 林 愛子 磯部 三枝子 林 和子 柳キリ 小林 美和子 不破 峰子 虫キリ 岩田 加代

素綱社

若 近郷 克己 戸田 貞之 クリ・サシ・クセスキ ワカヨリ

〔御来聴歓迎〕

仕舞 道 明 寺 神谷 直市 野 富 高橋 千晴 大 山 虫クセ 金原 孝典 金原 典子 仕舞 突 盛キリ 梅田 邦久

弥生の舞台から

「梅猶会」「国家指定芸能・能楽特別鑑賞会」「第五回名古屋能楽鑑賞会」

竹尾 邦太郎

「蘭戸」 シテ重鶴。紺糸の暗い装束、腰を屈め、再音も吸れるいかに寒村の老女に雰囲気がある。渡河の浅瀬の雨を恐れ、教示してくれたこの老女の息子を抹殺したワキ雅介に、何と隠し給ふらん、の地で、ぐいと面を上げてシテの怨嗟の表情は凄かった。後は、しかし、後も別人格の前シテの影を引き摺り舞かもしれない前屈み気味の姿勢が消極的な印象を与えた。気持と型とが離れているように思えたが、(1時間11分)

岐阜県芸術文化奨励受賞 玉井博祐さん

九一年度岐阜県芸術文化奨励を受賞した玉井博祐さん。玉井博祐師の栄誉を祝賀し、激励する集いが四月二十八日午後五時半から岐阜県長良川畔の長良川ホテル新館の「飛天の間」で岐阜の官財界、文化関係者、能楽関係、知友など二百三十人が参加して盛大に催された。

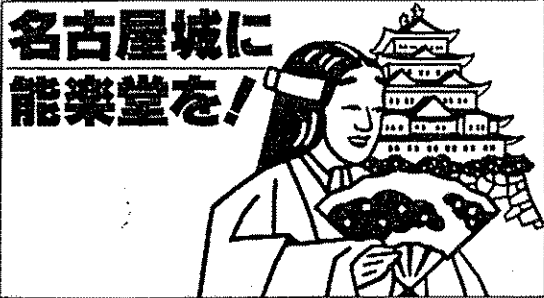


り敢えず、の気持。ハ玉章を付けし南の都路に、と、運れてはならじの焦燥はツツとした運びに見え、右肩シテ柱に突き当る程。カケリにその狂燥がよく表現された。ハ恐ろしい、以下の狂も鮮やかだが、イロエからクセは緊張気味。先代万三郎も「亀屋閑話」に言う。「舞を舞ふにも左へ廻るとか、右へ廻るとか、特に目附柱から左へ廻る所などは苦心を致してをります。舞が、左右どちらかへかかりますから、ついフラ／＼とよるけさうになるのです。」と。精力を使い果たしたか、ハ心空なる、とワキに籠を渡すところの運びは、文字通り虚ろだった。帝への一途な思慕が、緊張を強めたのだらうか。(1時間15分)

れるが、稀曲で放って置くのは勿体ない。(1時間8分・3月8日・梅猶会)

「清経・春取」ワキ利宜。ハはや時雨する、と、笠に手をやり仰ぐことも無く、時雨を避けるかに伏目がち。ツレ杉の在宅に不意を衝かれ、「ヤア」と思わず指の力が抜けて笠を取り落とす刃り、ハ世の中に、でや／＼と面を上げた。これで御役御免の気持か、遺髪を絞もしつかり手渡す風である。ツレへの労りが万事に控え目で好ましい。ハ夜もすがら、と、ワキが立って地前に行きかかる。ハ全身を見せる。ハ杖や恋を、と、幕が三分の二程上り、シテ鶴が全身を見せる。ハ杖や恋を、と、幕が一旦下りる。音取は六郎兵衛。再び幕が上って笛が止み、笛が鳴るとシテは運ぶ。笛が止むとシテも右手を下ろして停まる。の繰返しの裡に十分余りでワキ正近くへ出た。耕地車長様に銀地の模様大口。「いかに古人」はいかに他人行儀の後ろめたさを滲ませ、形見の髪を縛るシテとツレとの思ひ、ずれば、ハふしがるを悲しき、と袖濡らせてシオルとこへ單ざりてゆく。このあたり、夫婦の愛の在り方の機軸、驕と彬、好演である。地との掛合に、言ひ訳がましくツレを説得しようとするシテの情熱がハ足踏車のすことと、とワキが切戸に退いてから、クセとワキ吹く型も、ハ船よりかばつたものをみせ、キリは、ハ引くは潮を打たんと、と、すつと立ち上がるところなど頼もしく、舞飾もきびきびと強いが、大ベシ物の鬱然とした圧力がどうか。なお今回に限らず子方が弱い。破綻を恐れず強く声を張り、態度昂然、眼は立派に見えるところか、大人の責任であろう。(1時間5分・3月20日・能楽特別鑑賞会)

「素綱落」シテ千五郎。伯父正雄に振る舞われた太鼓を干し、上目使いに「今一つ呑めば風味の純、忍右衛門。後見に辰三・曉、地は菊生・吾生ら。(1時間26分・3月28日・第五回名古屋能楽鑑賞会)



名古屋城に
能楽堂を!

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 1000円

郵送の場合 1年 1500円

一 部 90円

◆ 演 能 カ レ ン ダ ー ◆

(熱田神宮能楽殿)

- 〔6月〕
- 21日(日) 名古屋宝生会定式能 (有料) (番組①面)
 - 27日(土) 前 踊 会 (来場歓迎)
 - 28日(日) 也留舞会・信福会 (来場歓迎) (番組①面)
- 〔7月〕
- 5日(日) 親世九皇会定期能 (有料) (番組②面)
 - 12日(日) 朝日狂言会 (有料) (番組③面)
 - 18日(土) 野村四郎名古屋公演 (有料) (番組③面)
 - 19日(日) 親世会楽福会 (有料) (番組③面)
- 〔8月〕
- 8日(土) 名古屋新能(熱田神宮境内) (番組③面)
 - 9日(日) 青陽会能 (有料) (番組④面)
 - 11日(火) 学生能の会8月例会 (来場歓迎)
 - 29日(土) 衣裳正宜後援会 (有料)
- 〔9月〕
- 5日(土) 大衆能 (愛知文化講堂) (来場歓迎)
 - 6日(日) 中日文化センター発表会 (有料)
 - 13日(日) 親世会定式能 (有料)
 - 19日(土) 九皇生会定式能 (有料)
 - 20日(日) 九皇生会定式能 (有料)
 - 23日(祝) 鳳鳴会大会 (来場歓迎)
 - 26日(土) 清和会大会 (来場歓迎)
 - 27日(日) 和泉会 (来場歓迎)
- 〔10月〕
- 3日(土) 卓楽会大衆会 (来場歓迎)
 - 10日(祝) 武田会 (来場歓迎)
 - 11日(日) 藤田追善会 (有料)
 - 18日(日) 藤田追善会 (有料)
 - 24日(土) 三交会 (来場歓迎)
 - 25日(日) 三交会 (来場歓迎)
 - 31日(土) 名古屋能楽鑑賞会 (有料)
- (演能変更の際はご了解下さい)

名古屋城ゆかりの多彩なイベントがくりひろげられる恒例の「名古屋城夏まつり」は能楽協会名古屋支部も積極的な協力により、今年八月四日(火)から十六日まで毎日午後七時から連続して新能が催される。

能の上演は次のとおり

能楽協会名古屋支部協力

8月4日～16日

- 初日・八月四日「鶴亀」(久田徹二)
- 五日「東北」(今沢美和)
- 六日「竹生島」(加賀敏彦)
- 七日「田村」(松山幸親)
- 八日 学生能
- 九日「吉野天人」(近藤幸江)
- 十日「橋弁慶」(古橋正邦)

東海各地で新能

◆名古屋城夏まつり◆

13日間連続新能上演

名古屋新能

能3番、狂言1番上演

8月8日 熱田神宮で

名古屋新能はことし第二十七回をむかえ、きたる八月八日(土)熱田神宮神楽殿前・特設舞台上で催される。午後五時開始。

今回は、親世流能「経正」(シテ久田徹二)宝生流能「班女」(シテ竹内澄子)親世流能「土蜘蛛」(シテ祖父江修一)の能三番。

狂言は「附子」(シテ井上祐一)。ほか金剛流舞囃子「加茂」(竹市幸司)喜多、金巻、親世流の仕舞三番。

火入れ式は熱田神宮今井要祐宜が執り行い、西尾武喜名古屋市長のあいさつが予定されている。

主催 能楽協会名古屋支部・後援 名古屋市、熱田神宮。

入場料は前売二千円(当日券二千五百円)二番組③面掲載。

長良川新能

7月31日 長良川特設舞台

第六回「長良川新能」は七月三十一日(金)岐阜グランドホテル前河原・長良川特設舞台上で開演。午後五時開始。午後六時半開演。舞囃子「山姥」(山中義滋)狂言「隠狸」(野村万之丞)能「敦盛」(梅若六郎)

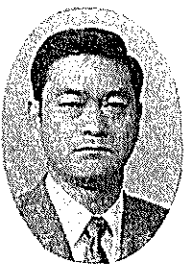
主催 岐阜市・教育委員会
入場料(整理券は七月五日午前十時から岐阜市役所本庁舎一階ロビーで発行) 詳細問い合わせは岐阜市教育委員会(T.E.L.O五八二〇四一四一番)

四日市新能

8月1日 鶴の森公園

八月一日(土)午後六時半から四日市・鶴の森公園で開演。主催 四日市市文化振興財団、四日市新能実行委員会。協力能と狂言に親しむ会四日市研究会。

仕舞「屋島」(駒瀬直也)「野守」(橋本雅夫)
能「半部」(シテ梅田邦久、ワキ高安勝久、笛・藤田六郎兵衛)



高安勝久氏が受賞

名古屋市文化振興事業団は、本年度「第八回芸術創造賞」として能楽ワキ方・高安勝久氏の受賞を決定、六月十五日に東京ホテルで授賞式が行われる。

「芸術創造賞」は昭和六十年に名古屋の芸術文化の振興のために設けられ、名古屋を中心に活動し、前年度における芸術創造活動が特に顕著で、今後の活躍が期待される個人あるいは団体に贈られる賞である。今年度は、高安勝久氏とともに、絵画の神谷かん氏の両氏が選ばれた。

高安勝久氏は、能楽ワキ方高安流家元高安滋郎氏の次男として、昭和二十三年九月二十九日生まれ幼時より祖父西村弘敬氏に師事。昭和三十六年「紅葉狩」で初舞台。昭和四十一年には中日五流能「花籠」に出演。以後「乱」「道成寺」「石橋」など数多くの舞台に出演。昭和五十七年にはワキ方の登竜門といわれる「張良」を好演。その実力を認められ、「大江山」「船弁慶」「定家」など毎年多くの舞台を踏み、技量を発揮してきた。

平成三年度は、親正会「安宅」育陽会「俊寛」日本能楽会「西王母」「小鍛冶」など実に六十四番の能に出演し、その芸術の裾が広がりに着しいものがあつた。

名古屋能楽界の代表的なワキ方として、今後の一層の活躍が期待されている。

天王新能

8月2日 天王川公園

第九回天王新能は八月二日(日)津島市天王川公園・野外特設舞台上で上演。主催 天王新能鑑賞会、後援 津島市、津島市教委、佐織町、佐屋町、立田村、八開村。

午後五時から地元同好会、学生舞囃子「清経」(橋岡慈観)

名古屋市文化芸術創造賞

振興事業団

ワキ方高安流

半能「小鍛冶」(シテ瀬戸三津子、ワキ飯富雅介、ワキツレ江元)

前売一般二千円(当日二千五百円)学生千円(当日千五百円)

雨天の場合は、一宮市民会館。タマコシ。

也留舞会 合同大会

六月二十八日(日)午前十一時始

- 野村又三郎 社中
- 信誼会 合同大会
- 六月二十八日(日)午前十一時始
- 熱田神宮 能楽殿
- しびり 太郎冠者 田中 雅子 主 西脇 瑞紀
- 文 山 山賊(甲) 岩田 雅子 山賊(乙) 野村 信行
- 附 子 太郎冠者 山田 良子 次郎冠者 櫻井 晴子
- 純 根 太郎冠者 加藤志津子 主 松田 高義
- 舎 弟 弟村手 琢史 数え手 野村 信行
- 磁 石 スッパ庄司 武 見附の者 松田 高義
- 花 月 林 岫加子 人買い 奥津健太郎
- 野 老 野老の精 三宅 千生 旅僧 野村とし江
- 朝 比 奈 朝比奈徳田 文三 閻魔大王 松田 高義
- 山 伏 山伏櫻井 晴子 病人(弟) 野村 信行
- 茶 壺 スッパ 種村とし江 中国の者 野村 信行
- 〔御来場歓迎〕
- 指導 野野村 又信 三廣
- 主催 野野村 又信 三廣
- 主権 野野村 又信 三廣
- 舞 野野村 又信 三廣
- 会 野野村 又信 三廣

下屋敷の能は、武士の中でも、能の上手が演能に参加しているよう...

羅生門 シテ助九郎 ワキ永井 左膳 頼光清吉 連山...

狂言 二人袴 加左衛門 花子 いづみ...

狂言 二人袴 加左衛門 花子 いづみ...

尾張藩の能の歴史(十五)

辻 宏

同年八月二十九日、その子五郎太が三歳で五世尾張藩主を継ぐ...

後の曲目は二回である。「頼政」が特に好まれたのは、老体の修羅物であること...

乱拍子を眼目に再構成したものと「能・狂言事典」では、説明している...

後藤孝一郎氏に感謝状

岐阜女子短期大学

幸清流小鼓方、後藤孝一郎師は岐阜市立女子短期大学の能楽クラブに...

第5回梅若盛義

二ころみの会

第五回梅若盛義二ころみの会は六月二十八日(日)東京・渋谷区松涛の観世能楽堂で上演される...

夏の素謡会

七月十九日(日)午後一時始

Table listing performers and roles for the Summer Plain Song Meeting, including names like 熱田神宮能楽殿, 熱田神宮神楽殿前, etc.

名古屋新能

八月八日(土)午後五時半開演

Table listing performers and roles for the Nagoya New Noh performance, including names like 熱田神宮能楽協会, 熱田神宮, etc.

青陽会定式能(第336期)

八月九日(日)午前十時半始
熱田神宮能楽殿

嵐山
高安 勝久
杉江 元
飯富 雅介
佐藤 友彦

賀茂
後見 前野 郁子
梅田 邦久
地謡 今村 恵子
松山 幸親

井筒
中川 雅章
祖父江 修一
小島 一英

班女
飯富 雅介
野村 信行
野村又三郎

敦盛
三村 恵子
地謡 今村 恵子
近野 幸江
加藤 保彦

太刀奪
松田 高義
野村 信行
野村又三郎

善知鳥
高安 勝久
河村 貞之介
井上 礼之助

附祝言

主催 青陽会
会員券申込は関係係師方及び青陽会事務所

当り券 三千円

名古屋市中熱田区神宮一丁目
熱田神宮能楽殿内
電話(052)六八二一七五二番

卯月と皇月舞台から

「観世会」と「金春会」「九皇会」
「第35回やるまい会」「淡交会別会」

竹尾邦太郎

「巻物・替装束」シテ勝一。
常は前折鳥帽子・緋大口・白水衣・面十寸髪の巫女が、小書で金小立鳥帽子・緋袴腰巻・白地長袴・面泣増だった。就中、扇箱地梅格子文様紐箱は優品で梅花散郁、ツレ正邦が芳番に誘われるのもさもありなんと感ずる。梅持枝(白相幣付)で舞う神楽は狂おしく、イロエを抜くのは悪きものはたと落ちる印象だが、全体はどことなく艶かしく、白拍子めいが見えた(のは群目か)。キリに一ノ松先で、ハ御幣も乱れて空に飛ぶ鳥のと飛鳥を追う面使とは流石だった。(1時間5分)

「蜘蛛人」連歌を好くシテ松次郎の俄盗人。アド有徳人・祐一に咎められて蜘蛛の巣にかかるが、「雲は身を助く」の言え、連歌の徳で危機を脱す。しかし、明らかところで正座に長まるしおらしさも、大盆が出れば調子も出ようというもの。浮世を忘れるのも偏に酒の徳、とばかり松次郎はちまちま元氣を見せる。キリは頂戴の小袖に上機嫌、「偏に天神の加護であらう、いさわかを上げて帰らう」が、先の「巻物」に呼応する妙。(27分)

「善知鳥」シテ六郎。一ノ松で片袖をワキ勝久に託すので、中入地一杯の暮入り。ふっ、とかき消えるへ行く方知らず、の気分は薄いが、視覚での残像が長く、亡者の哀しみは深く沈滞する趣である。常と異なるワキが地前にクツログと、何事もなく子方(松山兜之)とツレ徹二が登場して後場となる。
後シテは戦慄のカケリが狂巻で凄まじい気魄は、鳥に擬して一ノ松を激しく打つ杖の扱いや面鏡く切ルところに現われ、型の上に型を超えるといった自在の境地。小書は無いが「替ノカケリ」か、地となる笠を取り、両手にカザン

地(汎・広明・徳高ら)の、ハさすや桂の枝々に、と、一ノ松から一気正中へ出ると、露を取り、地の裡にするすると露原に往くと、ハあら面白曲水の盃と、三鼓(啓次郎・鉄一・喜太郎)のナガシで再び舞台上に戻るとオロシなしの盤渉急ノ舞(笛・六郎兵衛)になった。あれよあれよと思吐く間もない舞台空間は、一代の龍児河原の左大臣の得意の絶頂を生気躍動の舞に凝縮されて見事だった。
(1時間19分・5月10日・金春会)

「遊柳」シテ取一。前は白っぽい二つとらした表情の劇面を掛け、杖を持たない。後は数刻、鶯色大口・茶地車符衣が上品である。拍子踏み、ハ香の音と、耳をそばたて余韻響くかにクモラセルところ、ハ手調の虎と、引き綱を手繰るところ、ハ(弱々)と立ち舞ふも、と、作物に細つてワキを見るところ、など、控え目に決前後の核心に入る。殉死を容れられない無念は寄せ来る敵に向けられる。女と侮らせて敵をひきつけ、一転二ノ松まで攻め立てる長刀振りも大柄なシテならはこそその爽快である。唐織を白水衣に替るキリ。梨子打鳥帽子と小太刀を衣に隠して左腕に猛込む具体的な型にもしみじみとした情趣をみせ、ハ執心を帯びて、と、ワキ雅介への暇乞いに、力無く笠をはりと捨てて刃の哀感も一入だった。(1時間13分)

「仏師」シテ又三郎。生き馬の目を抜く都のスツバの、目敏く抜く目なくすばしい風体を活写。アド高義。生真面目な田舎の人を怒らせてはいけぬ、という教訓を身をもって示し好演。(22分)

「融・笏ノ舞」シテ光洋。中入前、ハ秋の夜の長物語よしなや、と、時間の無駄取り戻すかにつと出て沙を汲むところは、綱を絞ったまま腰を沈めて静かに担桶を下ろすと引き上げた。投げ出す型の騒がしい音がなく細心。
後シテは淡紫色指貫・萌黄車符衣の涼やかな出立で本物の笏を構えて出た。笏は、暗れがまし束帯着用の際、手に持って威儀を正すのを第一の礼儀とする、という。

「花籠」シテ喜之。文は、右から左へさつと目を通すと餘に読み込み、読み終るとハ書き置き給ふ水盤の跡に残るぞ悲しき、の地に傷心をしつと耐え、文に面を隠して頂垂れた。気持の整理をどうしようにゆくり文を畳むが懇款は一方ならず、ハ君と住む、と、放心状態になつてゆくところ、喜之入念な心理描写に優れる。しかし後場は子方の不調が興を殺ぐ。終始落着かず、よそ見・欠伸・顔を掻く傍若無人。就中、イロエ途中の大あかびは困る。狩衣の左襟脱げかかった捲入は狼藉の果、シテの美声も空々しく痛々しくった。(1時間12分・5月16日・九皇会)

「鶏牛」シテ山伏・高義。愚鈍な太郎冠者・友彦を自分のペーシに引き摺り込むのは口跡の爽やかさで持味十分。連鎖反应的に暗示に掛けてアド何某・信行までも隠子物にのせてゆくところ、三者の微妙な均衡も惹きつける。キリはシテを先頭に、後ろ向き片足浮キ(片足跳び)で賑やかに幕に入る演出が面白かった。(24分)

「簀盾」シテ太郎冠者。万作。簀盾とは袋で筒に分けた扇茶。それを挽くと主・礼之助も各商、人使いの荒さも知れる。まして単調なリズムの仕事とあれば「睡と調なリズム」のも当然である。一方、次郎冠者・武司は、同輩の心配はするもの手を貸す親切はない。己の退屈夜の相手に寝込まれ、腹擦せに鬼の面を被せる悪戯に及ぶ。帰宅した主は吃驚して追い出しかかるが、太郎冠者にも訳が分らない。事態を悟り水鏡を見る万作のパントタイムが秀逸で、両手の多様な表情をさりげなく巧妙に見せて、哀れにも可笑しく、チャップリンを思ひ出した。(25分)

「横座」黒頭面裏徳・立派な角の牛(千三郎)を現くアド耕人は正義。折しも入手したこの牛の鑑定依頼に赴く途次、まさか盗まれたその牛を探しシテ博打・千五郎に会う。我が物の証拠は「横座」と名を呼ば返事をする。は間髪入れぬ正義の、牛の気遣らせる掛声に阻まれた千五郎。折念すれば面幅の牛さへ鳴いたという故事を、手塚に掛けたとは言え畜生に、満面朱を注ぐ追真の語りで叱咤すれば、「もう」と鳴いた。スリル満点、至誠天に通ずとはこのことか、を痛感させた千五郎の情熱が素晴らしい。(25分)

「釣針」柳屋を逆立する向き無きにも有らずだが、外国にまで伴侶を探さなければならぬ昨今の男性の夢か。狂言の今日性。シテ太郎冠者・信行。一段と遅しく、成長ぶりが窺える。(25分・5月17日・やるまい会)

「菊意・遊舞ノ舞」シテ慈観。一登台・藝屋に白黄紅の菊の籠を廻らせ、装束も紫地菊文様大口に赤地菊流水文様唐織並打の菊尽し。仙童の天真爛漫が素直に

株式会社 セントラルパーク
本社 名古屋市中区東区泉1丁目23-36(NBN泉ビル)
PHONE 052-961-6111
F A X 052-953-2910

城 割烹・小料理
●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248

観世流・金剛流 宗家本流元 檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話03(3291)2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話075(231)1990 振替京都1-113

能 楽 の 友

発行能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年1000円

郵送の場合 1年1500円

一 部 90円

演能カレンダー (熱田能楽殿)

8月	名古屋新能 (熱田神宮境内)
8日(土)	名古屋新能 (有料)
9日(日)	名古屋新能 (有料)
11日(火)	学生会能の会日月例会 (来場歓迎)
29日(土)	衣斐正宜後援会 (有料)
9月	大衆能 (愛知文化講堂) (番組②面)
5日(土)	大衆能 (有料)
6日(日)	大衆能 (有料)
12日(土)	大衆能 (有料)
13日(日)	大衆能 (有料)
19日(土)	大衆能 (有料)
20日(日)	大衆能 (有料)
23日(水)	大衆能 (有料)
26日(土)	大衆能 (有料)
27日(日)	大衆能 (有料)
10月	大衆能 (有料)
3日(土)	大衆能 (有料)
10日(祝)	大衆能 (有料)
11日(日)	大衆能 (有料)
18日(日)	大衆能 (有料)
24日(土)	大衆能 (有料)
25日(日)	大衆能 (有料)
31日(土)	大衆能 (有料)

能楽協会名古屋支部主催の本年度「大衆能」は、愛知文化講堂さよなら公演として、九月五日(土)催される。

演能は、観世流能「草子洗小町」(シテ前野柳子)宝生流能「流太鼓」(シテ佐藤耕司)観世流能「輪廻」(シテ高橋殿一)狂言・和泉流「悪太郎」(シテ野村又三郎)の能三番、狂言一番、さらに、金春流舞踊子「高砂」(前田茂徳)金剛流舞踊子「敵」(吉川周子)ほか喜多流舞「田村」(長田鶴)観世流舞「玉置」(高木美知子)歌占(今沢美和)「小娘治」(古橋正邦)・正午始。

入場料前売二千円(当日二千五百円)(番組②面)

9月5日 大衆能 3番上演

愛知文化講堂 さよなら公演

大阪城新能 7月30日 能3番上演

読売新聞大阪本社、読売テレビ主催の「大阪城新能」は七月三十日、大阪城西の丸庭園で催される。開演午後五時。番組次のとおり。

喜多流能「鬼界島」(シテ粟谷菊生、成程・粟谷明生、歌・中村邦生、ワキ指原雅之助)

観世流能「花籠・壁之伝」(シテ梅若六郎、ワキ福王茂十郎)

大衆流狂言「蝸牛」(善竹幸四郎)

茂山忠三郎、茂山千之丞

観世流「大般若」(シテ観世鏡之丞、ワキ宝生閑)

「名古屋城に能楽堂を」という要請は二十万人署名請願として既報のように昨年末市議会に出されたが、名古屋市ではその建設用地を名古屋城の正面南西にあたる名城公園「影刻の庭」(市有地)に決定、平成六年度に着工、同八年に完成の計画である。

建築計画の基本的な方向として、建築計画としての機能を果たすため、音響、照明関係に十分留意する。

名古屋市立能楽堂計画 名城公園内に建設

能楽堂は京間三間四方の本舞台に後座、地盤座及び構廻りをもつ伝統的な舞台様式とするが、能舞台の機能を損わない範囲で、他分野関係者の利用の意向にこたえる配慮が行われる。

客席数は五百席前後となる見込みであるが、能楽師らの意見も採り入れ、また能楽に関する自主講座、子供教室の開設、講演会等の実施など事業が検討されている。

和泉流宗家・和泉宗家後援会主催の「名古屋新狂言」は、八月二十一日、二十二日の二日間、徳川園公園特設舞台で催される。

【第一日】小舞、お話、狂言「萩大名」(和泉元秀)、「雷」(三宅藤九郎、和泉淳子)、「二人持」(和泉元弥)

【第二日】小舞、お話、狂言「伊文字」(和泉淳子)、「寝音曲」(和泉元秀、井上松次郎)、「六地藏」(和泉元弥、三宅藤九郎)

いずれも午後六時開演、記念品付入場整理券三千五百円。雨天順延。問い合わせは徳川美術館(052-9193516)と和泉宗家(031-3397410)と(052-9193516)。

梅田邦久師「弱法師」

国立能楽堂8月特別公演

国立能楽堂8月特別公演は、八月三十日(日)観世流能「弱法師」宝生流能「藤栄」が上演される。

能「弱法師」(シテ梅田邦久、ワキ村瀬純、笛・中谷明、小鼓・幸陽弘、大鼓・安福建雄、地謡・観世栄夫、山本順之ほか)

和泉流狂言「入間川」(野村万之介、野村武司、三宅右近)

能「藤栄」(シテ金井章、ツレ山山孝道、子方山山淳司、ワキ工藤和哉、笛・一噌幸政、大鼓・北村治、大鼓・亀井忠雄、太鼓・観世元信、地謡高橋章、亀井保雄ほか)午後一時開演。

名古屋新狂言

和泉流宗家・和泉宗家後援会主催の「名古屋新狂言」は、八月二十一日、二十二日の二日間、徳川園公園特設舞台で催される。

【第一日】小舞、お話、狂言「萩大名」(和泉元秀)、「雷」(三宅藤九郎、和泉淳子)、「二人持」(和泉元弥)

【第二日】小舞、お話、狂言「伊文字」(和泉淳子)、「寝音曲」(和泉元秀、井上松次郎)、「六地藏」(和泉元弥、三宅藤九郎)

いずれも午後六時開演、記念品付入場整理券三千五百円。雨天順延。問い合わせは徳川美術館(052-9193516)と和泉宗家(031-3397410)と(052-9193516)。

藤井 久徳 完治 三人	片山九郎右衛門	幽詠 会	観世 曉夫	観世 栄夫	観世 鎮之丞	社団法人 鎮仙 会	昭門 元昭 会	観世 清和	梅若 盛義 梅若 盛義 大阪国際フェスティバル能	名古屋観世衛会 山本 勝一 名古屋正花会 山本 博通 〒540 大阪市中央区徳井町二丁目三十一番 電話06(942)4070番	鳳鳴 会 武田 志房	幽花 会 片山 慶次郎 〒603 京都市北区山下花ノ木町二番 電話四九二一五三〇番	名古屋 観生 会 野村 四郎 東京都杉並区永福四一三〇一 電話(三三)三三二一五二九 名古屋古場 名古屋千種区日和町四ノ一〇 小嶋方 電話七五一一八八〇番	観世芳宏門人会 観世 芳宏 観世 芳伸	井上 嘉久	初陽 会 武田 宗和 名古屋千種区今池四丁目 電話三三(七三)三七三六	名古屋淡交会 橋岡 慈観 瀬戸 三津子 稲沢市稲島町二ノ宮六 瀬戸方 電話058773388番	武田 邦弘	武田 欣司	武田 詠楽会	壺泉 会 泉 嘉夫 名古屋市昭和区山里町一〇三 電話八三二一三一一八五 西宮市甲陽園目山町三三二五 電話八〇七九八〇二四五	山本 章弘	山本 真賀	高木 美智子 高木 橋瞭	加藤 保彦 青木 武弘	観世 喜之	名古屋観世九皇会
----------------	---------	------	-------	-------	--------	-----------	---------	-------	--------------------------------	--	---------------	--	---	---------------------------	-------	--	---	-------	-------	--------	--	-------	-------	-----------------	----------------	-------	----------

五月雅日記

(131)

最後の作品

えと文 二井栄逸

六条御息所のまほろしが、毎年九月七日になると、うら結れた野宮の小柴垣の陰に現れて、光源氏と歌をかわした昔をしのび、その懐旧に耽りながらも、「身に沁む色の消え返り、思えばいにしえを何と忍ぶの草衣、来てしもあらぬ飯の世に往き遠るこそ恨なれ」と亡き後までもこの世に想いを残すわが身の宿世をしみじみと述懐しつつ黒木の鳥居の陰に消え去る。

昨年、斎宮歴史博物館に収納してもらった野宮の絵は、後シテの車争いをかいたものであったが、私は、加茂の祭りの車争いの後に展開する月下にもっとも静謐な舞

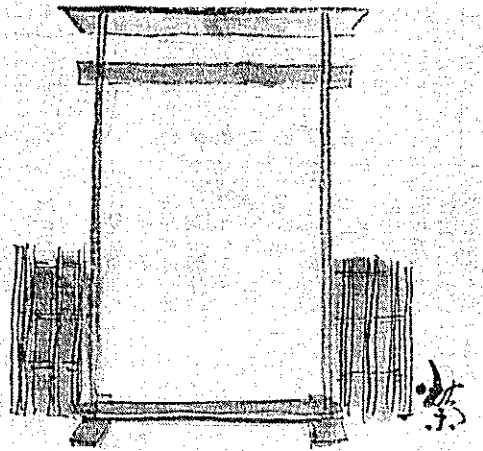
の自筆の楽譜の余白に、「ようやく遂に決心」と書きこみ、続いて「こうあらねばならぬか」「こうあらねばならぬ」と書きこんでいる。

このカルテットが彼の最後の作品となったけれど、果たして彼はあの世に行つた後も、永久に安らぎを得たであろうか、私はふと、その

んな疑念にとりつかれた。

世阿弥にしろ、ベイトウベンにしろ、芸術家の魂は常に烈しく揺れ動きながら、人生の究極に向つて登りつめてゆく。そしてその生命が魂剛になつてもなお、現世での生きざまの象徴が私の心に映る思いがする。

(平成四年七月七日)



大衆能

「さよなら愛文ホール」協賛

九月五日(土) 正午開演

名古屋・栄 愛知文化講堂

(春)舞臺子高

砂前田 茂穂 吉田 定男 鬼頭喜太郎
福井啓次郎 大野 誠

杉浦 尚三 堀 幸夫
近藤 謙彦 加藤 正嗣
佐久間祥夫 加藤 正嗣

(喜)仕舞田

村 長田 颯 地謡 戸谷 和雄
吉川 甚吉

子方王 松山 晃之

ツレ男 須部 甫

ツレ女 加藤 春枝

ツレ男 本田 照

ツレ女 三村 恵子

ツレ貫之 加賀 敏彦

シテ小野小町前野 郁子

(観)草子洗小町

飯富 雅介 河村真之介 鹿取 希世
後藤孝一郎 後藤孝一郎

(和)狂言 悪太郎

野村又三郎 井上礼之助 友彦
後見 佐藤 友彦

(観)仕舞 玉 登

高木美智子 地謡 瀬戸三津子
占キリ 今沢 美和 地謡 熊沢恵美子

(観)仕舞 小 鍛 治

古橋 正邦 地謡 今村 嘉男
古橋 正邦 地謡 今村 嘉男

(観)仕舞 籠 太 鼓

高安 勝久 河村雄一郎 藤田六郎兵衛
井上 祐一 後藤嘉津幸

(観)舞臺子 融

吉川 周子 福井 良久 地謡 小林 忠三
竹内 博結 地謡 河野邦男 辰巳 正孝
竹内 博結 地謡 河野邦男 辰巳 正孝

(観)鴉 飼 飼

杉江 元 鬼頭英二 助川 龍夫
飯富 雅介 柳原富司忠 大野 誠

附 祝 言

後見 梅田 邦久 地謡 本田 幸親 福生 芳雄
生駒 里翠 加賀 敏彦 中川 雅邦 正邦

主 権 能 楽 協 会 名 古 屋 支 部

後 援 愛 知 県 ・ 名 古 屋 市

入場料 前売券二千円(当日券二千五百円)全自由席
取り扱い 能楽殿(〇五二一六八二一七五二)・出演家師宅



竹翠会 若松宏守 電話(〇七九八)三三〇六〇一	春 鶯 会 梅 若 善 高 千 565 豊中市新千里南町三丁目18-12 電話(〇六)八三二一七八五四 千 120 東京都足立区綾瀬一丁目15-13 電話(〇三)三六〇四一七四〇九	泉 雅 一 郎 千 181 東京都三鷹市牟礼二丁目三十一 電話(〇四)三二一七二二四〇四	松 音 会 泉 泰 孝 千 168 東京都杉並区宮前四丁目一九一四 電話(〇三)三三三二一八二八〇番	高 山 雄 謙 会 萩 原 雄 謙 会 下 呂 雄 謙 会 岐 阜 花 石 会 一 宮 竹 石 会 名 古 屋 和 会 雄 謙 会 中 部 地 区 連 合 会 下 田 雄 三 豊中市曾根東町四丁目一二二	邦 謡 会 梅 田 邦 久 須 部 一 政 清 沢 美 和 今 田 美 政 本 田 和 政	上 田 鏡 正 会 能 楽 堂 社 団 法 人 上 田 鏡 正 会 上 田 鏡 正 会 上 田 貴 弘 神戶市長田区大塚町二丁目一ノ一四 電話(〇七八)六九二一五四四九番	大 阪 能 楽 会 館 千 599 大阪府北区中崎西2-3-17 大 西 智 久 誠 交 会 奥 善 助	東 京 都 世 田 谷 区 三 軒 茶 屋 二 一 〇 一 三 電 話 (〇三)三三三三二二六三七番	金 剛 流 松 野 恭 憲 松 野 洋 樹	菊 扇 会 会 後 援 会 会 廣 田 泰 三 廣 田 泰 三	金 春 信 高 金 春 安 明 千 167 東京都杉並区南荻窪3-17-16 電 話 (〇三)三三三二二五七二番	春 敲 会 金 春 晃 実 金 春 穂 高 廣 瀬 瑞 弘	社 団 法 人 能 楽 協 会 理 事 長 喜 多 流 十 六 世 宗 家 喜 多 六 平 太	大 阪 喜 多 会 和 島 富 太 郎 千 665 宝塚市武庫川町5-45-103 電 話 (〇七九七)八八〇八	廣 田 後 援 会 廣 田 陸 一 廣 田 幸 稔	廣 田 幸 稔
----------------------------	---	--	---	---	--	--	---	---	-----------------------------	--	---	--	---	---	---------------------------------	---------

小鼓
喜三郎(大倉流、堀川か)・福井忠兵衛(幸清流)・福井四郎兵衛(幸清流)・高田九郎三郎(觀世流)・喜兵衛(大倉流、堀川)・喜七衛・喜左衛門・喜右衛門(以上三人は、大倉流か、堀川氏の關係かどうか明らかではない。喜左衛門は、喜右衛門と同一人物と思われ、読み違いとも考えられる。九十郎(不明)・文治郎(不明)・与左衛門(不明)・庄左衛門(不明)

以上十二人か十一人が、小鼓の役者として勤務していたようである。この中で最も出演回数が多いのが、福井四郎兵衛で十二回、高田九郎三郎十回・九十郎九回と続く。

大鼓
諸井源右衛門(觀世流か)・源兵衛(觀世流か)・又右衛門・平次郎・喜十郎・十兵衛(重兵衛とも書く)・才三郎・新平・万三郎以上九名である。觀世流以外の流派の所屬については不明であるが、寛永七年に、金春流太鼓役者速水猪左衛門を召し抱えていると、『名古屋市史』に記されているので、金春流太鼓役者も当然いたのであろう。

太鼓役者の中では、平次郎が七回で最も出演回数が多い。次は、源兵衛の六回、諸井源右衛門の四回となる。

利(理)兵衛(平岩流か)・藤田清兵衛(藤田流)・六郎兵衛(藤田流)・市郎兵衛(藤田流か)・平岩加兵衛(平岩流)・善三郎(三村氏か、平岩流)・善四郎(三村氏か、平岩流)・忠二郎(不明)・六治郎(不明)・喜十郎(不明)・六右衛門(不明)・源右衛門(不明)

笛役者では、平岩加兵衛が十五回で最も多く出演し、次いで利兵衛の八回、喜十郎の七回になっている。笛役者は、大体十二名程度である。太鼓の喜十郎と、笛の喜十郎とは、同一人か別人かは不明である。

吉通の治世期の能役者は、シテ役者が主に六名、ワキ役者が三名程度、囃子方が、大鼓・小鼓・太鼓・笛それぞれ十名前後である。

狂言役者は、和泉・庄之助・又七・藤左衛門(和泉流)・儀兵衛・与左衛門・加左衛門・吉次郎・忠三郎・茂七・小十郎・善次郎・茂兵衛・三太夫・貞左衛門・宇兵衛・藤八・市郎右衛門・三郎左衛門・治兵衛(山崎、和泉流)など二十名程度で、主に和泉九回、又七五回、加左衛門五回の出演回数である。

吉通の頃の能については、主に、御家督祝儀御能と、五郎太監生祝賀能を中心にして、その傾向をまとめているので、片寄りがあつたとを、お断りしておきたい。

次に吉通の後を継いだ、五代藩主、五郎太について、ふれてみた。

吉通の死後、正徳三年八月に、わすか三歳で尾張藩主になり、その二月後十月十八日には、江戸市ヶ谷の邸で逝去している。ほとんどその治世期は、なかつたとも言える。

そのわずかな期間に、尾張藩を

尾張藩の能の歴史(十六)

辻 宏 一

代表するシテ方、宝生流田中源之丞の、一世一代の勳能が、古渡稲荷神社の境内で、九月二十五日より興行される。

一枚一日につき代金一両、翌一枚一日代金一分、木戸銭一人につき銀一匁五分(但百文)とのことである。

今日の金額に直すと、一枚十四万四千円、翌一枚三万六千円、木戸銭三千六百円位かと思われる。米の値段、一升八百円で計算したもので、少々高くなっているかも知れない。一つの目安と考えてもらいたい。『名古屋市史』では、正徳四年三月十二日に記しているが、『鶴鶴籠中記』では、正徳三年九月二十五日になっている。

「九月二十五日より稲荷神社内に於て、一代能仕候。田中源之丞と云札、今日所々に立。

初日
翁 高砂 八嶋 江口 紅葉狩
三井寺 是界 祝言
二日

期頃までは、上預されていなかったようである。

尾張藩の演能番組でも好まれていた「道成寺」「羅生門」なども入っている。

正徳三年十月、五代藩主五郎太の逝去にともない、六代目藩主は継友が継ぐことになる。継友は、三代藩主綱誠の第十三子である。これにより六月前、家継が、第七代将軍宣下を、正徳三年四月二日に、行っている。この頃は、まだ吉通も健康であったようである。四月十八日の将軍宣下にもなう慶賀演能では、お祝に、将軍から時限十五襲、二種一荷、北の方に、銀百枚、二種一荷を頂戴している。

正徳四年二月には、奥女中絵島が、木挽町の劇場へ行つてとがめられ、三月には、俳優となれむつみ、遊樂にふけたという俗で、連流になつてゐる。

このようなことがあつてか、元禄頃から華美に流れる傾向のあつ

た芸能・演劇に対して、さまざまな制約が施行される。

『徳川実紀』正徳四年三月十六日の項に、「寺社の境内に猿樂・説経・雜劇・個人戯などすること、元禄中既に禁断せられしに、こひ出る旨ありしをもて、そのをきてをさだめられ、芝居も事かろくかまへ、衣服は木綿をかきり、その他は用ゆべからずとゆるされしに、近ごろ二階段敷をかまへ、衣服もそれにならひて、よろづ美麗にいたる事ひがことなり。いまより後は、かやうのわざすること、一切禁断せらるゝとなり。」と記されている。

又、十九日の項には、

「町奉行に令せらるゝは、ちかごろ堺町、木挽町の劇場、二階、三階すべて屋根をかまへ、衣服美麗を尽し、その他の茶屋までも、宏社に及び、諸事制外のこと出来たるを、きびしくとがむる事もなかつた。」と記されている。

さらに、三月の末日の項には、「この月令せらるゝは、劇場の枚敷、近年は二階三階につくれり。さきさきのごとく一階の外はかたくつくるべからず。枚敷より間道をひらき、楽屋又は座元の居宅及び茶店等に宴を設け、遊興をすゝむる事なすべからず。すべて俳優等、演劇の外、枚敷あるは茶店等に招くものありとも行べからず。尤そのの宅にても、遊客をまねくべからず。枚敷に簾をたるべからず。幕、屏風等もてかこふ事すべからず。劇場の屋簷、近き頃雨の日も、演劇ははらざるやうにつくり成せしが、これもさきさきのごとくかくすべし。俳優の衣服近年美麗になれり。いまよりのち絹、袖、木綿を限り用ゆべし。また演劇夜に遊び、ともし火を點ずる事かたくなすべからず。誦時をかぎりて事を終べし。劇場近きほとりの茶店、いかにもかく敷け、座敷めきたるつくりすべからず。今まで有来れるも、奉行所にうたへて、査検をうけ遣るべし。もしそむくものあらば、とがめ里正等にも及べしとなり」と記されている。

(筆者は岐阜市立女子短大教授)

た芸能・演劇に対して、さまざまの制約が施行される。

『徳川実紀』正徳四年三月十六日の項に、「寺社の境内に猿樂・説経・雜劇・個人戯などすること、元禄中既に禁断せられしに、こひ出る旨ありしをもて、そのをきてをさだめられ、芝居も事かろくかまへ、衣服は木綿をかきり、その他は用ゆべからずとゆるされしに、近ごろ二階段敷をかまへ、衣服もそれにならひて、よろづ美麗にいたる事ひがことなり。いまより後は、かやうのわざすること、一切禁断せらるゝとなり。」と記されている。

又、十九日の項には、

「町奉行に令せらるゝは、ちかごろ堺町、木挽町の劇場、二階、三階すべて屋根をかまへ、衣服美麗を尽し、その他の茶屋までも、宏社に及び、諸事制外のこと出来たるを、きびしくとがむる事もなかつた。」と記されている。

さらに、三月の末日の項には、「この月令せらるゝは、劇場の枚敷、近年は二階三階につくれり。さきさきのごとく一階の外はかたくつくるべからず。枚敷より間道をひらき、楽屋又は座元の居宅及び茶店等に宴を設け、遊興をすゝむる事なすべからず。すべて俳優等、演劇の外、枚敷あるは茶店等に招くものありとも行べからず。尤そのの宅にても、遊客をまねくべからず。枚敷に簾をたるべからず。幕、屏風等もてかこふ事すべからず。劇場の屋簷、近き頃雨の日も、演劇ははらざるやうにつくり成せしが、これもさきさきのごとくかくすべし。俳優の衣服近年美麗になれり。いまよりのち絹、袖、木綿を限り用ゆべし。また演劇夜に遊び、ともし火を點ずる事かたくなすべからず。誦時をかぎりて事を終べし。劇場近きほとりの茶店、いかにもかく敷け、座敷めきたるつくりすべからず。今まで有来れるも、奉行所にうたへて、査検をうけ遣るべし。もしそむくものあらば、とがめ里正等にも及べしとなり」と記されている。

(筆者は岐阜市立女子短大教授)

高安会 西村 欽也 高安 勝久 飯富 雅介 杉江 元	福王茂十郎 〒662 西宮市名次町六番十二号 電話(〇七九八)〇〇七二	宝生欣哉 〒106 東京都練馬区小竹町一五〇一五 電話(〇三三九七二)七二三〇 (〇三三九五五)四七九五	豊嶋十郎 〒111 松戸市下矢切五五五 電話(〇四七三)〇一九八二	龍吟会 藤田六郎兵衛 名古屋市中区福下二丁目一〇番九号 電話(〇五二)五七一五七六三	亀井俊一 保忠雄 保雄	大倉源次郎 〒532 大阪市淀川区宮原五五五八 ロースコーポニール大阪七〇五 電話(〇六三九九七)二三三三
--	---	---	---	---	-------------------	--

幸友会 涛華能 福井啓次郎 福井良久 福井良久 柳原富司 忠	呉竹会 寛三男 寛鈺一	桂後藤孝一郎 叶石会 河村真之介 河村真之介 河村大	谷口正喜 京都市上京区中立売通室町西入 室町スカイハイツ610号	前川光隆 前川光長 京都市右京区御室芝橋町一の六 名古屋種古場 名古屋市中区東二丁目13 ツインクルガーデン前野舞台 電話九三二一八八〇六番
---	-------------------	--	--	---

飯島佐之六 〒920 金沢市香林坊2-8-17	長生会 鬼頭喜太郎 好信	大蔵狂言会 大蔵彌右衛門 大蔵吉次郎 大蔵彌太郎 川崎市麻生区岡上四三八一 電話(〇四四)九八七二 一八七番	名古屋和泉会 大垣狂言の会 和泉元秀	名古屋和泉会 狂言共同社 狂言やるまい会 野村又三郎	〒460 名古屋市中区正木二丁目16-25 電話(三三二)七五五三番
----------------------------	--------------------	---	--------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------

(お断り) 専ら広告の掲載は紙面の都合にて勝手ながら七月号、八月号に分けて掲載させていただきます。願不同と併せて何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

二井栄逸師画抄集

'93能画カレンダー

◎予約特価 1部 1500円 (郵送の場合送料とも1部 1850円) (2部以上の場合送料は一律500円)
◎価格・申込要領とも前年とおおりです。お申込みはハガキで郵数記入のうえ当社へ予約申込み下さい。

能楽の友社 (詳細9月号)

能楽の友

発行 能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 0-36393

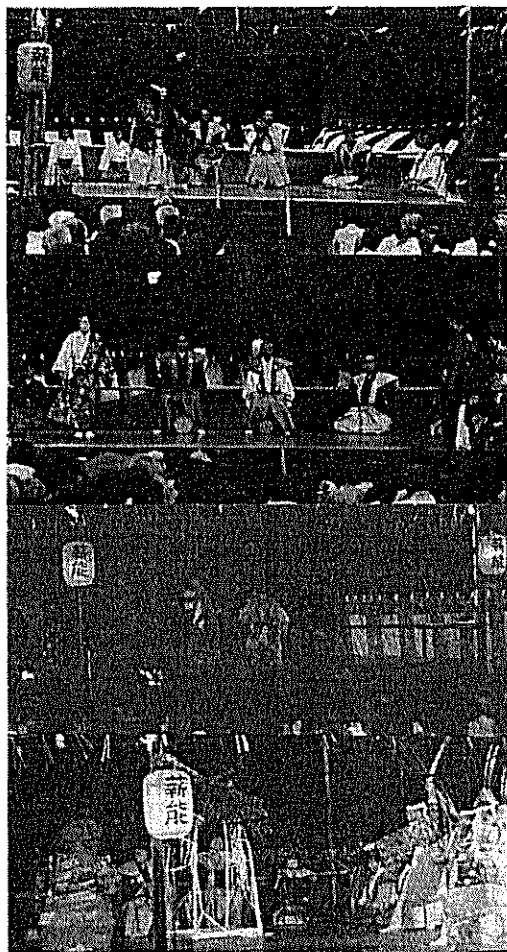
購読料 1年 1000円

郵送の場合 1年 1500円

一 部 90円

演能カレンダー (熱田能楽殿)

- [8月] 29日(土) 衣裳正宜後援会 (有料) (番組②面)
[9月] 5日(土) 大衆能 (愛知文化講堂)
6日(日) 中日文化センター発表会 (来場歓迎)
12日(土) 龍吟会 (有料)
13日(日) 龍吟会 定例式 (有料)
19日(土) 九宝生会 定例式 (有料)
20日(日) 九宝生会 定例式 (有料)
23日(祝) 鳳鳴会 大会 (来場歓迎) (番組③面)
26日(土) 清和会 大会 (来場歓迎)
27日(日) 清和会 大会 (来場歓迎)
[10月] 3日(土) 泉田会 大会 (来場歓迎)
10日(祝) 泉田会 大会 (来場歓迎)
11日(日) 泉田会 大会 (来場歓迎)
18日(日) 藤田追善能龍吟会 (有料)
24日(土) 藤田追善能龍吟会 (来場歓迎)
25日(日) 三交会 (来場歓迎)
31日(土) 名古屋能楽鑑賞会 (有料)
[11月] 1日(日) 邦友会 秋の会 (来場歓迎)
3日(祝) 邦友会 秋の会 (来場歓迎)



第27回名古屋新能

④から能「狂言」正「狂言」附子「能」土蜘蛛

名古屋市立能楽堂 平成6年度着工予定 お城と一体的な展開

市立の能楽堂を名古屋城地区にという要望にこたえ、前号既報のように名古屋市では、名古屋城正門前の広場にその建設場所を決定、そのスケジューリング(予定)としては平成四年度建設調査、平成五年度建築設計、平成五年度から平成六年度にかけて文化財発掘調査、平成六年度建設着工、平成

舞台をもつ専門劇場とする。なお能楽の機能をもつてこたえない範囲で、他分野の利用の意向にこたえるための配慮を行う。
②教育、普及、伝統文化への市民の理解を高めるため、常設の展示室を設けるとともに能楽講座などの普及事業を実施する。
③主要施設 能楽台、見所、楽室、展示室、研修、会議室、稽古室、食堂など。
去る七月十六日熱田神宮能楽殿で、能楽堂についての能楽協会との懇話会では、公共施設を建設するということから、使用回数が増大、他の演劇等の備し並みの料金の設定などについて検討が要望されている。



第27回名古屋新能火入式の儀

Table listing various clubs and organizations such as 大垣清韻会, 梅若万紀夫, 熱田神宮能楽殿 運営委員会, 名古屋観世会, 生韻会, 山中義滋, 久田観正会, 山田修諷会, 賀水会, 加賀敏彦, 能楽講座, 藤田六郎兵衛, etc.

志月雅日記

(132)

初花よりも珍しく

えと文 二井栄逸

庭の若草しげりあい
宵柳糸を乱りつ、
池の浮草波にたゞよい
錦をさらすかとあやまたる
中島の――

松にかゝれる藤なみの
うら紫にさける色
宵葉まじりの遅桜
初花よりも珍しく――

流れるような平家物語の美文を
私は折りにふれて朗読することも
ある。

能・小原御幸(大原御幸とも)
には、後白河法皇が大原の寂光院

に建礼門院をたずねた時の有様を
ほとんど原文のままに描写してい
る。

平家物語――
武士としてはじめて政権をにぎ
ったのは平清盛であった。

強力な軍力と、豊かな経済力
を背景にした清盛の大神合は、貴
族層を圧倒し、文字通り強力政権
となっていた。

妻、時子との間には、重盛、宗
盛、知盛、重衡、徳子があり、徳
子は高倉天皇の中宮となり、その
第一皇子が安徳天皇ということに
なる。



天皇即位の翌年、徳子は建礼門
院の号をたまわったのである。
私は今、何点目の建礼門院を
かいているか、いつになったら門
院らしい絵がかかるのかと筆をと
るたび思う。

幼くして政治の犠牲となった悲
劇の天皇の昔話を再考する門院の胸中
には、さだめしむ往事の平家の全盛
ぶりが去来したことであろう。

第8回 衣斐正宜後援会能

八月二十九日(土)午後一時始

講演 能・伝統芸能
音楽についての話 神津善行

内田 芳子
広島 克榮
衣斐 正宜

飯島 雅介
河村 隆一郎
久野 幸三

後見 辰巳 孝
宝生 英照
山内 崇生

和泉 淳子
三宅 隆九郎
後見 和泉 元秀

宝生 英照
福井 啓次郎

山田 利子
久田 陽春子
鹿取 希世

柏山 隆子
大浦 隆子
石黒 実都

後藤 裕子
倉本 雅
内田 芳子

〔要員券〕
当日券 五千円、学生二千円
名古屋市中村区名駅3-26-12
電話〇五二五八六-1120

金春流カナダ公演

カナダ・モントリオール
市制350周年記念
9月26～28日3日間

社団法人金春山満井会(金春安
明理事長)は、モントリオール市
制三百五十周年記念の特別企画と
して能楽がとりあげられ、日本・
カナダの文化交流の見地から積極
的に協力、きたる九月二十六日か
ら二十八日まで三日間、同地で公
演が行われる。

会場は、モントリオール市立日
本館・日本庭園特別舞台。

<p>正風会 衣斐正宜 千466 名古屋市中村区御器所3-23-19 御器所パークマッシュン802号 電話〇五二八八二-五六〇〇番</p>	<p>衣斐正宜後援会 千466 名古屋市中村区名駅三二六-二六 平松昌彦方 電話〇五二五八六-1120番</p>	<p>竹腰勝一 千466 名古屋市中村区名駅三二六-二六 電話〇五二五八六-1120番</p>	<p>司宝会 千466 名古屋市中村区名駅三二六-二六 電話〇五二五八六-1120番</p>	<p>豊嶋三春 千466 名古屋市中村区名駅三二六-二六 電話〇五二五八六-1120番</p>	<p>金剛流 景雲会 千466 名古屋市中村区名駅三二六-二六 電話〇五二五八六-1120番</p>	<p>宇高通成後援会 千466 名古屋市中村区名駅三二六-二六 電話〇五二五八六-1120番</p>	<p>宇高通成 千466 名古屋市中村区名駅三二六-二六 電話〇五二五八六-1120番</p>	<p>吉川周子 千466 名古屋市中村区名駅三二六-二六 電話〇五二五八六-1120番</p>	<p>金春欣三 千466 名古屋市中村区名駅三二六-二六 電話〇五二五八六-1120番</p>			
<p>本田光洋 東京都中野区上高田二ノ二五ノ二 電話三三三八六-二六四一番</p>	<p>名古屋金春会 林鉄郎 近藤修彦 渡部道三</p>	<p>伊勢金春会 村富次 伊勢市宮町一四一七 電話三三三八六-二六四一番</p>	<p>二井栄逸 松阪市殿町1412の3 電話〇五九八-三三〇二六</p>	<p>長田驍後援会 津市高野町三三三-一四六 電話三三三八六-二六四一番</p>	<p>喜多流 和谷衡市 千516 伊勢市中島二丁目26-12 電話三三三八六-二六四一番</p>	<p>京都・高安流 岡次郎右衛門 向日市上植野町地田一ノ五四 電話三三三八六-二六四一番</p>	<p>富原富司忠 千466 名古屋市中村区山王町七四 八事パークマッシュン五二五 電話八八三三三-1031番</p>	<p>幸清会 正義太郎 千165 東京都中野区丸山二二四-11310 電話三三三八六-二六四一番</p>	<p>高安流 同門会 清水利宜 高坂康弘 森晴蔵 北野耕三 塩田耕三 中川湖弘 伊藤久舟 谷口雅信</p>	<p>宝生哲 千270 松戸市牧ノ原2の1 市営住宅一の50号 電話三三三八六-二六四一番</p>	<p>谷田宗二郎 千603 京都市北区衣笠街道31-7 電話三三三八六-二六四一番</p>	<p>瀬尾乃武 千171 東京都豊島区西池袋1-30-10-105</p>

正徳四年三月二十二日の『鶺鴒籠中記』では、次のように記して

「田中源之丞、御進能芝居、よりてこの考忍の方へ運上可取とい

「能者役者、寺社の境内で能を演

も許可が必要であつたよう、銀

「正徳四年三月二十九日の項には、

「鶺鴒籠中記」享保元年八月十日の

「今春弓八幡、紀州家にては御

「尾張藩の能の歴史」

二日、御口切に上る故三日より出

「鶺鴒籠中記」

「尾張藩の能の歴史」

として、勤修羅などと呼ばれ、喜

「鶺鴒籠中記」

「尾張藩の能の歴史」

平成4年8月・9月放送予定

- (8月) NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)
23日(日) 観世流「安達原」藤井徳三郎
30日(日) 大蔵流狂言「薩摩守」大蔵弥太郎

青柳流太鼓 吉田定男
朝日カルチャーセンター 囃子教室
演能写真 ウシマド写真工房
ビデオ撮影 西川企画
鳳鳴會大会 九月二十三日(秋分の日)
能鉄 山崎佐栄子

能半 朝朝 朝朝
素神 高班 高班
能鉄 山崎佐栄子
素安 菊山 菊山

発行 能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋 0-3 6 3 9 3

購読料 1年 1000円
郵送の場合 1年 1500円
— 90円

能楽の友

若い御二人の門出に

ふさわしい結婚式場

名古屋若宮八幡社

各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)

名古屋市中区栄3丁目35-30 電話 (241) 0810

二十五世

観世左近三回忌追善能

今秋5日間 観世能楽堂で

先代観世流宗家二十五世左近三回忌追善能が今秋東京はじめ京都、大阪、神戸、九州で催される。

東京では、観世能楽堂で十月四日を初日とし、十月十日、十一日、十七日、十八日の五日間。主催観世宗家、観世会。

〔第一日〕能「弱法師・盲目之舞」(関根祥六)「江口」(観世清和)「安達原」(坂井音重)〔第二日〕能「清経」(観世元昭)「杜若」(藤波重満)「養上」(観世若春雄)二十七回忌

追善能之会

春楽会主催、10月17日
春楽会(梅若善高師主宰)主催による故梅若春雄二十七回忌追善能之会は今春三月、東京・観世能楽堂で第一日が行われたが、きたる十月十七日、その第二日として大阪能楽会館で「恋重荷」「千手」「石橋」の能三番が上演される。

大阪

能「恋重荷」(シテ梅若善高、ツレ梅若善久)
能「千手」(野曲之舞(千手・梅若六郎、重衡、梅若万紀夫))
狂言「千石」(茂山千三郎、善竹幸四郎)

二人の会

9月13日 金剛能楽堂
金剛流・松野若蕙、宇高道成兩師の「二人の会」は九月十三日、京都・金剛能楽堂で第十三回公演を開催する。午後一時始め。

新作能面展

日本能面巧芸会(村藤雲会長)は九月一日から六日まで名古屋市博物館で「新作能面展」を開催。同展は今回で十一回にあたり、会員の新作百点を出品。愛知県教育委員会及び名古屋市教育委員会後援。

西村欽也氏が語る

CBCテレビ(5チャンネル)
金曜日午前十時二十五分〜十時三十分の「文化と人」の番組で、九月十一日(金)能楽ワキ方、高安流、能楽協会名古屋支部長、西村欽也氏が登場する。聞き手は鷲塚美知代アナウンサー。

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

9月	12日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	13日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	19日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	20日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	23日(祝)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	26日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	27日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
10月	3日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	10日(祝)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	11日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	18日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	24日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	25日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	31日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
11月	1日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	3日(祝)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	7日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	8日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	14日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	15日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	21日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	22日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	23日(祝)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	28日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	29日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
12月	5日(土)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	6日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)
	13日(日)	能観	舞世	台会	と定	の式	交例	聖能	(有料)	(番組①面)

(演能変更の際はご了承下さい)

能舞台との交響

九月十二日(土)午後六時開演
熱田神宮能楽殿

管・小鼓・ジャズ・パーフォーマンスの共演
管・シャンソン
小鼓
ジャズボーカル
バファーマンス
TakaChan

演奏 HACHIYAMA・J・BAND
(Piano) 八幡正人
(Drums) 鈴木孝一
(E・Bass) 松川剛
(Vin) 日下尚子

構成・演出 藤田六郎兵衛
入場料金 三千元(全席前売のみ)

サントリー(特提供によりお飲物と軽食(それぞれ有料))を用意。公演の収益の一部およびサントリー(特提供による)飲物の収益は名古屋文化振興基金に寄付される。

主催 能舞台との交響実行委員会
後援 サントリー株式会社名古屋支社
日本パーテンドー協会中日本本部 名古屋支部

チケットのお求め、問い合わせ
藤田六郎兵衛(TEL0521557157) 八幡音楽事務所(TEL0561311451) 熱田神宮能楽殿(TEL0521682175)

名古屋観世会定式能(四回)

九月十三日(日)十二時半開演
熱田神宮能楽殿

班	女	能	能	組
武田 志房	指吸雅之助	吉田 定男	藤田六郎兵衛	
間	佐藤 友彦	後藤 孝一郎		
後見 小島 一英	須部 保彦	古橋 正邦		
野村 四郎	高橋 敏彦	中川 邦和		
地謡	加賀 敏彦	武田 正邦		
後見 大野 弘之	井上 松次郎			
井上 松次郎				
後見 佐藤 友彦				

放下 僧小歌 武田 宗和 地謡 中川 雅章 助
原 野村 四郎 地謡 梅田 正邦
泉 能 後見 武田 宗和 地謡 武田 正邦

阿 泉 関根 祥六 飯富 雅介 福井 啓次郎 鹿野 喜太郎 鹿取 希世

附祝言 後見 小島 一英 地謡 今村 嘉男 久田 徹二

名古屋観世九奉会定例能(納金) 九月十九日(土)午後一時始
熱田神宮能楽殿

加藤 保彦 高安 勝久 高木 美智子 鹿取 希世

能 清 中野 宜夫 高安 勝久 高木 美智子 鹿取 希世

狂言 箕 被 井上 松次郎 佐藤 友彦 後見 井上 松次郎

仕舞 放下 僧小歌 小林 喜久 高橋 敏彦 高橋 敏彦

能 三 觀世 喜之 西村 欽也 河村 総一郎 鹿野 喜太郎

附祝言 後見 觀世 喜之 地謡 高橋 敏彦 高橋 敏彦

主 催 事 務 所 名 古 屋 觀 世 九 奉 会
千 47 名 古 屋 市 南 区 元 堀 町 一 一 一 七 (加 藤 保 彦 方)

TEL 052 (61) 3659

志月雅日記

(133)

アカソの花

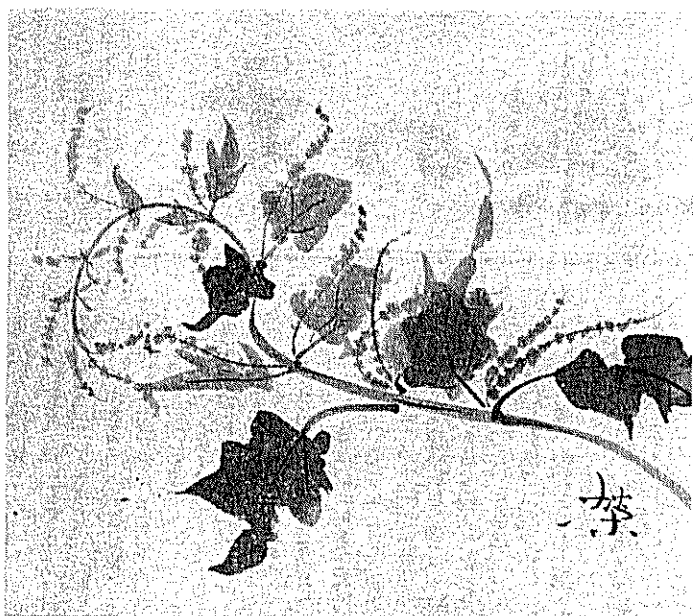
えと文 二井栄逸

長い雨が久しぶりに晴れた爽やかな日であった。森の木陰がしきりになつかしくなったので、出かけることにした。

泉の森は其の後どうなっているのか、みて置きたかったので立ち寄って見る。昨年来た時は、湧水

がかれていたが、気になっていた森の泉には渾々と水が湧いていたので安心した。

陽の光が樹々にさえぎられ、木の下層になった森は、しんと静まりかえって、吹く風は涼しかった。この水は、多分堀坂連山から湧



森田光春氏逝去

笛方森田流
森田光春氏は八月二十三日午前七時三十分、心不全のため京都市東山区の京都第一赤十字病院で逝去された。享年七十六歳。

告別式は二十六日午後一時から京都市東山区下河原町の高合寺で

執り行われ、多数の会葬で故人の業績をしのび盛儀であった。喪主は長男光広氏。

故森田光春氏は、本名森田興、重要無形文化財能楽総合指定、日本能楽会理事、能楽協会京都支部副支部長をつとめ能楽界の重鎮として尽力された。自宅は京都市東山区八坂上町三七六。

謹んでご冥福をお祈りします。

名古屋宝生会定式能(第36期)

九月二十日(日)午後一時始

熱田 神宮 能楽殿

岩舟

稲川 寿一 能
飯富 雅介 河村真之介 助川 龍夫
高安 勝久 後藤 孝一郎 鹿取 希世
杉江 元 佐藤 友彦 石森 智幸 鬼頭 喜男
後見 辰巳 孝 地謡 清水 利光 竹腰 正一
辰巳 満次郎 久野 幸三 衣野 正一

空腕

松浦 ちひろ 能
井上 祐一 井上松次郎 友彦
竹内 澄子 河村総一郎 藤田 六郎兵衛
杉江 元 柳原富司忠 藤田 六郎兵衛
井上礼之助

富士太鼓

後見 戸田 和雅 地謡 芳賀カズ子 村井 博子
倉本 和雅 山本 幸子 足立 博子
仕 舞 馬場 富四夫 前田 幸子
兼 平 正宜 地謡 藤田 六郎兵衛
松 能 虫キリ 衣野 正一 藤田 六郎兵衛
佐野 萌 飯富 雅介 藤田 六郎兵衛
大野 誠

阿漕

後見 辰巳 満次郎 地謡 中島 静男 衣野 正一
佐藤 耕司 地謡 松尾 尚人 藤田 六郎兵衛
藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛

附祝言

主催名 古屋宝生会
事務所 名古屋市昭和区川名本町二ノ五一
鬼頭喜男 電話七六一四九三五

鳳鳴会大会

九月二十三日(秋分の日)

午前九時半始

鳳鳴

熱田 神宮 能楽殿
村上 清千才 武田 友志
三村 恵子 山下 恵美子
高 砂 村上 郁子 伊藤 義郎
班 女 木下 義國 山森 幸男
頼 政 矢野 義章 大坪 重遠
鸚鵡 小町 高橋 すすの 武田 志房
朝 長 征山 忠 中川 雅章
朝 長 木本 仁之 松井 弘
長谷川京子 藤田 六郎兵衛
常好 河村総一郎 藤田 六郎兵衛
藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛
藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛
藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛

能半

仕舞 羽 衣キリ 箕浦さおり 藤田 六郎兵衛
山崎 東子 風 石井 鏡子 安福 光雄 藤田 六郎兵衛
山崎 東子 山崎 東子 藤田 六郎兵衛
藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛
藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛

能鉄

村雨 山本 一 安福 光雄 藤田 六郎兵衛
子方 箕浦さおり 藤田 六郎兵衛
高橋 一政 藤田 六郎兵衛
清沢 一政 藤田 六郎兵衛
祖父江 修一 藤田 六郎兵衛
小島 一英 藤田 六郎兵衛
同山 小川 明宏 藤田 六郎兵衛
浅井 一元 武田 宗和
勸進帳 三宅 右近
クリ・サシ・クセ技

素福安

菊 童 武田 志房 藤田 六郎兵衛
船 武田 友志 藤田 六郎兵衛
藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛

番外仕舞

武田 志房 藤田 六郎兵衛
武田 友志 藤田 六郎兵衛
藤田 六郎兵衛 藤田 六郎兵衛

秋の清謡会(十五)

九月二十六日(土)午前十時始

熱田 神宮 能楽殿

葛玄

師長 那波 悦子 丹下 操
高見かね子 山岡 米子
加藤 茂代 山岡 米子
水越 弥生 助川 龍夫
柳原富司忠 大野 誠
柳原富司忠 大野 誠
柳原富司忠 大野 誠
柳原富司忠 大野 誠

松羽

絹 林 和子 助川 龍夫
大久保 草苗 助川 龍夫
福井 啓次郎 助川 龍夫
福井 啓次郎 助川 龍夫
福井 啓次郎 助川 龍夫

西行

不敬 峰子 福井 啓次郎 助川 龍夫
加代 福井 啓次郎 助川 龍夫
福井 啓次郎 助川 龍夫
福井 啓次郎 助川 龍夫
福井 啓次郎 助川 龍夫

須磨源氏

河村真之介 助川 龍夫
河村真之介 助川 龍夫
河村真之介 助川 龍夫
河村真之介 助川 龍夫

附祝言

主催 清 沢 政 会
電話八〇五六四V五二一六九〇九

【鶴鶴籠中記】享保二年正月二日の項に、「江戸にて、地盤御役者岩村(イ室)藤兵衛夜寝乱心白書」とある。何か事情があったのであろうが、その説明はない。享保二年二月三日、大岡忠相が町奉行になり、越前守とあらためる。(「徳川史紀」)
享保二年四月三日、尾張藩主六代目継友(つぐとも)が、始めて、尾張へ帰国のため、江戸を出発する。名古屋へ着くまで九日かかっている。宿泊したところは、戸塚・小田原・沼津・江尻・金谷・浜松・御油・鳴海・名古屋の順になつていく。

藩主の入国を祝賀して、通例のごとく能が演じられる。「鶴鶴籠中記」によって、その日の演能の様子を、紹介することにしたい。
「六月小朔日……御能屋過始、未三刻終。御能屋奉行森本孫介、海保弥之右衛門、御黒門頭都筑元右衛門、馬場三右衛門、御白洲の上を無障にてはりつづかれば、上。御出被遊候へば、扇つかはれず甚蒸暑堪へがたし。大橋小伝治、下に拾を着出、支度のとき、汁はつめた水あへ得食せず、酒を少づづ吸て、飯を喫す。而蒸暑氣遠くならず。宵の間の東にて立しが、例れ、正気なく、漸にて蘇す。二子介抱し歩行し飯(福)。御白洲の町人へ、こわめしつゝ、み被下。其日、の札也。惣支度二千人前後持ゆと。其内一汁一菜の方千五百人前也。汁は白瓜等あつめする。白瓜の水あへ也。ならづけ香之物二切づつ。御酒被下。御白洲へ七百八人余と云々。黒大豆入し強食、八百五十余つつみ出。御家老より朝岡弥五右衛門等迄同席にて、二汁三菜の御料理。千石以上は御書院番所にて、御歩行の衆通ひ也。

鶴 千歳 伝六。三番更 儀兵衛。面箱 忠三郎
高砂 シテ源之丞 礼賜 又三郎
大鼓 七左衛門 小鼓 九十郎
大鼓 平次郎 笛 六郎兵衛
狂言 末広がり 藤左衛門
田村 シテ伝六 ワキ喜十郎
大鼓 左衛門 小鼓 九十郎 笛 七郎
狂言 今参り 和泉
羽衣 シテ喜左衛門 ワキ忠藏
大鼓 七左衛門 小鼓 九十郎 三郎 太
鼓源兵衛 笛 六郎兵衛
道成寺 シテ源之丞 ワキ助左
衛門 大鼓 平次郎 小鼓 忠兵衛
太鼓 平次郎 笛 六郎兵衛
間狂言 和泉 藤左衛門
狂言 ちぎり木 三太夫
祝言 呉服 シテ助九郎 ワキ

尾張藩の能の歴史(六)

半兵衛 大鼓 丘助 小鼓 源助 太鼓 長政 笛 六右衛門
その日の能は、八時頃から二時半頃まで演じられたりである。雨が降ったり止んだりの空模様であったことより、白洲の上は賑わ子を張つたために、風が上らさず、蒸し暑く、その上、藩主がお見えになる折は、扇も使えず、堪えがたかったと述べている。そのため、大橋小伝治という者が、氣絶したとある。白洲の町人には、いつものように、こわめしつづけて下げて渡される。大体、総勢二千二人分の一汁一菜の者が、千五百人分、御家老などの上席の武士は、二汁三菜の料理であった。一汁一菜の料理の支度には黒門の足籠三十人が、給仕やもり方についたようである。その他料理の準備に、五十人位が、取り掛かっていた。

は、「采女」で遊ばせてはいるが、「羽衣」は、三番目の能としては初めてである。「東北」は、和泉式部がシテであることから、文学的、和歌的の情が主となる王朝を模古する風雅な能であるが、「羽衣」は、天人の舞を見せる遊樂的、はやぎのある、太鼓序の舞物である。「疑いは人間にあり。天に偽りなきもの」という名文句は、江戸幕府に対する尾張藩の態度表明の思いがあつたことかどうか、深読みし過ぎるかも知れない。
二日目は、次のように記されている。
「三日 雨……昨日今春八左衛門門にて到着により老松を仕。花信は吾家になきとて揚貴妃を仕

平成4年9月・10月 放送予定

〔9月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時～9時)	
13日(日)宝生流「絃上」「清経」今井 泰 男	
20日(日)観世流「俊寛」「小銀治」観世 栄 夫	
27日(日)金剛流「郡郎」「熊坂」金 剛	
〔9月〕NHKラジオ第2放送(午後5時～6時)	
15日(祝)素謡・喜多流「杜若」「百万」喜多節 世 ほか	
23日(祝)素謡・金春流「俊寛」「経政」金春信 高 ほか	
〔10月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時～9時)	
4日(日)観世流「富士太鼓」藤波 重 瀧	
11日(日)金春流「半部」「紅葉松」高橋 汎 助	
18日(日)宝生流「柏崎」近藤 乾 之	
25日(日)観世流「熊坂」吉 井 順 一	
〔NHK教育テレビ〕祝日能	
9月15日(火)休 止	
9月23日(水)午前9時～10時15分	
復曲能「鐘巻」シテ浅見真州ほか	
10月10日(土)午前9時	
宝生流「阿漚」シテ高橋 章 好	
ワキ 森 常 好	
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)	

八左衛門奈良の役者にて、神領の内式百石被下。尾公より元米百二十石宛被下。公儀より十五人扶持被下。常に千石斗のくらしと云々。
一汁一菜千人前。御白洲は昨日より人多見ゆ。札の敷一日に八百人づつの積りと云々。辰半始。揚貴妃遊御中入。
老松 シテ源之丞 礼賜 忠藏
太鼓 甚之右衛門 小鼓 喜兵衛 太鼓 伝左衛門 笛 六郎兵衛

狂言 八幡のまへ 和泉
八嶋 シテ助九郎 ワキ若助
太鼓 三郎兵衛 小鼓 九十郎 笛 源右衛門
間狂言 丹藏
狂言 びくさだ 加左衛門
揚貴妃 シテ八左衛門 ワキ助左衛門 大鼓 三郎 小鼓 忠兵衛 笛 加兵衛
望月 シテ源之丞 ワキ又三郎 大鼓 孫三郎 小鼓 九郎三郎 太鼓 平次郎 笛 六郎兵衛
間狂言 加左衛門
狂言 首引 源助
祝言 金札 シテ伝六 ワキ五郎 兵衛 大鼓 半左衛門 小鼓 仁左衛門 大鼓 伝左衛門 笛 番左衛門
二日目の能は、金春八左衛門を、奈良から招いて、「揚貴妃」を演じさせている。当初は、「花信」を演じさせようと思つて、花信を演じていないといふことである。今日では、当然演じられる曲と思つて、当然演じられる曲と云々。

舞台からの名演技を名筆で描く……

二井 栄 逸 師 画 抄 集

93 能画カレンダー

ご好評を頂いております能画カレンダー1993年版。B3(タテ51.5cm×ヨコ38.0cm)表紙とも7枚の美麗カレンダーです。

- 予約特価 1部 1500円、郵送の場合送料とも1部1850円 (2部以上の場合は、部数にかかわらず送料は一律500円、例・3部の場合送料とも5000円)
- 予約申込み期限10月30日(それ以後は1部2000円、但し部数によりお応えできない場合がありますのでご理解下さい)
- お申し込み方法 ハガキで部数明記のうえ当社へお申し込み下さい。代金は振替、切手、現金書留いずれでも結構です。(電話での受け付けはいたしませんのでご理解下さい)

申し込み先 **能 楽 の 友 社**
〒464 名古屋市千種区千種2-18-18
振替口座 名古屋 0 - 36393

和泉流狂言大会

九月二十七日(日)十一時始
熱田 神宮 能楽 殿

雁 大名 大 名 中北宇多子	狂言組	伊文字 通行 人浅野由記子	主 太郎冠者 能登香茶枝 主 足立 米子
伊文字 通行人浅野由記子	主 太郎冠者 中西 純子 主 増田 昭典 主 平野 豊	陣 狸 太郎冠者 石黒 生子	主 人富田 智之
陣 山 太郎冠者 角田 淑子	主 人増山 幸司	陣 山 伏 小柳 保志	主 人増山 幸司
陣 山 太郎冠者 角田 淑子	主 人増山 幸司	陣 山 太郎冠者 角田 淑子	主 人増山 幸司
陣 山 太郎冠者 角田 淑子	主 人増山 幸司	陣 山 太郎冠者 角田 淑子	主 人増山 幸司

名古屋皇楽会秋季大会

十月三日(土)午前10時始
熱田 神宮 能楽 殿

〔御来場歓迎〕

伊文字 通行 人浅野由記子	主 太郎冠者 高橋 幸子 主 高橋 美子
首 引 姫 親 鬼林 朝子	立業(鬼) 富田 智之
鬼 足立 米子	石黒 生子 主 増田 昭典 主 平野 豊

〔御来場歓迎〕

能 葛 奈倉 早苗	大和舞 飯富 雅介 福村総一郎 藤田六郎兵衛
能 城 飯富 雅介 福村総一郎 藤田六郎兵衛	井上 祐一 矢橋 浩吉 五木田武計 盛キリ 後藤 新藏
能 硯 矢橋 浩吉 五木田武計 盛キリ 後藤 新藏	能 求 塚 諸隈 良吉 観世 喜之 深見 しげ 福井啓次郎 鹿取 希世 河村総一郎 助川 龍夫 藤田六郎兵衛
能 野 宮 深見 しげ 福井啓次郎 鹿取 希世 河村総一郎 助川 龍夫 藤田六郎兵衛	能 融 外山 圭一 河村総一郎 助川 龍夫 藤田六郎兵衛

武田謡楽会秋季大会

十月十日(祝) 午前九時始

熱田 神宮能楽殿

舞臺子 經

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 俊

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 隅

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 成

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 礎

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 歌

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 雲

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 天

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 放

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 遊

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 女

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 行

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 山

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 松

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 求

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

幸謡会大会

十月十一日(日) 午前十時始

熱田 神宮能楽殿

舞臺子 經

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 花

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 東

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 北

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 芭

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 三

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 清

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 老

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 通

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 融

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 弱

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 法

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 師

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 村

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

舞臺子 邦

正 武田 大和 河村真之介 大野 誠

葉月、盛夏の新能や新狂言と

「第八回衣斐正直後援会能」

竹尾邦太郎

「第28回名古屋新能」 新能流行りである。不定期を含め東海三県下だけでも次の各地で夏のイベントを盛り上げる新能がある。...

流剛流 宗家本流 元行元 榎書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話03(3291)2488-9 振替東京3-3552 〒604 京都市中京区二条通数屋町東入 電話075(231)1930 振替京都1-113

能楽の友

発行能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18 (郵便番号 464) 電話 (731) 7984 振替口座 名古屋 0-36393 購読料 1年1000円 郵送の場合 1年1500円 郵部 90円

能楽師養成会を開講

愛知県の「文化活動事業補助」

能楽協会名古屋支部が実施

能楽協会名古屋支部(西村敬也支部長)はこのたび愛知県の「文化活動補助制度」に基づき、協会支部の事業として「能楽師養成事業」を行うことになった。これは将来「能楽師」として活動してみようと思っている方に対し基礎的な指導をしようというもので、受講対象は小学生から二十五歳まで、講師は能楽協会名古屋支部の能楽師が担当、協会で参加希望を募っている。すでにこの事業が発注されてから十数名の応募があり、十月十九日には初受講が行われている。能楽師養成事業の応募要項は次のとおり。資格については、過去の経験を問わない。年齢は原則として小学生から十歳以上、中学生以下とする。

津ベストシチズン賞 喜多流 長田 曉氏が受賞

津商工会議所青年部は、活力ある津を青年の手で、々々を実現するため、津の名産を全国に広めた方に「津ベストシチズン賞」を設定しているが、今回第七回受賞者として、喜多流シチ方・長田 曉師が決定、十月十日に贈呈式が行われた。授賞は「津市を本拠地に能楽の普及、啓蒙に努力しているほか全国的にもはじめての試みである『学校公演能』を開催するなど伝統古典芸能の振興に尽力され、市民文化の向上に多大の貢献をされた」ことが挙げられている。

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

Calendar table with columns for dates (10月, 11月, 12月), days of the week, and event names like '幸田追善能', '藤三古屋能', etc.

二十五歳までとする。シテ・謡・狂言・能子(笛・小鼓・大鼓・太鼓)の何れかを専科とし、他の役も副科として自由に選択し、受講できる。

・受講料は、「無料」。・研修場所は主に「熱田神宮能楽殿」にて行う。・講師は能楽協会名古屋支部員が担当するが、状況に応じて他より講師を招くこともある。・募集期間の制限、及び試験はない。希望者には随時面接を行い可否を決定する。(後日連絡) 問い合わせ 申込先 熱田神宮能楽殿 電話六八二一七五二 能楽協会 名古屋支部員宅 電話六八二一七五二

13回忌追善能

10月18日 熱田能楽殿 節方藤田流十世宗家・藤田六郎兵衛重明師は昭和十五年十月逝去されたが、ことし十三回忌をむかえ、さたる十月十八日(日)熱田神宮能楽殿で追善能が催される。主催藤田六郎兵衛。

観世鏡之丞、片山九郎右衛門、片山慶次郎、宝生欣哉の諸師が来演、秘曲の清経・恋之音取、(シテ観世鏡之丞)狸々乱(シテ梅田邦久、さらに本年度の名古屋市の芸術祭参加作品として松風・見留(シテ片山九郎右衛門)が上演される。入場料一万円(全自由席)(番組①面掲載)

十世藤田六郎兵衛重明 十三回忌追善能

Table listing performers and roles for the 13th anniversary memorial service, including names like 観世 鏡之丞, 西村 欽也, 吉田 定男, etc.

Table listing performers and roles for the 'Judai no Aki no Taikai' (Autumn Festival of the Judai Association), including names like 後見 味方 欣司, 地謡 清沢 一政, etc.

三交會大会

Table listing performers and roles for the 'Sanjukai Taikai' (Three Associations Meeting), including names like 藤田 神宮 能楽殿, 熱田 神宮 能楽殿, etc.

Table listing performers and roles for the 'Judai no Aki no Taikai' (Autumn Festival of the Judai Association), including names like 藤田 神宮 能楽殿, 熱田 神宮 能楽殿, etc.

Table listing performers and roles for the 'Judai no Aki no Taikai' (Autumn Festival of the Judai Association), including names like 藤田 神宮 能楽殿, 熱田 神宮 能楽殿, etc.

Table listing performers and roles for the 'Judai no Aki no Taikai' (Autumn Festival of the Judai Association), including names like 藤田 神宮 能楽殿, 熱田 神宮 能楽殿, etc.

十月雅日記

(134)

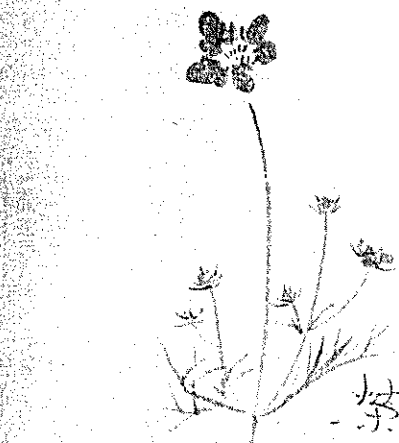
マツムシソウ

えと文 二井栄逸

八月半ば頃になると、秋の高原をいづる代表的な花、マツムシソウが咲き始める。

丁度、此の花は秋空の色によく似た花なので、風の吹く日は、空にとけ込んでゆくように見える。きびしい自然の中で密やかに咲く花であるが、なかなか、たくましく存在感のある花でもある。

マツムシソウの仲間には、ヨーロッパ、アジア、アフリカに約八十種分布するといわれているし、日本に分布するマツムシソウもスカ



ビオサ・ジャポニカという名前を呼ばれ、高原をいづるといっている。涼風が吹き、草陰でチンチロリンというマツムシの音がきこえ始めるころ、山野の草原では、空色をしたマツムシソウの花が盛りとなり、「マツムシソウが咲きだしたからもう秋ですね」といふのが山の人たちの挨拶のことになる。

あいちの芸術家たちシリーズ 愛知芸術文化センター開館記念

濤華能

十二月十二日(土)午後二時始
愛知芸術文化センター
コンサートホール

講演 舞と仕草

舞子三番 曳採之段

舞子三番 老野村

狂言 三本柱

能 杜若

附 祝言

主催 福井啓次郎
愛知県文化振興事業団
指定席 五千円、自由席 三千円
取扱い 名古屋市中区大須三丁目二四〇 福井方

梅若盛義こころみの会

10月18日 国立能楽堂
第六回梅若盛義こころみの会は十月十八日(日) 東京・千駄ヶ谷の国立能楽堂で、本年度文化庁芸術祭参加にて、能「屋島・大車」を公演する。午後一時半開演。

東 豊春会秋の能

豊春会(豊嶋三千春節主幹)は十月十八日(日) 京都・金剛能楽堂で創立三十周年記念・秋の会を開催。

一調「鐘之段」(重本昌三、谷口正喜) 舞子「魚説法」(茂山千五郎、佐々木千吉)
能「屋島」(豊嶋三千春、ワキ高坂康弘、ツレ岡田晃一、ワキ宝生間、野村万作、笛・藤田大五郎、小鼓・鶴沢速雄、大鼓・捕原崇志、地謡・井上喜久ほか)
入場料 一般五千円、午後一時始。

93能画カレン

毎年好評をいただいている日本画壇の能画家・二井栄逸師(本紙連載「青雅日記執筆」)の作品による「能画カレン」は現在予約受付中ですが、平成五年度は新

能清 八木栄子

飯富 雅介 寛 敏一 藤田六郎兵衛

舞子 龍

田 仲尾 和子 柳村其之介 大野 誠

野 宮原 小夜

福井啓次郎 鹿取 希世

菊 童 原田千恵子

吉田 定男 鹿取 希世

源氏供養 後藤弘次郎

寛 敏一 大野 誠

船 弁慶 伊藤さち子

吉田 定男 大野 誠

運調天 鼓下田 雄三

村瀬登美子 八木 栄子

仕舞 鶴 坂崎 耕三

木村 朝一

紅 葉 小谷 隆之

日比野清栄

仕舞 島 衣キリ

瀬戸 勝治

番外仕舞 大瓶 輪

安井 清治

〔御来場歓迎〕

主 濱 三 瀬 戸 三 津 子 会 補佐 橋 岡 慈 観

名古屋能楽鑑賞会公演

十月三十一日(土)午後二時始
熱田 神 宮 能 楽 殿

解説 演劇評論家 堂本 正樹

木 六 駄 太郎冠者 野村 万作

主人 野村 武司 茶屋 野村 万作 伯父 野村 又三郎

師長 大槻 文蔵

竜神 山本 博通 結 河村 信重

梅若 六郎

宝生 間 曾和 正博 前川 市和

上 宝生 間 曾和 正博

白坂 信行 杉 市和

〔要員券〕 臨時会員券七千五百円(自由席) 取扱いIIチケットぴあ(052-233-0199) 市内各プレイガイド、事務局、熱田神宮能楽殿

秋の邦謡会

十一月一日(日) 九時半始
熱田 神 宮 能 楽 殿

清 松井 麻子

高橋 和成 森 培根

千 手 安達 道子

田中 美子

丸 佐藤 英生

都築 健二

上 徳田 文代

宮川 千寿 井上 苑枝

定 家 若麻績雄

山口 三好

松 風 坂野 喜子

岡田 春江

仕舞 笠 之 段 小沢日出子

河村とし江

雨 之 段 高野千鶴子

野田 博子

玉 之 段 坂野 富子

藤田六郎兵衛

筒 高安 勝久

河村三郎 藤田六郎兵衛

能 井 間 野村又三郎

須部 甫助 橋本 邦久 河村 和重

舞子 松 虫 丸井 寿子

河村真之介 後藤孝一郎 後藤孝一郎 鹿取 希世

幸友会秋の会

十一月三日(祝)午前十時始
熱田 神 宮 能 楽 殿

〔御来場歓迎〕 能「羽衣」(シテ林権代子、小波水谷朱代)、舞子、一調、運調など

尾張能楽の名人・上手こぼれ話 (四)

小島 廣次

〔平成4年3月号(303号)のつづき〕

光友が側近だけで演能できるよ...

「音階」が詳細にその経緯を記...

「石橋」は観世・金春・宝生...

金剛四座の家に伝があったが...

「石橋」を演ずるに命じた...

の間に、無役禁足を条件に...

まず蜘蛛舞師(くもまいし)、...

その後、五代將軍綱吉によつて...

密にするので常々稽古もできず...

い家中自慢である。それが能であ...

召出されるまでつづいた。元禄五...

美謡会秋季大会 十一月七日(土)午前九時半始

名古屋観世会定式能 (五回) 十一月八日(日)午前十一時開演

平成4年10月・11月放送予定

附祝言 主権名古屋観世会

友 社 能 楽 の 友 行 発

名古屋千種区千種2丁目18-18 (郵便番号 464) 電話 (731) 7984 振替口座 名古屋 0-36393 購読料 1年 1000円 郵送の場合 1年 1500円 送料 90円

能 楽 の 友

「鳳の会」公演

12月5日 いりなかスクエア 狂言「鳳の会」(林和利代表) は、第二回公演をきたる十二月五日(土)、昭和区の「いりなかスクエア」で開演する。演目は「寝音曲」(井上祐一、井上靖彦)、「悪太郎」(佐藤友彦、井上礼之助、大野弘之)。

新しい文化発信の拠点 愛知芸術文化センター

開館祝賀で「三番叟」上演

愛知県芸術劇場、美術館、県文化情報センターが集まり、愛知県の文化の新しい拠点となる「愛知芸術文化センター」が十月三十日オープンした。場所は名古屋市中区東区東一丁目地上十二階、地下五階建、音楽、演劇、オペラ、会議などホールではさまざまな催しが行われる。芸術劇場は三つの異なる機能をもった専用ホールとして、大ホール、コンサートホール、小ホールが設けられている。

文化庁移動芸術祭能楽公演

平成四年度文化庁移動芸術祭能楽公演は、金剛流能「清経」替之型、大藏流狂言「止動方角」で、中国地方では鳥取県米子市文化ホール(十一月九日)、岡山県井原市市民会館(十一月十日)、九州では熊本県本渡市民センター(十一月十二日)、長崎県福江文化会館(十一月十四日)で上演。出演は金剛流流田田隆一、豊嶋一寛、金剛水鏡、田田泰三、松野恭敏、今井清隆、宇高通成ほか、ワキ中村弥三郎、笛・一噌隆之、小鼓・曾和正博、大鼓・中村喜彦、狂言方は茂山千之丞、茂山千五郎、茂山正義、茂山千三郎、丸石やすしの諸氏。

茂山三郎氏 紫綬褒章受章

学問、芸術など文化的分野ですぐれた業績のあった功労者に贈られる紫綬褒章が十一月三日発表され、能楽界では、大藏流狂言方・茂山三郎氏(日本名茂山千三郎)が受章された。

新城の能装束

愛知県新城市新城能楽社所蔵の能装束、狂言装束が国立能楽堂特設展示

新能鑑賞会

春日井市、春日井市教委主催による「新能鑑賞会」が十一月二十八日(土)春日井市民会館で行われる。午後六時半開演。協力：狂言「呂運」(野村又三郎、松田高義、野村信行) 能「船弁慶」前後之替(シテ梅田邦久、ワキ西村欽也) 全指定席(A)二千円(B)千五百円。問い合わせは春日井市教育委員会文化振興課(電話〇五六八八五)まで。

「自然居士」上演

能楽の普及をめざして平成二年に瀬戸市に誕生した「能に親しむ会」(事務局瀬戸市川西町二一九三、水野方)は、日本に出合ふ能・狂言のタイトルで本年度は十二月六日(日)尾張旭市文化会館で能「自然居士」(シテ観世鏡之丞、ワキ宝生閑)狂言「鏡の音」(野村万作ほか)を上演する。とくにこの公演では、尾張旭市教委が後援、瀬戸市教委が推薦で、広く青少年に上よかけ、小・中・高校の教師引率による鑑賞が企画されている。午後一時開演。企画構成藤田六郎兵衛氏。

名古屋宝生会定式能(第436回)

十一月十五日(日)午後一時始 熱田神宮能楽殿

忠

辰巳満次郎 高安 勝久 河村総一郎 大野 誠 後見 玉井 博祐 堀 道夫 廣島 克栄 後見 戸田 和 地謡 堀 幸三 衣 正宜 杉江 元 後藤 嘉津等

吉野

後見 辰巳満次郎 大松福三郎 堀 幸三 伊藤 通行 佐々木輝雅 竹 廣島 勝一 女 辰巳 孝 地謡 竹 廣島 勝一 城 廣島 克栄 地謡 竹 廣島 勝一 花 辰巳 孝 地謡 竹 廣島 勝一

紅葉狩

足立 知子 玉井 博祐 堀 道夫 堀 幸三 伊藤 通行 佐々木輝雅 竹 廣島 勝一 野 井上礼之助 井上松次郎 後見 井上 祐一

附祝言

主催名 名古屋宝生会 事務局 名古屋市中区川名本町二ノ五一 鬼頭嘉男方 電話七六一四九三五 臨時会員券 五千円

名古屋正花会 初会記念番組

十一月二十一日(土)午前十時半始 熱田神宮能楽殿 番外仕舞 天 鼓 山本 基之 山本 章弘 仕舞 花 月キリ 前田 和子

舞臺子 西 王 母 石黒 鏡子 鏡 鏡一 東 北 甘 柏 良枝 鏡 鏡一 吉野 天人 吉田 光代 鏡 鏡一 仕舞 笠 之 殿 滝川 一司

岩波講座 能・狂言 全七巻 別巻一 この半世紀の研究成果を集成して、能と狂言の全体像を明らかにする。戦後急速に進化した能楽研究の成果を、その中核を担ってきた先生方の協力を得て集大成し、能楽全般にわたる基礎知識を提供する総合講座。能楽の歴史や台本研究の最新の成果を示すとともに、現代に生きる能楽として、演劇・音楽などの面から十分に本質を解明する。また、現行曲の大半について、その舞台の姿・特色を明らかにした鑑賞案内にも二巻をあて、別巻「能楽図説」は千五百点もの図を使用し、工夫を凝らした。内容見本進呈

能・狂言 横道萬里雄 小山弘志 表章 第一回(巻頭) 能楽の歴史 表章 天野文雄 近年の著しい研究成果をふまえて、能・狂言の演劇としての発展過程を重視する新しい視座からの能楽史解明。

岩波書店 東京・千代田・一ツ橋 (定価は税込み) 予約出版 申込期限 12月20日 本講座は、全巻予約の方におお願ひいたします。小売書店にお申し込み下さい。第三回(第10巻)は12月9日刊行の予定。以後、毎月一冊ずつ刊行の予定です。

金春八左衛門の生活については「神領の内貳百石被下。尾公より元米百二十石宛被下。公儀より十五人扶持被下。常に千石斗のくら」と記されている。

時代は下がるが、安政元年の頃に、尾張藩に仕えた武士の中で、千石以上の知行をもちついていた者が、総勢千三百一十人の中六六人である。大目付、用人クラス以上という役員になる。現在の米の値段十...

それに比べると、能役者の生活が、千石位とは、多過ぎるようである。時代は下がるが、慶応二年(一八六六)、『幕府能役者分限調』(『能楽盛衰記』P132)によると、親世大夫二百五十六石、二百五十四石、金春大夫三百石、二百五十二石、喜多流・喜多六平太二百石、百六十八石、金剛大夫百石、八十四石となる。

「三日雨或止。巳より甚東條事あまたび、未より止。夜時々雨。三日之内大雨ふり、蟻障子もり或極あまり濡る。者多し。惣支度の酒三日に六石入ると。維摩院・定光寺・天王坊・長久寺・建中寺。

相応寺・大森寺・性高院・高岳院・政秀寺。右十ヶ寺。二汁五菜。御通番給仕。大光院・石松寺も右の列なれども今日不出。

「源氏供養」「乱」のシテは、源之丞となつてゐるが、文左衛門自身の前番には、八左衛門となつてゐる。どちらかが間違つてゐるのであろう。番組表の方も知れない。修羅物は、第一日目が「田村」第二日目が「八嶋」、第三日目が「熊」と、勝修羅三番を配してゐる。

尾張藩の能の歴史(十九)

辻 宏 一

小鼓九郎三郎 太鼓伝左衛門 第六郎兵衛 狂言 なべ八はち 忠三郎 大鼓三郎右衛門 小鼓源助 第六右衛門 狂言 止助方角 又七 源氏供養 シテ源之丞(八左衛門) 大鼓三郎兵衛 小鼓喜兵衛 第六郎兵衛 羅生門 シテ伝六 ワキ忠藏 大鼓兵助 小鼓仁左衛門 門 太鼓長藏 笛源右衛門 狂言 つり狐 和泉 丹藏 橋弁慶 シテ八左衛門 子方 大鼓半左衛門 小鼓喜八 笛善右衛門 間狂 狂言 狂言 狂言 乱 シテ源之丞(八左衛門) ワキ庄兵衛 大鼓七左衛門 小鼓喜兵衛 太鼓源兵衛 第六郎兵衛

平成4年11月・12月 放送予定

〔11月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)

15日(日)宝生流「舞丸」松本 恵 雄
22日(日)親世流「花籃」片山九郎右衛門
29日(日)故人をしのんで 森田 光 春 ほか

〔12月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)

6日(日)親世流「朝長」奥 善 助
13日(日)宝生流「正謀」武 田 喜 永
20日(日)親世流「和布刈」井 上 嘉 久
27日 一 休 止 一

●NHK教育テレビ・祝日能

11月23日(月)午前9時~
親世流「通小町」シテ 藤波重和ほか

12月23日(水)午前9時~
親世流「松風」(再放送)
シテ 関根 祥 六
ワキ 森 茂 好 ほか

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

金春流太鼓 名古屋桐葉会創立三十周年 記念能楽囃子大会

十一月二十九日(日)午前九時半始

熱田 神宮 能楽殿

番外 独調 園 橋 梅田 邦久

舞臺子 高 砂 堀 みどり 後藤孝一郎 伊藤 希世
吉野 天人 野田ちづ子 後藤孝一郎 伊藤 希世
玄 象 三 口 謙 介 福井啓次郎 大野 光弘
山 姥 徳田 文代 福井啓次郎 吉野 利子
胡 蝶 稲吉 雅美 河村総一郎 佐藤 良枝
獨調 鞍馬 天狗 豊嶋三千春 秋山美恵子

能 菊 慈 童 飯富 雅介 吉田 定男 二木 和子
後藤孝一郎 須部 美和 河村 博重
後藤孝一郎 高橋 啓一 片山 正邦
後藤孝一郎 須部 美和 片山 正邦
後藤孝一郎 須部 美和 片山 正邦

能 三 輪 石田 紀子 高安 勝久 福井啓次郎 西脇 和子
後見 豊嶋三千春 地謡 小林 忠三 竹市 幸司
塚本 嘉樹 地謡 大管 康治 松野 恭徳
後見 豊嶋三千春 地謡 大管 康治 松野 恭徳

能 舞臺子 羽 衣 富川 千尋 吉田 定男 徳田 文代
和合之舞 柳 北河 節子 吉田 定男 徳田 文代
和合之舞 柳 北河 節子 吉田 定男 徳田 文代

能 遊 行 柳 横山 國枝 福井啓次郎 山田 幸
育仰之舞 豊嶋三千春 石田 紀子
豊嶋三千春 石田 紀子
豊嶋三千春 石田 紀子

能 獨 鼓 (剛)三 笑 竹内 澄子 石田 紀子
一 調 (宝)社 若 宇高 道成 平河 和子
(剛)春日 龍神 浦田 保浩 大津 節子
西川喜代子 飯富 雅介 細野三千代

能 舞臺子 養 老 美濃辺真知子 河村総一郎 小林 富美子
後見 今沢 美和 地謡 後藤孝一郎 伊藤 希世
片山 清司 地謡 須部 美和 河村 博重
後見 今沢 美和 地謡 須部 美和 河村 博重

能 舞臺子 龍 城 沖見 ナカ 吉田 定男 伊藤 希世
後見 今沢 美和 地謡 須部 美和 河村 博重
片山 清司 地謡 須部 美和 河村 博重

能 舞臺子 野 守 井上 苑枝 河村総一郎 伊藤 希世
後見 今沢 美和 地謡 須部 美和 河村 博重
片山 清司 地謡 須部 美和 河村 博重

能 舞臺子 唐 船 佐藤 良枝 河村総一郎 伊藤 希世
後見 今沢 美和 地謡 須部 美和 河村 博重
片山 清司 地謡 須部 美和 河村 博重

郁調会大会

十二月五日(土)午前十時始

熱田 神宮 能楽殿

番外 一調 (剛)響 園 寺 松野 恭徳 前川 光隆
赤頭 片山 清司 豊嶋三千春 金春惣右衛門
白頭 梅田 邦久

半龍石 橋 高安 勝久 河村総一郎 半田 智子
大獅子 後藤孝一郎 伊藤 希世 河村 博重
後見 浦田 保浩 地謡 高橋 啓一 河村 博重
台後見 須部 幸江 前野 郁子 河村 博重
主催 名古屋 桐葉会

能 三 輪 天野 到 本多世史子
後見 豊嶋三千春 地謡 小林 忠三 竹市 幸司
塚本 嘉樹 地謡 大管 康治 松野 恭徳

能 大佛供養 村ヶセ 岡田セツ子 加藤 啓
仕舞 玉 藤 水野 臣子
舞臺子 草子洗小町 鈴木 京子 吉田 定男 大野 誠
鞍馬 天狗 赤尾 正 吉田 定男 大野 誠
法 師 門脇 千鶴 河村 博重 大野 誠
清 門脇 千鶴 河村 博重 大野 誠

能 舞臺子 鶴 亀 門脇 千鶴 河村 博重 大野 誠
後見 今沢 美和 地謡 須部 美和 河村 博重
片山 清司 地謡 須部 美和 河村 博重

能 舞臺子 宮 江川恵美子 鈴木 京子
番外 仕舞 花 後藤孝一郎 伊藤 希世
後見 今沢 美和 地謡 須部 美和 河村 博重
片山 清司 地謡 須部 美和 河村 博重

能 舞臺子 山 姥 赤尾 正 前野 郁子
番外 仕舞 松 赤尾 正 前野 郁子
御来場歓迎

流世宗 剛流本 流元行

檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話 03(3291)2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話075(231)1990 振替京都1-113

能楽の友

発行 能楽の友社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 1000円

郵送の場合 1年 1500円

— 部 90円

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

[平成5年1月]

- 3日(日) 初式 (能楽協会関係者)
- 9日(土) 学生能楽連盟
- 15日(祝) 清瀬会大会 (来場歓迎)(番組②面)
- 30日(土) 青陽会定式能 (有料)(番組②面)
- [2月]
- 7日(日) 宝生会定式能 (有料)
- 11日(祝) 富羅会 (来場歓迎)
- 14日(日) 観世会定式能 (有料)
- 21日(日) 九華会定例能 (有料)
- 27日(土) 三菱重工・自工連合謡曲大会
- 28日(日) 正風会 (来場歓迎)
- [3月]
- 7日(日) 大蔵狂言会 (来場歓迎)
- 13日(土) 名古屋能楽鑑賞会 (有料)
- 14日(日) 三交会 (来場歓迎)
- 19日(金) 四大学交流会 (来場歓迎)
- 20日(祝) 萌福会大会 (来場歓迎)
- 21日(日) 壺泉会大会 (来場歓迎)
- 28日(日) 梅嶺会 (有料)
- [4月]
- 4日(日) 下田雄三郎中部地区連合会 (来場歓迎)
- 11日(日) 観世会定式能 (有料)
- 17日(土) 猪鬃会 (来場歓迎)
- 18日(日) 邦謡会 (来場歓迎)
- 25日(日) 久田観正会 (来場歓迎)
- 29日(祝) 幸友会春の会 (来場歓迎)

(演能変更の節はと了解下さい)

観世寿夫記念 法政大学能楽堂 (第14回)

茂山千之丞氏 受賞 増田正造氏

茂山千之丞氏

法政大学(阿利英二総長)は、昭和五十四年に「観世寿夫記念法政大学能楽賞」を設け、すでに十三回の授賞が行われてきた。本年も各方面の識者により推薦された候補者について、選考委員(観世栄夫、西哲生、馬場あき子、湯川桂一郎、表章の五氏)により慎重に選考された結果に基づき、第十四回の受賞者として、大蔵流狂言方・茂山千之丞氏、武蔵野女子大学教授・増田正造氏を決定した。

授賞式は「梅花賞」(別項)の贈呈式と合わせ、明春一月十九日午後六時から東京・赤坂プリンスホテルで行われる。

〔受賞者〕

増田正造氏

〔授賞理由〕大蔵流狂言役者として、兄千五郎を支えつ、京の狂言に新風を吹き込み、新作狂言「死神」ほかの演出や復曲、他ジャンルとの交流にも精力的に取り組む、また優れた活劇と文才で狂言の普及に大きく貢献している。

〔授賞理由〕茂山千之丞氏は、能と近代文学との接点を広げ、能の歴史を掘り起こすことに多大の功績を挙げ、その功績を顕彰する。能の企画・出版などを通じての普及活動の功績も顕著である。

〔受賞者〕

愛知県芸術劇場落成 記念能公演

能楽協会名古屋支部主催
1月31日大ホールで

愛知県芸術劇場の落成の記念事業「あいちの芸術家たち」シリーズの一環として、能楽協会名古屋支部、愛知県、愛知県文化振興事業団の主催により新春一月三十一日(日)愛知県芸術劇場大ホールで記念能が上演される。

演能は、観世流能「翁」観世流能「吉野天人」天人揃、観世流半能「石橋」大獅子、和泉流狂言「鶏蟹」

〔鶏蟹〕宝生流舞獅子「高砂」観世流舞獅子「玄象」宝生流舞獅子「小袖曾我」

催花賞 前西芳雄氏

〔受賞者〕

前西芳雄氏

法政大学は、昭和五十四年に「観世新九郎家文庫受贈を記念して、昭和六十三年四月に「観世記念法政大学能楽振興基金」を設け、同基金に基づき、事業の一つとして能楽奨励等の功労者を顕彰する「催花賞」を設けているが、その催花賞の第五回の受賞者として、法政大学能楽研究所の推薦に基づき、京都府能楽協会専務理事・前西芳雄(まえにし・よしお)氏を決定した。

岐阜県芸術文化顕彰 小鼓方 後藤孝一郎氏 受賞

12月8日 三百人出席して祝賀宴

岐阜県教育委員会は十一月十六日、芸術文化の各分野で優れた業績を挙げている人に贈る本年度の「岐阜県芸術文化顕彰」に三氏を選定、能楽界から幸清流小鼓方・後藤孝一郎氏(六)が受賞、十一月二十日に県庁で表彰式が行われた。

〔受賞理由〕後藤氏は、後藤氏とともに、川柳作家・野口初枝さん(七)彫刻家・大田和夫氏(六)が受賞している。

〔後藤孝一郎氏〕幸清流小鼓方・職分、昭和二十三年に初舞台。五十二年から岐阜護国神社の「鶴舞能」、六十一年から「長良川新能」を手掛けるなど、また大学能楽クラブ活動を指導、地域の能楽の普及振興に尽力。五十三年には重要文化財総合指定されている日本能楽会員に認定、桂会主宰。住



祝賀会は、岐阜護国神社舞宮町の開会のことばについて、能楽協会名古屋支部西村欽也支部長代理・野村又三郎支部長のあいさつ。岐阜県知事、岐阜市長(代理)の挨拶、岐阜市立女子短期大学学長・岐阜県芸術文化会顧問・小瀬洋喜氏、幸清流家元幸義太郎宗家の祝いのことばが述べられ、祝賀小唄「四海波」を春日文英氏の発声で同時、素囃子「出陣・神舞」(笛・大野誠、小鼓・後藤嘉津幸、大鼓の鬼藤英二、太鼓鬼頭好徳)の上演ののち、桂会代表・高井敏雄氏から記念品を贈呈、花束贈呈があり、受賞者・後藤孝一郎氏から丁寧なお礼のことばが述べられた。能楽協会名古屋支部前支部長・井上松次郎氏の発声で乾杯して開会、祝賀のことばが交わされ、盛会の中締めとして、浅野芳比沙氏の中締めのことばでおひらきになった。

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!
舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。

テレビ放送番組企画制作
テレビCM企画制作
録音ビデオ撮影

ビデオプロダクション 西川企画

名古屋営業所(〒451)名古屋市中区名駅2-20-3輪の内荘 小塚方 ☎(052)571-5816
(〒500)岐阜市北野町20-2 TEL(0582)63-9869

城

割烹・小料理

●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248

株式会社 セントラルパーク

本社 名古屋市東区泉1丁目23-36(NBN泉ビル)

PHONE 052-961-6111
F A X 052-953-2910

芸術院会員に

観世流 梅若恭行氏

日本芸術院(大丸道院長)は十一月二十日、本年度の会員補充選挙を行...

地域文化功労者

中森晶三氏 受賞

全国的にも著名な「鎌倉新能」の創立で知られる観世流シテ方。中森晶三氏は、このたび文部省より「地域文化功労者」として表彰された。

観世寿夫記念

法政大学能楽賞

受賞者の経歴

大蔵流狂言方、日本能楽会会員。大正十二年十月十四日、三代茂山千作の次男として京都市に生まれる。

増田正造氏

武蔵野女子大学教授。同大学能楽資料センター主任。昭和五年一月三日東京に生れる。

前西芳雄氏

京都能楽養成会専務理事。大正十一年一月一日京都市に生まれる。昭和十八年十一月立命館大学...

権藤芳一氏 受賞

これは故飯塚友一郎先生を始め私を導いて下さった能楽界内外の諸先生方ならびに理事皆様のお蔭であること勿論ですが、何よりも...

平成5年1月放送予定

Table with columns for date, program name, and performer. Includes NHK FM 能楽鑑賞 and NHK教育テレビ.

大槻秀夫三回忌追善

名古屋清韻会

Table listing names and roles for the memorial service and the Nagoya Seiryū Kai event.

青陽会定式能(第37期)

Table listing names and roles for the Seiryū Kai formal performance.

能井

Table listing names and roles for the Namiya event.

能三

Table listing names and roles for the Namiya San event.

(当日券 三千円)

廿九日。能三目
翁 シテ新次郎 ワキ岡村半
加茂 兵衛 大鼓半左門 小
鼓源右三門 太鼓十五郎
狂言 獅子島沙門 藤左三門
大鼓源右三門 小鼓源右三
門 小鼓源右三門

尾張藩の能の歴史(三)
狂言 三人不仁 丹藏
大鼓源右三門 小鼓源右三
門 小鼓源右三門

NHK年始特集
1月1日(金) 金春流能「鶴 祭」シテ金春信高
1月2日(土) 大鼓流狂言「千切木」茂山千五郎ほか



大鼓方 河村家の慶事
真之介氏が華燭の典
石井流大鼓方、河村翁一氏、河村真之介氏は、このたび石井流宗家代理・谷口正喜氏夫妻の媒約により、角田源三氏の長女・佳子さんと婚約された。

紅梅記
一身辺雑事、追慕、能。
十月末日から「吉川英治の世界展」が名鉄百貨店で開かれた。
「新平家物語」関係も陳列された。
「能」の歴史をめぐると、吉川英治の父の代から親交があった。約

氏他界する。八十五歳、戦前から戦後にかけて長く、近年に至るまで、「関西に沼あり」と広く能界人の胸に沼氏より先きになくなられた北岸信吉氏(大阪、朝日、同)
沼氏より先き信の孫田光春氏(京都)がなくなられた。八月二三日、くわしくは別号で思い出す。

愛知県芸術劇場落成記念

平成五年一月三十一日(日)
正午開場・午後一時開演
愛知県芸術劇場大ホール

観世流 能
梅田 邦久
後見 小島 雅章
狂言 後見 井上松次郎
宝生流 舞臺子
砂 衣斐 正宣
高 砂 衣斐 正宣
和泉流 狂言
野村 信行 井上礼之助
野村 三郎 松田 高義
後見 井上松次郎 大野 弘之
小袖曾我 戸田 和
竹内 澄子 地謡 衣斐 正宣
胡 蝶 玉井 博祐 地謡 嘉孝 嘉孝

吉野天人

観世流 能
後見 須部 甫 八神 孝充
梅田 邦久 地謡 黒田 幸親
今村 嘉勇
天 鼓 吉川 周子 地謡
東 北 北 元子 地謡
金剛流 仕舞
後見 須部 甫 八神 孝充
梅田 邦久 地謡 黒田 幸親
今村 嘉勇

草子洗小町 和谷 衡市
観世流 仕舞
姥 姥 武田 邦弘
山 姥 武田 邦弘
観世流 舞臺子
象 中川 雅章 吉田 定男
中川 雅章 吉田 定男
金春流 仕舞
衣 衣 前田 茂徳
伊藤 尚三
近藤 幸彦

加藤 春枝
加藤 三津子
加藤 美和子
加藤 恵子

観世流 仕舞
鶴 亀 加藤 春枝
巻 絹 加藤 三津子
赤久田 徹二 高木美智子
西村 欽也 河村真之介
大野 弘之 須部 甫
後見 泉 高橋 謙一 地謡 須部 甫
須部 甫 加藤 保彦 梅田 邦久
(終了 五時頃)
能楽協会名古屋支部
愛知県文化振興事業団 主催

「名古屋能楽鑑賞会」「観世会」「宝生会」と「和泉会別会」
竹尾 邦太郎

「松上・菅野ノ会衆」シテ六郎、師長・文蔵、ワキ・原典見直しの演出という。前は大板屋を出して沙屋とし、シテは杖をつき始(信重)と共に水筒を持った。正先で始、常座程でシテが、膝を着き静かに沙を汲むのがよい。琵琶の名手師長入唐のことを知り、曰く有りげな老夫婦が宿を貸して一曲を所望するところはシテが、へばたたことと、と柱指んで居立ち、右ウケて潮音に耳をそばだて、名器絃上の演奏を促すところが妙。へ玉の小琴を、と師長は実物の琵琶をポロンと掻き鳴らしたが、以下は型のみで笛(市和)がアシライ、その間シテは膝に手を重ねて膝に入った。折から村雨が降り、板屋に苦を暮くところは老夫婦ツマミ高々と離かされた。そして、音色の繊細微妙を慮るシテは余人に非ず、と絃上の演奏を勤める師長。それを手にしてシテはさらりと弾く(型だけ)。その卓抜な技術に渡唐を思い止り、密かに沙屋を出ようとする師長を引き留める老夫婦。その素性を知らずて意図も理解した師長の、恐怖にりか消々しい、アイは武司。立シヤベリの口跡は曲趣に相応しく爽やか。

ワキ旅僧(後に最明寺入道)開。勿体な道行や、シテの掃宅を待った華句、宿を断られ「あら曲もなや」とむととする口吻など、いかにも旅僧に似(やつ)した最明寺を思わせる閑の細心である。一ノ松勾欄に寄り、降り積む雪を松の下枝に見る「ああ、降つたる雪かな」は、辺りに人無きの安堵から、自身の不遇を喩(かこ)つ皮肉混じりの嘆声と聞こえ、蝸之丞、菅野の潤介味を損ねみせる。食前を侮られまいとする武士の矜持で一旦は断つた宿も、妻の口添えで旅僧の後を追うところも、両者の運の微妙が面白く、引き留めるシテの、少々のはつこの悪さも見て、男同志のさこちない初対面の緊張感がよく表現された。粟の粥を勧め、暖をとるのに秘蔵の鉢を切つてくるのにも何やかやと講釈を加える風で、シテが鈍舌になるのも沈黙を恐れたためと思わせる。型では、へ情無しと惜しみしに、と膝を着き、手練の小手で杖を切り落とすのが鮮烈だった。地の、へとても一番に破つて入り、と立って仕方をし、中入はへ御沙汰捨てさせ給ふなど、指ヌと、閉、シテを流し目に見て別れてゆくのが意味あがった。アイ早打・靖治は立シヤベリにも落着きかみえて先が楽し。後ワキは沙門帽子・白綾・白大口・紫水衣と掛絡の気品である。

「紅葉舞」旬の一番、女流四人連れ立ての艶やかである。シテ和、面小面、排大口に赤地紅葉散シ文様唐織傘折。錦秋の装束がうれしい。村雨にかこつけ、床几を立ててワキ権茂・勝久の袂を引く所は、へ恥かしながら、と扇を袖に当てる型だけだが迫り方の途程には思われない元気で元秀本領を兼ねする。語り熱気は閑散の心を動かし、所望で扇を使う。一杯に縦横の動きである。獲物を追う黒頭管絃の黒犬は歯を刺し出して獲物に食らいつく「はり」。「めり」。「はり」。「はり」。「めり」。この辺りは意味深長である。返礼に三年間装束に尻す政頼を、笏で招く開院が、天冠を与えて名残りを惜しむ辺りはまるで「楊貴妃」・見送る善族共の武愚面のオンパレードが楽しかった。(39分・11月23日・和泉会別会)